

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

食と観光で世界を魅了する
「かごしま」の地元定着促進プログラム

平成28年度
事業報告書

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

食と観光で世界を魅了する
「かごしま」の地元定着促進プログラム

平成28年度
事業報告書

目次

巻頭言	4
I 事業協働機関との連携	
1 かがしま学卒者地元定着促進協議会記録	6
2 COC+教育プログラム開発委員会記録	8
3 COC+事業協働機関連絡会記録	13
4 九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016	17
II COC+参画校の事業実績	
1 鹿児島大学	20
2 鹿屋体育大学	29
3 鹿児島国際大学	31
4 志学館大学	38
5 第一工業大学	40
6 鹿児島県立短期大学	44
7 鹿児島女子短期大学	46
8 鹿児島工業高等専門学校	49
III 事業協働機関の主要な取り組み	
1 鹿児島大学	54
2 鹿屋体育大学	64
3 鹿児島国際大学	66
4 志学館大学	70
5 第一工業大学	76
6 鹿児島県立短期大学	79
7 鹿児島女子短期大学	81
8 鹿児島工業高等専門学校	86
9 その他の事業協働機関（鹿児島県・企業団体等）	91
IV 就業支援：地元企業と学生のマッチング	
1 主な合同企業説明会・研究会他	100
2 COC+ワークショップ	103
V 企業及び学生に関する調査	
1 企業訪問による就職状況およびインターンシップ調査	106
2 県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査概要	107
VI 広報活動	
COC+参画校による主な広報活動	118

Ⅶ 資料

1	企業訪問・来訪企業一覧（鹿児島大学）及び県外COC+機関等調査一覧	126
2	平成28年度就職面接会等一覧（鹿児島県雇用労政課）	128
3	県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査 鹿児島県の企業における県内大学生等のインターンシップ受入及び雇用状況アンケート調査票 県内大学生などの就職に関する意識調査票	129
4	かごしまCOC+ホームページ	131
5	「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016」プログラム	132
6	「鹿大ジャーナル」204号 特集「地方創生へ向けての鹿児島大学の使命」	136
7	鹿児島大学COC+パンフレット	138
8	企業説明会などのチラシ	139
9	会議 かごしま学卒者地元定着促進協議会 COC+教育プログラム開発委員会	140
10	連絡先 COC+大学及びCOC+参加校 事業協働機関	142

巻 頭 言

平成28年度は、「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」が2年目を迎え、この事業の3つミッションである地域人材の育成、学卒者の地元への就職支援、既存雇用に加え新規事業の創出による雇用拡大に向けた取り組みが、本格的に始動しました。

COC+事業に参加する大学・短大・高専では、地域人材育成に向けた教育プログラムの実施が順調に進み始め、多彩な授業が提供されました。学外をフィールドにした地域人材の育成も盛んに行われ、より実践的な教育が拡大しています。また鹿児島大学では、地域人材育成プラットフォームを構築するなど、学内における教育改革も加速化しています。企業や自治体においても、大学等の講義に講師派遣を積極的に行うなど、地域人材育成教育に向けて、地域社会と高等教育機関の連携がより一層進んでいると実感しています。

学卒者の地元就職に向けた取り組みも本格化してきました。地元企業と協働して、大学キャンパスを利用した各種合同企業説明会・交流会、OB/OGと学生の交流ワークショップなどの取り組みが、行われるようになってきました。そのような中で、特に好ましい動きとしては、地元で活躍したいという思いの強い学生の活動が、顕在化してきたことです。例えば、学生自身による地元企業情報誌の発行や鹿児島の魅力発信、地元企業人との交流機会の創出などの動きです。

本報告書は、COC+事業協働機関の取り組みを、可能な限り具体的に記載することで、PDCAによるCOC+事業の更なる高度化に向けて、検討できるように工夫しました。

関係の皆様には厚くお礼申し上げますとともに、COC+事業協働機関の協力体制を一層密にして、若者の地元定着に向けた取り組みが加速されることを祈念します。

平成29年3月

かごしま学卒者地元定着促進協議会議長

鹿児島大学長 前 田 芳 實

I 事業協働機関との連携

1 かごしま学卒者地元定着促進協議会記録

平成28年度第1回かごしま学卒者地元定着促進協議会議事要旨

【日 時】平成29年2月3日（金） 14：30～15：30

【場 所】鹿児島大学事務局第三会議室（4階）

【参加者】25名

<議 事>

1. 平成28年度事業報告について

- (1) 平成28年度事業協働機関実績について
- (2) 平成28年度事業目標達成状況について
- (3) 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」について

2. 平成29年度事業計画について

- (1) 平成29年度COC+事業計画骨子（案）について
- (2) 平成29年度かごしまCOC+公開講座企画（案）について

3 その他

<要 旨>

- ・前田議長から、開会のあいさつと協議会役員交代の紹介があり、議事に入った。

1. 平成28年度事業報告について

- (1) 平成28年度事業協働機関実績について、資料1-1と資料1-2によりCOC+推進コーディネーターの遠矢氏から、取り組み状況の概略報告があり、
- (2) 平成28年度事業目標達成状況について、資料2により、平成29年1月現在の平成28年度事業目標達成状況について、COC+推進コーディネーターの遠矢委員から報告があった。
- (3) 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」について、資料3により、調査を受託した株式会社鹿児島TLO 代表取締役 吹留氏から概略報告があり、平成28年度事業報告の3案件について、了承された。

2. 平成29年度事業計画について

- (1) 平成29年度COC+事業計画骨子（案）について、鹿児島大学産学官連携推進センター長の福島氏から説明があった。

冒頭、事業計画骨子（案）については、鹿児島大学が現段階で策定した素案であり、後日COC+参加校やその他企業団体等から計画を提示してもらい、最終的に次年度計画を確定することになる旨を説明した上で、資料4により説明があった。

前田議長から、具体的な事業計画はCOC+教育プログラム開発委員会で協議することになることや、次年度に向けて、協議会委員の協力と理解をいただきながら、事業を推進したい旨の発言があり、平成29年度COC+事業計画骨子（案）は了承された。

2 COC+教育プログラム開発委員会記録

平成28年度第1回COC+教育プログラム開発委員会議事要旨

【日 時】平成28年9月9日（金） 15：00～16：30

【場 所】鹿児島大学事務局第3会議室（4階）

【参加者】15名

< 議 題 >

1. 「COC+参加大学間との共同授業開講」について
2. 「企業人やOB/OGによる授業参観・参加」について

< 報告事項 >

1. 「COC+事業の進捗状況」について
2. 「株式会社鹿児島TLO委託調査（企業調査、学生調査）」について
3. その他
 - (1) 九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016について
10月29日に開催される「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016」の案内
 - (2) インターンシップについて

< 要 旨 >

1 「COC+参加大学間との共同授業開講」について

井上副委員長から、資料1-1・資料1-2・資料1-3により「COC+参加大学間との共同授業」提案概要・趣旨説明及び夏期集中講義である既存の「かごしま教養プログラム」と「COC+参加大学との共同授業」の比較説明があった後、次のとおり意見が出された。

- ・既存のかごしま教養プログラムと期間が重なるので、対象の学生が重なるのではないか。（鹿児島女子短期大学）
- ・COC+参加校との共同授業の開講時期が夏期休業中であることで、新規科目申請に時間を要することから、来年度の参加は難しい。（鹿児島県立短期大学）
- ・現在、夏期休業中にインターンシップがあり夏期休業中では参加が厳しいので春季休業中の開講も視野に入れて欲しい。（鹿児島工業高等専門学校）
- ・県外の学生が多いので夏期休業中は、帰省のため参加が難しい。今年度より実習が必須となったこともあり、参加の有無について配慮して欲しい。（鹿屋体育大学）

これを受け、清原委員長から、10月に開催される県内大学長懇話会で一定の方向性が出れば、実施に向けた検討を進めていく旨発言があり、確認された。

2 「企業人やOB/OGによる授業参観・参加」について

井上副委員長から、資料2-1・資料2-2により企業人やOB/OGによる授業参観・参加に係る提案について説明後、審議の結果、次のとおり意見交換があった。

出された意見と回答（○：意見、◇：回答）

- 大学の特性から基本的に企業に就職する学生が少ないので、OB/OGに依頼することが難しい。（鹿屋体育大学）
- ◇学生が多様な経験をするには、社会で活躍する人との交流が必要であり、OB/OGがいなくてもこの趣旨は伝えていきたい。（井上副委員長）
- 趣旨はいいが、教員の了解を得ること、座学や卒業研究に外部の人が入ることが難しい。実験・実習は可能と思われるが特に座学は難しい。（鹿児島工業高等専門学校）
- ◇環境を整えば実施するということであり、各大学などの実情に応じて進めて欲しい。（井上副委員長）
- ◇出来る所から進めて行くことになる。（清原委員長）
- 大学の主体性に任せて欲しい（鹿児島国際大学）
- 商工会議所の場合、会員企業6000社に案内するのか、若者センターにするのか具体的なイメージがわからない。
- 各大学からそれぞれ依頼が来ると混乱するので一本化して欲しい（鹿児島県商工会議所連合会）

以上の意見を踏まえ、清原委員長から、本提案について、事業協働機関（大学を除く）を通じて各企業へ協力依頼の手続きを進めて行く旨発言があり、確認がなされた。

< 報告事項 >

1. 「COC+事業の進捗状況」について

遠矢委員から、資料3によりCOC+事業の進捗状況の報告があった。

2. 「株式会社鹿児島TLO委託調査（企業調査、学生調査）」について

COC+推進コーディネーターの遠矢委員から資料4-1により企業調査について、牧野鹿児島大学産学官連携推進センター特任助教から資料4-2により学生調査についてそれぞれ説明があった。

また、COC+参加校から学生調査について各校別の集計結果の提示依頼があり、井上副委員長から各校別のデータを提供する旨説明があった。

3. その他

(1) 九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016について

松浦鹿児島大学社会連携課長から、資料5により10月29日に開催される「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016」の案内があった。

(2) インターンシップについて

鹿児島工業高等専門学校から、COC+参加大学で地元へのインターンシップの報告会など情報共有について要望があった。

鹿児島県商工会議所連合会から、インターンシップの各大学などの受入窓口の明示及び、インターンシップの実施状況などの情報共有について要望があった。

これに対して、清原委員長より、各大学の状況を整理して情報提供していく旨発言があった。

(以上)

平成28年度第2回COC+教育プログラム開発委員会議事要旨

【日 時】平成29年2月3日（金）15：45～17：10

【場 所】鹿児島大学事務局第三会議室（4階）

【参加者】14名

<議 事>

- 1 平成28年度COC+教育プログラムにおける進捗状況について
- 2 平成29年度かごしまCOC+公開講座について
- 3 COC+教育プログラム修了証について
- 4 平成28年度事業目標達成状況について
- 5 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」について
- 6 平成29年度COC+事業実施計画骨子（案）について
- 7 その他

<要 旨>

1. 平成28年度COC+教育プログラムにおける進捗状況について
井上副委員長から、資料1により平成28年度の各大学における人材育成のための取組み及び就職支援等に係る取組状況の概略説明があり、議事1については承認された。
2. 平成29年度かごしまCOC+公開講座について
清原委員長から、平成29年度かごしまCOC+公開講座の実施計画について諮られ、井上副委員長から、資料2により公開講座の目的及び概要の説明があった後、次のとおり意見交換があった。

出された意見と回答（○：意見、◇：回答）

- 高校生に向け、地元の良さを伝え、鹿児島を将来若者が支えていくという意識を持ってもらいたい。そのために、保護者ならびに高校の教員へ向けでも公開講座の案内が大切であるので、お願いしたい。（鹿児島県商工会議所連合会）
- ◇地元で活躍したいと考えている高校生ならびに教員に対して公開講座においてCOC+事業の紹介を積極的に行っていく。

これを受け、清原委員長から、実施に向けた検討を進めていく旨発言があり、承認された。

3. COC+教育プログラム修了証について

清原委員長から、COC+教育プログラム修了証について諮られ、井上副委員長から、資料3及び参考資料1により、鹿児島大学における「かごしまキャリア教育プログラム」修了証明書（仮称）の発行基準、修了証（イメージ）等について説明があった。続いて、同様の修了証の発行を予定している鹿児島女子短期大学から、参考資料2により鹿児島女子短期大学の認定証

発行における内容の概略説明があり、30年度卒業生から認定証を発行する予定であるとの説明があった。加えて鹿児島国際大学の久保委員から、同大のCOC教育プログラム履修者への修了書の発行に係る検討状況について説明があった。

さらに、井上副委員長から、鹿児島大学、鹿児島国際大学及び鹿児島女子短期大学における地域人材育成のための教育プログラム修了学生及びその他のCOC+参加校の卒業生に対して、企業等が、若者の地元就業を推進するため一定の配慮・協力をしてくれる様依頼する文書を送付する旨の発言があった。

協議の結果、次のとおり意見交換があった。

出された意見と回答（○：意見、◇：回答）

- 参加企業において、このプログラム修了者には一定の配慮をして頂きたい。ただ単位をとって認定証を出すのではなく、プログラムに積極的に参加している学生を登録制にして、認定し自信を持って送り出す。COC+参加校の学生全体に対しての依頼というのはいかかなものか。認定証を出す大学において配慮してもらう方がいいのではないか？（鹿児島国際大学）
- 企業がいかに修了証を評価するかが重要である。認定証を持った学生が、卒業するまでに、企業が一定の認識と評価をする環境を作って欲しい。（鹿児島県観光連盟）
- ◇プログラム中の学習の成果を可視化して、学生の質の評価に伴うよう検討する。（清原委員長）
- 履歴書にプログラムの修了した事を記載することで、就職試験の面接時に有効かと思われるので是非大学側で指導して欲しい。（鹿児島県商工会議所連合会）
- 今まで修了証の発行は考えていなかったが、今後検討していこうと思った。実際の就職試験の際に修了証の要件を履歴書に書くことができるということは、大学での体験が増え、良い結果に繋がる。（志学館大学）
- 学生には、単位修得だけでなく、意識をもって取り組んで欲しい為、「地域人材プログラムノート」を作成し、フィールドワークとプログラムを3～4年間を通して書く事としている。3年次には、就職活動に有効となるように修了見込証明書を出す予定にしている。（鹿児島国際大学）

これを受け、清原委員長から、地域人材育成教育プログラム修了証を取得した学生に対する企業の採用選考等におけるインセンティブの付与に向けて、企業等における協力を含め、今後関係者間で具体的な対応について協議していく旨発言があった。

4. 平成28年度事業目標達成状況について

COC+推進コーディネーターの遠矢委員から、資料4により平成28年度事業目標に係る進捗状況について、報告があった。

5. 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」について

（株）鹿児島TLOの代表取締役 吹留氏から、資料5により「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」の結果概要について報告があった。

出された意見と回答（○：意見、◇：回答）

- 1、2年生にも同様にアンケートを実施したので、総合的に分析するため、学生調査の生データが欲しい。（鹿屋体育大学）
- ◇後日データを送付したい。（井上副委員長）

6. 平成29年度COC+事業計画骨子（案）について

清原委員長から、平成29年度COC+事業計画骨子（案）について諮られ、福島委員から、資料4により説明があり、原案どおり了承された。

（以上）

<配付資料>

- 資料1 平成28年度COC+事業協働機関（大学・高専）の取組状況
- 資料2 平成29年度かごしまCOC+公開講座企画（案）
- 資料3 COC+教育プログラム修了証の取扱いについて
- 資料4 平成28年度事業目標達成状況（平成29年1月現在）
- 資料5 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」報告

- 参考資料1 「かごしまキャリア教育プログラム」修了証書の発行指針（素案）
- 参考資料2 COC+認定証についての指針（1月末現在、COC委員会で検討中）
（鹿児島女子短期大学）



3 COC+事業協働機関連絡会記録

平成28年度第1回COC+事業協働機関連絡会要旨

【日 時】平成28年4月27日（水）15：00～17：00
 【場 所】鹿児島大学産学官連携推進センター セミナー室
 【参加者】21名（大学・短大・高専関係者）

1. 挨拶：鹿児島大学産学官連携推進センターCOC+推進部門長 井上佳朗

2. 議事

- (1) 今年度の取り組みについて
- (2) 意見交換
 ・インターンシップの現状と課題



<要 旨>

第1回COC+事業協働機関連絡会には、大学、短大、高専のコーディネーターや就職支援の関係者が出席して、平成28年度の予算執行計画や事業の取り組みについて、情報の共有化を図った。

- ・インターンシップには、長期実践型や短期で単位にならないもの、1年生から実施するもの等、色んなタイプがあること。
 インターンシップを引き受けする企業の多くは、キャンパスウェブに登録しているとのことであった。
 鹿児島大学では、インターンシップを行う学生が昨年度の1.5倍に増えたとし、2回受ける学生もいるとのことであった。
- ・就職支援については、企業説明会の情報交換および平成27年度の学卒者の県内就職数は連休明けに明らかになるので、各校に問い合わせして実数を把握することになった。
- ・その他、鹿児島大学及び鹿児島国際大学と鹿児島商工会議所との包括連携協定について説明があった。
- ・COC+事業行程表を基に事業管理に努めて欲しいとCOC+参加校に要望した。

平成28年度第2回COC+事業協働機関連絡会要旨

【日 時】平成28年6月23日（木）15：00～17：00
【場 所】鹿児島大学学習交流プラザ2F 学習交流ホール
【参加者】30名

1. 挨拶 鹿児島大学産学官連携推進センター長 福島誠治
2. 議事
 - (1) 平成28年度事業計画等について
 - (2) 企業説明会、合同就職面談会の開催やインターンシップ等について
 - (3) 新規雇用創出について
 - (4) その他
 - ・鹿屋体育大学の財宝産学連携寄附研究講座について
 - ・アンケート調査への協力について
3. 閉会挨拶 鹿児島大学産学官連携推進センター COC+推進部門長 井上佳朗

<要 旨>

COC+事業協働機関の企業団体の機関は、総会時期で多忙な時期ではあったが、多くの機関が出席し、合同就職面談会やインターンシップなど事業計画の説明と意見交換を行った。

企業説明会、合同就職面談会の開催日やインターンシップについて情報交換した。

新規雇用創出には、自治体や産業支援機関の協力が不可欠なこと、学卒者の3年未満の離職率が高いことについて、学生と企業のミスマッチをなくする努力が必要であるとの意見が出た。



平成28年度第3回COC+事業協働機関連絡会要旨

【日 時】平成28年8月23日（火）15：00～17：00
 【会 場】鹿児島大学産学官連携推進センター セミナー室
 【参加者】17名

1. 挨拶 鹿児島大学産学官連携推進センター COC+推進部門長 井上佳朗
2. 議事
 - (1) 平成28年第1回COC+教育プログラム開発委員会に諮る議題について
 - (2) COC+参加大学間との共同授業の開講について
 - (3) 企業人やOB/OGによる授業参観・参加について
 - (4) その他

<要 旨>

- ・企業調査（アンケート）と学生調査（アンケート）について
- ・今後の予定について
 - 9月9日（金）平成28年第1回COC+教育プログラム開発委員会
 - 10月4日（火）学長懇話会
 - 10月29日（土）九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016
- ・COC+参画大学間との共同授業の開講について
 時期は夏休み、4日間、2単位。200人を見込む。対象はCOC+参画校8校
- ・企業人やOB/OGによる授業参観・参加について
 企業経営者に授業への参加、協力の依頼文を出す。

以上については、COC+教育プログラム開発委員会に協議事項として諮ることになった。

- ・企業調査、学生調査について、参加校にアンケートの協力をお願いした。
- ・冊子（企業ガイドブック、かごしまの職場119社）を、参加校に配布した。

平成28年度第4回COC+事業協働機関連絡会要旨

【日 時】平成29年1月20日（金）15：00～17：30

【場 所】鹿児島大学事務局第三会議室

【参加者】37名

1. 挨拶 鹿児島大学産学官連携推進センター COC+推進部門長 井上佳朗

2. 議事

- (1) 平成28年度事業協働機関の取組状況報告
- (2) 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」結果
- (3) COC+事業協働機関（団体等）紹介冊子作成について
- (4) その他
 - ・平成28年度事業目標達成状況
 - ・平成28年度COC+活動報告会について
 - ・COC+教育プログラム修了証の取り扱いについて
 - ・サテライトオフィス設置の検討
 - ・企業訪問バスツアーの提案

3. 話題提供 『鹿児島における雇用・失業情勢について』

鹿児島労働局職業安定部地方訓練受講者支援室 室長 大堀明人氏

<要 旨>

- ・COC+事業協働機関（団体等）紹介冊子を作成することになった。
- ・平成28年度COC+活動報告会（仮称）を開催することについて承諾が得られ、平成29年度に実施することになった。
- ・COC+教育プログラム修了証の取り扱いについて、COC+事業協働機関の企業団体への協力を要請した。
- ・サテライトオフィス設置の提案について、今後協議することになった。
- ・企業訪問バスツアー実施の提案について、COC+事業協働機関（企業・団体）に協力を要請した。
- ・COC+事業の推進には、鹿児島労働局との連携が不可欠であり、今後連携を深化させることになった。

4 九州沖縄COC/COC+合同シンポジウム IN 鹿児島2016

- 【日 時】平成28年10月29日（土） 12：30～18：00
 【場 所】鹿児島大学 稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール
 【参加者】205名（一般市民、学生、自治体関係者、企業及び企業団体関係者、大学関係者等）

<内 容>

COC事業及びCOC+事業の地方創生に果たす役割を再確認するとともに、様々な取り組みを共有することにより、「地（知）の拠点大学」として各大学等の在り方について議論した。

<プログラム>

1. 主催者あいさつ……………鹿児島大学長 前田 芳實氏
2. 来賓あいさつ……………鹿児島県知事 三反園 訓氏
3. 基調講演……………内閣府地方創生推進室次長 塩田 康一氏
「地方創生への取り組みと今後の方向性」
4. 事例発表
 - <大学が変わる> 「大学COC事業から地域を志向する新学部設置へ」
宮崎大学 みやだいCOC推進室長 國武 久登氏
 - <学生が動く> 「かごんまのよかところ発信プロジェクト」
鹿児島大学 法文学部三年生 若松 香澄氏
 - <地域が紡ぐ> 「産学官連携による地域の人材育成について」
九州インターンシップ推進協議会事務局書記 斎藤 拓 氏
5. 分科会
 - 第一分科会「大学が変わる」 座長：富永茂人氏（鹿児島大学）
話題提供者：石川雄一氏（大分大学）、伊藤奈賀子氏（鹿児島大学）
三島伸雄氏（佐賀大学）、枚田邦宏氏（鹿児島大学）、影山隆之氏（大分県立看護科学大学）、遠藤光男氏（琉球大学）
 - 第二分科会「学生が動く」 座長：牧野暁世氏（鹿児島大学）
話題提供者：岡部由紀夫氏（西九州大学）、吉村充功氏（日本文理大学）、中谷賢人氏（愛媛大学3年生）、高橋空雅氏（北九州市立大学3年生）
 - 第三分科会「地域が紡ぐ」 座長：井上佳朗氏（鹿児島大学）
話題提供者：日高政勝氏（さつま町長）、田中ひろみ氏（北九州市立大学）、大久保幸夫氏（鹿児島国際大学）、鶴ヶ野未央氏（(株)九州タブチ）

6. パネルディスカッション

「大学が変わる×学生が動く×地域が紡ぐ=地方創生」

<パネリスト>

- 塩田 康一氏（内閣府地方創生推進室次長）
- 國武 久登氏（宮崎大学 みやだいCOC推進室長）
- 神代 眞宏氏（九州インターンシップ推進協議会事務局長）
- 若松 香澄氏（鹿児島大学 法文学部三年生）

<コーディネーター>

- 出口 英樹氏（鹿児島大学かごしまCOCセンター特任准教授）

7. 閉会あいさつ……………鹿児島大学産学官連携推進センター長 福島誠治氏

<内 容>

シンポジウムは、前田学長の挨拶に続き、三反園知事の挨拶（副知事 小林洋子氏による代読）があり、基調講演では塩田氏から、「しごと」と「ひと」の好循環作りとして地方大学等の活性化、地方での人材育成と雇用対策、地域産業の競争力強化等の施策についての紹介と鹿児島の産学官連携や企業の活動事例を取り上げ、地方の活躍に期待しているとの激励があった。

事例発表では、國武氏が「地域資源創成学部」の設置と全学を挙げた地域志向教育改革について、若松氏が鹿児島の魅力を発見し就活や働くことを身近に感じてもらうプロジェクトについて、斎藤氏が地域をあげての人材育成の組織運営の仕組みとインターンシップ等について発表した。

分科会では、事例発表と関連して、第一分科会では大学（組織）改革、教育（カリキュラム）改革、地域貢献活動について、第二分科会では「学生が主体的に動くにはどうしたら良いか」について、第三分科会では地元自治体と大学との協働や企業における人材育成、学生の地元定着について討議した。

パネルディスカッションでは、基調講演、事例発表、分科会での話題を受けて、大学の地域志向人材育成、教育カリキュラム改革、学生の地域貢献意欲醸成、インターンシップの在り方、地元企業の受け入れ体制等について総合的な討論を行った。



Ⅱ COC+参画校の事業実績

1 鹿児島大学

実施計画 ①

本補助事業推進のための必要な人員配置（COC+推進コーディネーター等）を行う。

具体的な実施項目	実績
COC+推進部門スタッフ配置【全体】【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・特任教授（教育プログラム担当）1人、特任助教（学生支援コーディネーター）1人、特任専門員（事業担当職員）1人、非常勤職員1人及びCOC+推進コーディネーター1人を配置した。 ・平成27年度に引き続きスタッフを配置し、平成28年度の本格始動に向けた体制を整え、以下に記した取り組みを精力的に行った。 ・産学官連携推進センター及びかごしまCOCセンター教員との連携協働を図った。 ・特任教授が全学教務委員会、教育センター会議に、特任助教が全学就職委員会委員として参画し、全学的に連携する体制が構築された。

成果

COC+推進コーディネーターを中心にCOC+参加校をはじめとする事業協働機関とのネットワークが強化され、学卒者の地元就職促進に向けた共通の課題の把握と解決策を検討することができ、本補助事業の効果的な推進が可能となった。

注：鹿児島大学においては、実施計画中で「COC+かごしまキャリアプログラム」と記載されている名称は平成28年度に共通教育センターにおいて「かごしまキャリア教育プログラム」と名称変更することとなり、実績及び成果においては、COC+を除いた名称が使われています。

実施計画 ②

学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの連絡会を定期的に行い、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討について事業協働機関間で協議する。またCOC+大学及び各COC+参加校においても個別に委員会等を開催する。

具体的な実施項目	実績
かごしま学卒者地元定着促進協議会 ※年2回程度開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 2月3日 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度事業報告について 2 平成29年度事業計画について
COC+教育プログラム開発委員会 ※随時開催【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 9月9日 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1 COC+参加大学間との共同授業の開講について 2 企業人やOB/OGによる授業参観・参加について ・第2回 2月3日 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度COC+教育プログラムにおける進捗状況について 2 平成29年度かごしまCOC+公開講座について 3 COC+教育プログラム修了証について 4 平成28年度事業目標達成状況について 5 「県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査」について 6 平成29年度COC+事業実施計画骨子（案）について 7 その他
COC+事業協働機関連絡会【全体】 ※COC+推進コーディネーター主宰 ※年4回程度開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 4月27日（COC+参加校間） インターンシップの現状と課題、就職支援の取り組み状況について ・第2回 6月23日（事業協働機関全体） <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度事業計画の進捗状況について 2 その他 ・第3回 8月23日（COC+参加校間） COC+教育プログラム開発委員会にかけの協議について ・第4回 1月20日（事業協働機関全体） <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度事業協働機関の取り組み状況 2 県内企業と県内学生の就職、インターンシップに関する調査について 3 話題提供 鹿児島における雇用・失業情勢について

成果

COC+推進コーディネーターが主宰するCOC+事業協働機関連絡会を通じて、学卒者の地元就職促進に向けた地域課題の掘り起こしと必要な教育プログラム、インターンシップや就職支援のあり方について、実務者レベルで情報共有や協議を定期的に重ねることができた。またCOC+事業協働機関連絡会での検討結果を踏まえ、COC+教育プログラム開発委員会及びかごしま地元定着促進協議会において、必要な事業計画等について審議を行い、迅速な事業の推進が図られた。

実施計画 ③

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」において、「地域就業キャリアデザイン」の後期開講及び地域就業力科目群の編成並びに「地域キャリア実践演習」のプログラム構築に向けた検討を行う。加えて、同プログラムに参画する教員によるFD活動を定期的に行う。また、COC+参加校においては、キャリア教育の整備充実及び見直しに向けた検討を行う。

具体的な実施項目	実績
「地域就業キャリアデザイン」の開講【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・事業協働機関から、鹿児島県企画部次長、鹿児島銀行地域開発部調査役が「地域就業キャリアデザイン」の指導助言者として参画した。加えて、地元企業の人事担当者4名、若手社員4名が指導助言者として参画した。
受講学生の確保【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・受講学生へのインセンティブとしてTOEIC受検料全額補助の措置をとった。 ・「かごしまキャリア教育プログラム」の実施に向けて教育担当理事、COC+推進部門教育プログラム担当特任教授が8学部長の元を訪れ直接事業説明と協力要請を行った。 ・受講生確保に向けた全学説明会の開催を実施した（特に法文学部・農学部・水産学部については重点的に説明会を開催）。
COC+関係教員によるFD【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前：定期的（毎週1回）にCOC+教育関係教員（産学官連携推進センター及びかごしまCOCセンター教員）が集まり、「地域就業キャリアデザインの後期開講に向け授業実施手順書及びワークシートや教材の作成、ポートフォリオの活用に向けてFDを行った。 ・授業開始後：授業を円滑に進めること及び次年度に向けた改善のために定期的（原則毎週1回）にFDを実施した。 ・授業効果と教育プログラム効果を測定するため、授業開講時と終了時点において受講学生に対して就業意向調査を実施した。
「地域就業力科目群」「地域マインド科目群」の編成【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の該当科目担当教員に依頼して「地域マインド科目」（30科目）、「地域就業力科目」（39科目）登録への協力を要請して了解を得て「地域就業キャリアデザイン」受講生にアナウンスした。
地域就業力・コア授業科目開設準備【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から開講予定の地域就業力・コア科目「企業活動の基礎」の講師について地元で活躍する企業から6名を確保した。
COC+参加大学間における共同授業の検討【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+参加大学間で地域志向教育プログラムの共同実施について提案し、COC+教育プログラム開発委員会等で協議し、平成30年度に開講することを確認した。 ・共同授業の実施に先駆け、平成29年度に「かごしまCOC+公開講座（仮称）」をCOC+参画8大学等で協働実施することが確認した。

成果

- ・COC+大学の「かごしまキャリア教育プログラム」のスタートアップ科目「地域就業キャリアデザイン」に係る授業実施手順書及びブルーブック、ワークシート、教材を作成することで、円滑な授業の実施につながった。履修学生の地元就業に対する関心の向上と地元でのキャリアデザインのイメージ構築が図られた。
- ・COC+教育担当教員による定期的なFDや事業協働機関との連携協働により、授業を円滑に進めること及び次年度に向けた改善策の検討ができた。特に、アクティブ・ラーニングを効果的に展開する上で有用なツールとしてカードゲームを開発したことにより今後の授業の充実が図られる。
- ・平成29年度に向けて、学内のCOC+事業への理解が深まり、「かごしまキャリア教育プログラム」を構成する「地域マインド科目群」「地域就業力科目群」が効果的に編成できた。加えて事業協働機関との連携により、「地域就業キャリアデザイン」に鹿児島県や地元企業から指導助言者を派遣してもらうことで、地域とつながる授業の展開が可能となった。
- ・平成29年度開講の地域就業力コア科目「企業活動の基礎」においても地元で活躍する企業から指導助言者の確保ができたことで、学生が鹿児島での活躍の可能性を理解し働くことの意欲を高める効果的な授業が可能となる。
- ・平成29年度に「かごしまCOC+公開講座（仮称）」を実施することが確認されたことにより、COC+大学及びCOC+参加校共同による地域志向授業の共同実施の基盤づくりができた。

実施計画 ④

事業協働機関（企業団体等）とともに、COC+大学は「COC+かごしまキャリア教育プログラム修了証明書（仮称）」の発行による学卒者の地元企業就職へのインセンティブに係る検討を行い、鹿児島国際大学においては、教育プログラム履修学生への修了書について、地元への就職に役立つよう認知度の向上を図る。

具体的な実施項目	実績
証明書の発行基準（企業団体等との調整）等の検討【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月5日 県内企業人事担当者との協議において「かごしまキャリア教育プログラム修了証明書（仮称）」が学生の就職活動時のインセンティブを高める方策について意見交換した。 ・ 地域企業訪問（70社）時に「かごしま教育プログラム修了証明書（仮称）」について周知を図った。 ・ 第2回 COC+教育プログラム開発委員会（2月3日）において、鹿児島大学、鹿児島国際大学及び鹿児島女子短期大学のCOC+教育プログラム修了証発行基準等について説明し、採用活動時の配慮措置について事業協働機関（企業団体等）構成企業へ協力依頼することを確認した。

成果

COC+大学の「かごしまキャリア教育プログラム修了証明書（仮称）」の発行基準案を策定した上で、事業協働機関（企業団体等）を通じて、地域企業等への採用活動における配慮措置について依頼することが、COC+教育プログラム開発委員会において確認された。このことによって、採用する企業側の面接時における配慮がなされることや、インターンシップ受入の拡大が期待され、結果的に学生の地元就職に対するインセンティブの向上にもつながる。

実施計画 ⑤

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」に係る長期インターンシップの実施について、事業協働機関（県、企業団体）や地元企業との調整を行い、実施計画骨子を策定し、受入企業の開拓を図る。またCOC+参加校を含め、事業協働機関（県・企業団体等）と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備を図る。

具体的な実施項目	実績
<p>「地域就業インターンシップ」の実施方針策定・実施計画案策定 【鹿大】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+推進コーディネーターを中心に、県内企業・自治体を訪問し「かごしまキャリア教育プログラム」における長期インターンシップ受入先確保に向けて協力を依頼した（訪問実績は「県内企業訪問」欄参照）。 ・自治体用インターンシップのモデルを作成し、平成29年度試行への準備を開始した。 ・自治体におけるインターンシップの受入については、平成30年度の本格的な実施に向け鹿児島市へ協力を依頼し、現在平成29年度の試行に向けて調整した。 ・企業等における長期インターンシップ実施モデル（案）を策定し、平成29年度試行に向けた具体的実施計画案策定を検討した。
<p>その他インターンシップの拡充整備【全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿児島県の企業における大学生等のインターンシップ受入及び雇用状況調査」と「学生の就職活動における情報活用に関する調査」を実施し、企業の学卒者採用やインターンシップに関するニーズや課題等、学生の就職活動における意識や情報源等の実情の把握を図った（⑦で再掲）。 ・調査結果については、COC+参加校にも提供し情報の共有化を図った。 ・COC+推進コーディネーターの企業訪問を通じて得られたインターンシップの現状やニーズ等についてCOC+参加校へ情報提供を行った。 ・企業については鹿児島銀行と連携して1月開催の「地元企業との意見交換会」を学生目線で実施するために、企画・立案・広報等を学生自身が提案するPBL型のインターンシップとして実施した。

成果

COC+大学の「かごしまキャリア教育プログラム」に係る長期インターンシップの受入先確保に向けて、COC+推進コーディネーター等が地域企業や自治体訪問を通じて、ニーズや実施上の課題を確認したことによって、実施モデル作成に必要な情報を得ることができた。

また、長期以外のインターンシップについても、COC+推進コーディネーターがCOC+参加校へ適宜企業の情報を提供するとともに、「鹿児島県の企業における県内大学生等のインターンシップ受入及び雇用状況調査」と「県内大学生等の就職に関する意識調査」の結果を共有することにより、インターンシップの拡充と改善に寄与することが期待される。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
商工会議所ほか、関係自治体、ハローワーク等との連携によるセミナー等の開催 【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月7日 事業協働機関である鹿児島商工会議所連合会との包括連携協定を締結した。 ・ 事業協働機関との連携協働による地元就職支援イベントを実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 6月25日 鹿児島商工会議所との連携により、県内企業による「合同就職面談会&就職講座」を鹿児島大学構内で開催した（県内企業105社 参加）。 2) 1月28日 鹿児島銀行との連携により、「地元企業との意見交換会」を開催し、県内企業46社と学生（学部1年～修士1年）約270人が参加した。 ・ 5月21日 COC+ワークショップ「活躍する卒業生からのメッセージ～大学時代に学んでおくこと～」を開催した（学生17名、OB/OG8名、教員5名 参加）。 ・ 10月27日 日本証券業協会から講師を招聘し、鹿児島で生活する際のマネープランニングセミナーを開催した。
鹿児島労働局との連携 【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内就職増に向けて、鹿児島労働局の「政労使会議」へのオブザーバー参加をはじめ、県内の雇用労働環境の情報共有を図るとともに、県内の雇用・労働環境の向上に向けて連携強化を図った。
学生支援コーディネーター就職支援センター室での業務 【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生支援コーディネーターによる相談窓口を設置し、地元就職相談対応をした。 また、学生と連携して地元就職に係る就職支援イベントを実施し、学生目線での学生に対する地元就職意識の啓発を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 10月22日「地元のHOTな先輩と語る場①」 2) 10月28日「本音の就職活動」 3) 11月26日「地元のHOTな先輩と語る場②」 4) 12月14日「地元のHOTな先輩と語る場③」 5) 1月21日「地元のHOTな先輩と語る場④」
企業情報のデータベース制作 【鹿大】 （鹿児島若者就職サポートセンター作成の求人情報冊子改良版制作提案等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職支援センターのホームページ内に、県内企業に関するホームページを新たに作成したほか、学生と協働して県内企業情報冊子を制作した。

成果

鹿児島商工会議所や鹿児島銀行と連携協働して、地元企業と学生（学部1年～3年）との交流機会を鹿児島大学内で設定することにより、学部3年生の地元就職促進とともに、学部1～2年生に対する地元就職志向の意識醸成に寄与した。合わせて、地元企業の学卒者採用に対する動機づけにもつながった。また、鹿児島県内の雇用等の労政を担う鹿児島労働局と新たに連携することにより、県内の雇用状況の把握が可能となるとともに、県内企業の雇用・労務環境の改善に向けて連携協働が図られることで、本補助事業の推進に寄与すると思われる。

また、学生支援コーディネーターによる地元就職相談窓口の設置や県内企業情報提供の充実により、きめの細かい就職支援につながった。加えて、学生との連携による地元就職支援イベントの企画実施によって、学生の地元就職意識醸成の促進が期待される。

実施計画 ⑦

平成27年度県内雇用・経済動向、就職や企業立地・誘致・起業に関する調査結果の事業協働機関へのフィードバック並びに県内雇用・経済動向、就職や企業立地・誘致・起業に関する追跡調査及び学生・保護者及び企業等へのアンケート調査・ヒアリングを実施する。

具体的な実施項目	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業の学卒者採用やインターンシップ受入等に係る意向及び実態調査の実施 ・県内企業就職に係る学生のニーズ調査 【全体】	<p>鹿児島県内企業の学卒者採用及びインターンシップ受入状況や求める人材のニーズ、学生が求める企業情報や情報源等を把握するため、COC+参加大学とその他事業協働機関の連携により、「鹿児島県の企業における大学生等のインターンシップ受入及び雇用状況調査」及び「県内大学生等の就職に関する意識調査」を実施した（企業：237件／1270件 回収率18.7%、学生：3958人／7413人 回収率53.4%）。</p>
県内企業訪問 【全体】	<p>COC+推進コーディネーター等が、県内企業等の学卒者採用意向・実績、インターンシップ受入意向・実績及び求める人材等についての把握と、学卒者採用及びインターンシップ受入等を要請するため、県内企業71社（金融保険11、情報通信7、サービス4、医療福祉3、不動産賃貸3、卸小売5、インフラ4、製造業30、技術サービス1、複合サービス2、その他1）及び自治体5市町（鹿児島市、薩摩川内市、日置市、さつま町、肝付町）を訪問した。</p>
学生向けアンケート 【鹿大】	<p>就職支援センターと連携して、「就職先希望アンケート」を学部3年生と修士課程1年生に対して実施（回答288人）し、就職先地域について出身県と現時点で希望している就職先地域の相関や就職に対する意識等の状況を把握した。</p>

成 果

平成27年度に実施した「鹿児島県の最新雇用・経済動向等調査」結果に続いて、平成28年度に実施した地域企業向けと学生向けの網羅的な調査結果によって、鹿児島地域における企業の学卒者採用やインターンシップ受入等に係るニーズや課題等と、学生が就職活動において求める情報及び情報源など情報活用の現状の把握ができたことにより、平成29年度以降の本補助事業における教育プログラム（インターンシップ等）のほか、就職支援セミナーの企画や企業情報提供の改善充実につながった。

実施計画 ⑧

シンポジウムやセミナー等の開催並びにホームページによる情報発信等を積極的に行う。

具体的な実施項目	実績
九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムの開催【全体】	10月29日 九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016「COCとCOC+が拓く地方創生と大学改革」を開催し、学内教職員・学生のほか、事業協働機関関係者、九州・沖縄地区大学関係者等約200名が参加した。
COC+事業のPR（受験生向け広報等）【鹿大】	<ul style="list-style-type: none"> ・8月5日 オープンキャンパス保護者向け説明会において「かごしまキャリア教育プログラム」について広報を行った。 ・鹿児島大学広報誌「鹿大ジャーナル」204号（平成29年3月号）特集においてCOC+事業を紹介した。
ホームページ【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにおいて、随時取組の紹介や各種情報を発信した。 ・ホームページの機能強化を行ない、事業協働機関との情報共有を推進するとともに情報発信力を高めた。

成果

九州・沖縄COC / COC+合同シンポジウムの開催により、事業協働機関をはじめ、県内外に対するCOC+事業の広報を幅広く行うことができた。また県内外とのネットワーク強化にもつながり、大学関係者を中心に事業の取組や課題へのアプローチ等を共有した。このことによりその後の事業推進に寄与することができた。加えてホームページ等による取組状況の随時発信や、大学広報誌の特集掲載を通じて、学内教職員・学生や、新入生・その保護者、事業協働地域内外へ幅広く事業の広報が展開できた。

実施計画 ⑨

事業報告書等を作成し、外部評価を実施する。また、一部のCOC+参加校においては、事業報告会を開催する。

具体的な実施項目	実績
事業報告書【全体】	事業報告書を刊行した。
外部評価委員会【全体】	3月21日 4人の外部有識者によるCOC+外部評価委員会を開催する。

成果

事業報告書等の作成による事業協働地域内へ取組状況のフィードバックを通じて本補助事業の理解が促進されるとともに、外部評価の実施を通じて、平成29年度以降の事業の円滑かつ効果的な推進につながる。

実施計画 ⑩

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。

具体的な実施項目	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿児島大学認定コーディネーター制度」及び産業支援コーディネーターとの連携や、鹿児島県等との連携による地域産業の活性化及び新規事業創出に向けた取組の推進 ・大学発ベンチャーの支援及び連携 <p>【全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用創出及び既存雇用拡大に向けた取組の推進に向け、鹿児島県産業立地課から誘致企業や既存事業拡大に係る情報提供を受け、学卒者の雇用の可能性を調査した。 ・「鹿児島大学認定コーディネーター」と連携して地域企業訪問を行い、地域企業のニーズの把握及び研究シーズとのマッチングを図った。 ・鹿児島県と連携して「鹿児島県地域産業高度化産学官連携協議会」を設立し（12月26日）、県内の産学官が連携して、組織間横断による地域企業のニーズの掘り起こし、研究シーズとのマッチング、国の大型プロジェクト予算獲得支援や、事業化に向けた支援のための基盤を整備した。 ・大学発ベンチャー支援の一環として、「国立大学法人鹿児島大学発ベンチャー認定及び支援に関する規則」を制定し、「鹿児島大学認定ベンチャー」の称号記の授与と事業化推進のための支援を行っていく制度を整備した。

成 果

鹿児島県や金融機関の産学官連携コーディネーター（鹿児島大学認定コーディネーター）等との連携により、地域企業の技術的ニーズの把握と研究シーズとのマッチング促進、ひいては事業化に向けた支援を推進していく体制が整備され、地元企業の活性化による雇用拡大や新規事業創出・雇用創出につながる基盤が整った。また、大学発ベンチャー支援体制の構築により、大学発ベンチャーの事業化の進展が期待される。

2 鹿屋体育大学

実施計画 ③

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」において、「地域就業キャリアデザイン」の後期開講及び地域就業力科目群の編成並びに「地域キャリア実践演習」のプログラム構築に向けた検討を行う。加えて、同プログラムに参画する教員によるFD活動を定期的に行う。また、COC+参加校においては、キャリア教育の整備充実及び見直しに向けた検討を行う。

具体的な実施項目	実績
県内の企業や地方自治体と連携したインターンシップ受入事業所の開拓を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業実習について、企業4社を訪問し、人事担当者等に受け入れの要請を行った。 ・スポーツ指導実習について、企業14社、公共施設6機関に対し、受け入れを依頼した。 ・企業実習については、平成28年度新規開拓した1社が、1名受け入れた。 ・スポーツ指導実習は、平成28年度新規に開拓した全ての機関が受け入れた（企業：14社55名、公共施設：6機関35名）。 ・12月22日 鹿屋市内の3つの医療機関とインターンシップ受け入れや就職受け入れ等についての懇談会を開催した。
社会人基礎力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・4月14日 学部1年生全員（178名）が社会人基礎力テスト「PROGテスト（リアセック社）」を受験した。 ・7月7日 受験した学部1年生に対し、リアセック社によるテスト結果の解説会を実施した。 ・12月下旬 学部3年生（179名）が、PROGテストを受験した。 ・2月15日 受験した学部3年生に対し、リアセック社によるテスト結果の解説会を実施した。

成果

スポーツに特化したスポーツ指導実習（スポーツコーチ実習、生涯スポーツ指導実習、武道指導実習）及び企業実習（一般企業や官公庁）を県内企業や県内地方自治体等で行うことで県内企業、産業の魅力を知る機会や情報提供が図られた。

入学時点とキャリア形成科目や学外実習を履修後の3年次末時点の社会人基礎力テストの実施により、リテラシー及びコンピテンシーの能力の成長度について学生各々が理解でき、また学生の特徴を数値として捉えることができ、本事業の取り組み評価につながる。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
<p>県内の企業や地方自治体等の企業等説明会を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等の人事担当者来学の時に、説明会開催の打診を行い、個別企業説明会案内チラシを作成し、本事業ホームページに掲載した（県内約10社）。 ・企業等の人事担当者からは学内での合同企業説明会の開催要請が多いが、個別の企業説明会に代えた（本学ホームページの書き換え、案内チラシの作成）。結果、延べ26社（昨年度同月比12社増/県内外計）の企業が学内で説明会を実施した。
<p>県内へ就職したOB・OGの特別講話や懇談会等を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月13日 授業において起業しているOB 1名による講話を行った。 ・6月16日 授業において県内の国際交流施設及び鹿屋市に勤務するOB 2名による講話を行った。 ・6月24日 授業において岩崎産業株式会社副社長による講話を行った。 ・11月22日 OB・OG10名（県内5名、県外5名）を招聘し、就職ガイダンス「OB・OG座談会」を開催した。 ・12月8日 授業において株式会社さかうえ社長による講話を行った。 ・1月19日 授業においてOB・OG 15名（県内5名、県外10名）を招聘し、インタビューワークを行った。

成 果

県内就職率向上を目的とした就職支援行事として、学内で県内企業や地方自治体等の人事担当者からの企業等説明会を開催することで、学生の県内就職を促し地元定着、地元就職率向上が図られた。

キャリア形成科目授業および就職支援行事での県内就職者OB・OGや県内企業の社長等からの特別講話、ガイダンス等の開催により、学生が鹿児島の魅力や就業観についてより身近に学ぶことができ、地元就職率の向上の意識が高まった。

3 鹿児島国際大学

実施計画 ①

本補助事業推進のための必要な人員配置（COC+推進コーディネーター等）を行う。

具体的な実施項目	実績
COC+推進副コーディネーター、事務補助員を継続雇用して産学官地域連携センターとの連絡・調整も行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+推進副コーディネーターおよび事務補助員を継続雇用し、産学官地域連携センターとの連絡・調整をしながらCOC+及びCOC関連事務を実施した。 ・COC+推進副コーディネーターやインターシップ及びフィールドワーク担当教員が各部局の教職員で構成される産学官地域連携委員会やインターシップ・フィールドワーク委員会会議に委員等として参画し、全学年に連携する体制が構築された。

成果

産学官地域連携センター内に設置したCOC推進室にてCOC+推進副コーディネーターと事務補助員がCOC+及びCOC関連事務を遂行することによって、COC+及びCOC事業を円滑に推進することができた。COC+推進副コーディネーターがCOC+大学及び参加大学との連絡を密に取ることにより、COC+及びCOC事業を迅速かつ効果的に実行することができた。また、事業協働機関と連絡・調整を密に取ることにより、地域や企業のニーズを的確に把握し事業計画に反映するとともに、学生の新規就職先の開発につなげることができた。

実施計画 ②

学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの連絡会を定期的に開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討について事業協働機関間で協議する。またCOC+大学及び各COC+参加校においても個別に委員会等を開催する。

具体的な実施項目	実績
<p>委員会を実施し、委員長である学長の下で事業協働地域の課題・ニーズを検討し、具体的な課題や地域協働機関の役割分担に関する基本方針や、地域が求める人材像を確定し、必要な能力を決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回COC地域人材育成委員会（7月14日～19日・メール会議）を開催し、教育プログラムの一部変更について審議した。 ・COC教育プログラムの一部変更について、メール会議による全員一致により、3年次からとなっていた演習でのフィールドワークを2年次から可能とし、プログラムに参加する教員・学生を増やす取り組みが進展した。（③で再掲） ・今後のCOC事業の推進をより強化するため、地域人材育成委員会の開催など事業協働地域との意見交換の場を設け、改善点についても委員会を通じて情報の共有を図るなど、一体的な取り組みを行った。
<p>「教育プログラム開発委員会」を実施して「地域人材育成委員会」で決定した教育方針に沿って教育プログラムの開発や意見交換等を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回COC教育プログラム開発委員会（7月14日）を開催し、事業協働機関との情報交換・意見交換を行った。 ・COC教育プログラムの一部変更について協議し、結果をCOC地域人材育成委員会へ上程することを決定した。 ・事業協働地域の課題等について教育プログラム開発委員会等においてさらに協議を深め、COC事業のより効果的な事業推進のための方策を検討した。
<p>COC+大学と連絡を密にして事業全体の進捗状況を把握する。また、事業協働機関と連絡・調整を行い地域課題やニーズを把握し、取組事業に反映させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+事業協働機関連絡会に出席し、インターンシップの現状と課題、就職支援の取組状況、教育プログラム開発委員会に諮る協議等についての意見交換を行い、さらにCOC+教育プログラム開発委員会に出席し、共同授業の開講等について協議を行った。 ・COC+事業を事業協働機関の協議のもと、円滑に進めた。

成果

地域人材育成委員会を定期的を開催することにより、事業協働地域の課題・ニーズに係る方策を検討した。また、具体的な課題や地域協働機関の役割分担を明確化して、事業の基本方針および地域が求める人材像を確定した。このことにより教育プログラム開発委員会でのプログラム開発とカリキュラムの再検討を可能にした。

実施計画 ③

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」において、「地域就業キャリアデザイン」の後期開講及び地域就業力科目群の編成並びに「地域キャリア実践演習」のプログラム構築に向けた検討を行う。加えて、同プログラムに参画する教員によるFD活動を定期的に行う。また、COC+参加校においては、キャリア教育の整備充実及び見直しに向けた検討を行う。

具体的な実施項目	実績
<p>地域課題の解決に必要な能力を獲得するために「地域人材育成プログラム」、また、英語を使って地域に貢献したい学生のために「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を開講し、学生が混乱なく履修できるよう教育環境を整備充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を開講し「地域志向科目群（全学年選択必修2単位）及び「地域志向演習」を実施した。 ・4月のオリエンテーション時に、平成28年度からスタートしたCOC地域人材育成プログラムについての説明会を開催し、学生への周知を図った。また、7月に教育プログラム開発委員会及び地域人材育成委員会を開催し、「地域人材育成プログラム」の一部変更について協議した。その結果、3年次からとなっていた演習でのフィールドワークを2年次から可能とし、教員・学生がより参加しやすいプログラムに変更した。 ・10月の学部別演習ガイダンスにてCOC地域人材育成プログラムの周知およびプログラム履修学生が混乱なく履修できるための案内や資料配付を行った。また、平成29年3月のオリエンテーション時に、COC地域人材育成プログラムの説明会を開催し、普及させる。 ・フィールドワークについては、事業協働地域において従来から継続実施している連携事業に加え、3学部によるプログラムに基づくフィールドワークが実施され、COC事業として約640名の学生・教職員がフィールドワークに参加した。
<p>取組事業の改善や学生への指導・助言に役立てるため、Webキャリア・ポートフォリオに記録された内容を教職員が共有化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Webキャリア・ポートフォリオの活用と併せ、学生がより取り組みやすい方法をあらためて検討した。 ・「フィールドワーク活動記録」の管理活用に向けた取り組みを行った。 ・Webキャリア・ポートフォリオの活用状況の確認作業も実施した。 ・フィールドワーク終了時に学生自身がWebキャリア・ポートフォリオや「フィールドワーク活動記録」を活用して、総括的なリフレクションに基づく自己評価を行った。学生が自己の能力レベル等を具体的に把握し、地域が求める人材に向けてのモチベーションを向上させることができた。

成果

「地域人材育成プログラム」および「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を開講することにより、新入生が両プログラムを理解し、間違いなくプログラムを履修して、地域志向を涵養することができる。また、地元自治体や企業に両教育プログラムを認知してもらうことにより、教育プログラム修了学生の地域就職率を上げることができる。

Webキャリア・ポートフォリオを活用し学生が振り返り作業を行うことにより、教育プログラムを受講しての自己評価を行った。また、フィールドワークやインターンシップの記録をWebキャリア・ポートフォリオに残すことにより、地域での就職活動に役立てることができた。Webキャリア・ポートフォリオに記録された内容を教職員が共有化することにより、取組事業の改善や学生への指導・助言に役立てることが可能になった。

実施計画 ④

事業協働機関（企業団体等）とともに、COC+大学は「COC+かごしまキャリア教育プログラム修了証明書（仮称）」の発行による学卒者の地元企業就職へのインセンティブに係る検討を行い、鹿児島国際大学においては、教育プログラム履修学生への修了書について、地元への就職に役立つよう認知度の向上を図る。

具体的な実施項目	実績
<p>本プログラムを修了した学生に対して修了証を発行する準備をし、修了証が地域での就職に役立つように地域の認知度の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの認知度向上に向けた取組みのための計画づくりに着手した。 ・教育プログラム修了証が地元企業等に地域のプロフェッショナルになるための教育プログラムを受けたことを証明するものであることを認知してもらうため、地域人材育成委員会と教育プログラム開発委員会を開催して、意見交換や協力要請を行った。 ・地域フィールド演習の認定条件や実施に向けた要領作成など、教育プログラムの推進や修了証発行に向けた準備を行った。

成果

地元自治体や企業に「地域人材育成プログラム」及び「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を認知してもらうよう周知を図ることで、両教育プログラム修了学生の地域就職率を上げることに繋がった。

実施計画 ⑤

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」に係る長期インターンシップの実施について、事業協働機関（県、企業団体）や地元企業との調整を行い、実施計画骨子を策定し、受入企業の開拓を図る。またCOC+参加校を含め、事業協働機関（県・企業団体等）と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備を図る。

具体的な実施項目	実績
<p>他県のCOC+大学や関係機関の視察により、新規事業の開拓や雇用拡大について学ぶ。事業協働地域の企業等と現況等の摺合せを行い、新規採用が生じた際に本学の学生が採用されるように良好な関係を構築する。また、地方公共団体等との協定書も作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域との連携先として、4月に鹿児島商工会議所、7月に日置市と包括連携協定書を締結した。その他スターフライヤーと包括連携協定書を更新した。 ・鹿児島県・鹿児島市・阿久根市・西之表市・南大隅町・大和村などとの連携協定に基づくフィールドワーク等の教育活動の実施に加え、日置市や鹿児島商工会議所等との新たな連携への取組も開始した。 ・事業協働地域との連携事業をこれまで以上に全学的な取組みとするための連絡調整活動を積極的に推進する。 ・平成29年2月に垂水市との地方創生に関する協定を締結し、今後、地元就業や地域で活躍する人材育成並びに、寄附講座やフィールドワークなど連携取組を図る。(⑩で再掲)
<p>新規海外インターンシップ先「香港」開拓を含む、国内外インターンシップ・フィールドワークの開拓及び実施を行い、学生への地元就職意識を涵養させ雇用創出に結び付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職キャリアセンター、企画国際課が中心となり、積極的なインターンシップ事業の推進が行われた。 ・昨年に引き続き、国内外インターンシップへの取組が行われたほか、新たに海外インターンシップ先として香港が加わった。 ・COC+事業協働機関と連携したインターンシップをはじめ、COC地域人材育成プログラムにおけるプレ・インターンシップや国内インターンシップに108名の学生が参加し、参加学生増に伴い、受け入れ先の拡充にも取り組んだ。

成果

事業協働機関と連携して既存事業の経営安定と鹿児島県の観光や貿易の分野等で新規事業開拓のための支援を行うことにより、学生の地元での雇用を増やすことができた。また、他県のCOC+大学や企業等の視察を行い、地方創生、新規事業開拓、雇用拡大等のノウハウを学ぶことにより、次年度以降の学生の教育に活かすことができた。インターンシップ・フィールドワーク先の企業等を開拓、拡充することにより、次年度以降のインターンシップ・フィールドワークの充実を図ることができた。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
商工会議所、関係自治体、企業等との連携によるセミナー等を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に協定締結を行った鹿児島商工会議所と連携し、「地元企業と留学生との座談会」を実施した。 ・就職キャリアセンターを主幹とする大学主催合同企業説明会を実施した。
連携協定に基づく教育活動を通じた就職支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+参加校や事業協働機関（鹿児島銀行）と連携したPBL型インターンシップに4名の学生が参加した。「地元企業との意見交換会」を参加学生自身が企画・立案・広報を行い、1月に開催した。 ・地域人材育成プログラムにおいて経営学科科目に新設された「プレ・インターンシップ」に6名の学生が参加した。学内での事前研修の後、地元谷山地区の企業で2日間の企業研修を行った。 ・鹿児島県、鹿児島市、阿久根市、西之表市、南大隅町、大和村との連携協定に基づく教育活動等を行い、雇用に結び付くインターンシップ先の開拓とインターンシップ実施に取り組んだ。

成果

協定締結先である鹿児島商工会議所との連携事業として開催した「地元企業と留学生との座談会」では、本学の留学生に対し鹿児島での就職促進・就職志向の意識醸成を図った。また、鹿児島銀行と連携した「地元企業との意見交換会」では、参加学生はこの機会を通して地元企業への理解を深めると共にCOC+参加大学の学生や企業担当者との交流が促進された。

地元谷山地区の企業でのインターンシップにおいては、参加学生の今後のインターンシップの企業選択や地域の地元企業との連携に繋がる好機となった。

実施計画 ⑧

シンポジウムやセミナー等の開催並びにホームページによる情報発信等を積極的に行う。

具体的な実施項目	実績
ホームページにより取組と成果を公表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に開設したCOC事業専用のホームページの充実に向けて取り組んだ。 ・COC+及びCOC+事業に特化したホームページとして、データの蓄積や整理を行った。 ・平成29年2月に高校生よかアイデアコンテストの最終審査並びに表彰式を開催した。同コンテストは、高校生が自分の身近な地域に目を向けて課題を発見し、解決策を考える時間を通して、地域が担う若者に成長する機会の提供を目的に今年度、初めて開催した。ホームページにてこの取り組みを公表した。

成果

COC+及びCOC事業専用のホームページにて取組と成果を逐次報告・公表し、事業協働機関とは常に情報の共有化を図ることができた。ひいては、他大学に本学の教育プログラムを提供することができる。

実施計画 ⑨

事業報告書等を作成し、外部評価を実施する。また、一部のCOC+参加校においては、事業報告会を開催する。

具体的な実施項目	実績
学内・学外評価委員会に年次報告を行い、評価を受ける	平成29年2月に学内評価を受け、3月に外部評価委員による学外評価委員会を開催し、評価を受けた。
事業報告会を開催する	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターと連携してシンポジウムやワークショップを開催した。 ・10月に「地方創生と大学の役割～地域の担い手づくり」のテーマでシンポジウムを開催し、事業協働機関関係者、地域住民ほか約230名が参加した。このシンポジウムにおいて、地方創生（地域振興）と大学教育（地域社会に貢献する人材の育成）のあり方や地域活性化の取り組みについて意見交換を行った。 ・平成29年1月に「地域の夢」～谷山・坂之上地域の未来を語る～としてワークショップを開催し、事業協働機関関係者や他大学、地域住民ほか約450名が参加した。大学の位置する谷山・坂之上地域の課題発見や連携のあり方などについて確認できた。
報告書を作成する	年次報告書を作成し、配布した。

成果

学内評価委員会から主に教育体制の充実を中心に取組の進捗状況など、外部評価委員会からは取組内容と課題解決の整合性について検証・監査・評価を得た。これを踏まえ、次年度の事業実施に向けて改善点を検討することができた。

報告書を作成し、県内自治体や企業、全国のCOC+大学へ配布することにより、地方創生を先導する大学として成果を広く提供した。

実施計画 ⑩

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。

具体的な実施項目	実績
寄附講座	平成29年2月に垂水市との地方創生に関する協定を締結し、平成29年度の寄附講座開設に向けての準備を行った。全学年対象の地域創生について学ぶ授業として開講し、地域で活躍する人材育成を目指す。

成果

全学生対象の地方創生について学ぶ寄附講座を開設することにより、地域の経営スキルについての学び、仕事へのやりがいへの実感や魅力ある雇用の場としての認識を持つなど、学生にとって地方創生についての実践的な学びとなることが期待できる。

4 志學館大学

実施計画 ①

本補助事業推進のための必要な人員配置（COC+推進コーディネーター等）を行う。

具体的な実施項目	実績
コーディネーターを活用し、産官学連携や地域協働を図り、プログラムやカリキュラムの改編に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター1名を配置した。 ・産官学連携や地域協働について、意見交換を行い、課題や今後の取り組み等について情報共有を行うとともに、指宿市との包括協定締結が実現に結びついた背景の1つになった。 ・経済同友会の異業種交流会に、進路支援センター長、進路支援課長とともに参加したことで、地元企業との意見交換が活発に進み、学生の現状や今後の地元定着について情報共有ができた。
キャリア・サポーターを活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポーター1名を配置した。 ・学卒者の地元企業への定着をより一層進めるために、サポート希望件数の多い4月～9月は週2回、10月～は週1回常駐し、就職相談・面接練習・キャリア研修の強化を行った。

成 果

コーディネーターを活用し、地元鹿児島の特徴を活かした産官学連携や地域協働によるインターンシップ受入先・就職先・PBL等の新規開拓、カリキュラム改善・開発を行った。

キャリア・サポーターを採用し、就職相談・面接練習・キャリア研修の強化を図ることにより、4年生の就職活動のフォローアップが充実するとともに、3年生を中心に増加する来談学生・卒業生等への対応がより一層きめ細やかにできた。

実施計画 ②

学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの連絡会を定期的に開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討について事業協働機関間で協議する。またCOC+大学及び各COC+参加校においても個別に委員会等を開催する。

具体的な実施項目	実績
COC+事業推進会議を実施し、当事業の内容と今後の進め方について共有し検討する。	第1回 5月26日 議題：今年度のCOC+の取組み計画・内容 <ul style="list-style-type: none"> ・進路支援プログラムの実施計画 ・インターンシップの現状と課題 について話した。
当事業の事業協働機関との情報交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+事業協働機関連絡会に出席した。 ・事業内容の進捗状況の確認及び事業についての課題や今後の取り組みについて意見交換を行った。

成 果

進路支援センター以外の部署とも関連しながら共有・検討することができたため、より一層地域に貢献するための横断的・総合的な取り組みや運営の柔軟性に向けた学内基盤の強化が図られた。

当事業の事業協働機関との情報交換を行い、事業の改善・開発について検討することで、地域における「オール鹿児島」の意識が醸成された。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
進路支援プログラムを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月20日 「大学主催合同企業説明会」を開催し、地元企業を中心に77社が参加した。 ・4年生就職希望者に対し、地元企業情報の周知と接点を提供することができた。また、3年生を学生スタッフとして参加させることにより、地元企業等への就業意識の醸成に寄与した。 ・7月13日 鹿児島県中小企業家同友会会員を招き「経営者と語る会」を実施した。 ・学生が地元企業の経営者等と意見交換することで、勤労観・職業観を醸成し、就職活動への意識づけを図ることができた。 ・11月9日 東南ロータリークラブによる模擬面接会を開催した。 ・12月21日 鹿児島県中小企業家同友会による模擬面接会を開催した。 ・2月21日 1・2年生を対象に鹿児島東倫理法人会による「企業経営者との座談会」を実施した。

成果

進路支援プログラムについて拡充を検討しながら事業を実施することにより、次年度以降のプログラム改善・開発に役立った。

実施計画 ⑨

事業報告書等を作成し、外部評価を実施する。また、一部のCOC++参加校においては、事業報告会を開催する。

具体的な実施項目	実績
COC+事業推進会議を実施し、当事業の年次報告と成果の検証、次年度への準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・1月31日 進路支援センター会議を実施し、①平成28年度事業報告について、②平成29年度事業計画について審議した。

成果

COC+事業推進会議を実施し、当事業の年次報告と成果の検証を行うことで、次年度以降の事業改善・拡充に繋がった。

5 第一工業大学

実施計画 ③

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」において、「地域就業キャリアデザイン」の後期開講及び地域就業力科目群の編成並びに「地域キャリア実践演習」のプログラム構築に向けた検討を行う。加えて、同プログラムに参画する教員によるFD活動を定期的に行う。また、COC+参加校においては、キャリア教育の整備充実及び見直しに向けた検討を行う。

具体的な実施項目	実績
<p>地域連携科目の実現に向けたワーキング実施</p> <p>＊新設科目「地域連携演習」についてアクティブラーニングを実施し、地域への就職・定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携に関する教育プログラム検討WG会議を実施し、共通総合教育科目「地域貢献演習」を後期に開講した。以下の2テーマに複数学科の学生が参加した。 ①自治体公共施設管理計画 市民向け広報用マンガ冊子制作：霧島市が策定する公共施設管理計画の内容を市民に分かりやすく紹介するマンガ冊子の制作に学生主体で取り組み、霧島市へのプレゼンテーションを実施した。 ②地域マップづくり：霧島市隼人町平熊地域の魅力が伝わる地域マップを学生主体で作成した。
<p>地域資源を活かした観光振興、地域活性化策の考案</p> <p>＊地域活性化を題材としたアクティブラーニングの機会を提供し、学生の地域への参加意識を醸成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・霧島市の公園を対象とし、学生が主体となり現地調査、模型製作、イメージスケッチの制作、地域住民へのヒアリング等を通して再整備プランを考案し、霧島市にプレゼンテーションを実施した。 ・周辺の小学校や幼稚園、商業施設、公園利用団体、イベント実施団体等、地域へのヒアリングを通して、具体的な公園リノベーション案の立案を図った。 ・学生の地域参加の意識向上とキャリア教育の実践ができた。
<p>自治会と学生の協働による地域の魅力発見・共有を通じた人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治会の方々との意見交換やヒアリング、まちあるきを数回実施し、施設や風景、農作物といった地域の魅力となり得る要素を抽出した。 ・学生が「発見」した地域の魅力を、テーマごとにとりまとめた冊子を作成し、自治会の方々に報告した。 ・学生の地域社会への貢献の意識が高まった。

成果

継続した地域連携科目の履修を通して、学生の地域理解と地域参加の意識が醸成され、地域への就職・定着の涵養につながる事が期待できる。

実践的な地域活性化策の考案を通して、学生の地域への参加意識を醸成した。同フィールドを活用した地域イベントの開催等、次年度へのつながりも形成できた。

学生が住民と主体的に交流できる場を設けることで、人や地域に対する興味の喚起・理解の深化を通じた人材育成を図られた。

住民と関わりながらも主体的に地域に潜む魅力を発見し、活用策を考えるという体験を通じて、自らが暮らす地域に対する関心・愛着を高めることができた。

実施計画 ⑤

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」に係る長期インターンシップの実施について、事業協働機関（県、企業団体）や地元企業との調整を行い、実施計画骨子を策定し、受入企業の開拓を図る。またCOC+参加校を含め、事業協働機関（県・企業団体等）と連携協働して、既存のインターンシップの拡充整備を図る。

具体的な実施項目	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップに関するワーキンググループによる検討 ・県内企業による学生向けの合同勉強会を開催する。翌年にインターンシップ参加を行う2年生、1年生を対象として、県内企業への興味を持たせ、インターンシップへの参加および県内就職につなげることを目的とする。 ・企業訪問およびインターンシップの受け入れ要請、勉強会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループを結成し、勉強会の内容、実施時期および実施形態などについての検討を行った。 ・インターンシップ受入企業に関する調査を行ない、各学科の希望するインターンシップ受入企業について調査、リストを作成した。 ・各企業へのアプローチはこれまでは業者（リクルートキャリア）に依頼していたが、今後は本学が直接アプローチを実施する。 ・2月9日に2年生（47名）にインターンシップ経験者（4名）による勉強会を実施し、インターンシップ参加のメリットを理解させることができた。

成果

地元企業の魅力を企業から直接学生へPRすることができ、学生の企業へのインターンシップ参加および就職への意欲の向上が図られた。

平成29年度初頭に企業を招いた勉強会を実施し、平成29年度中のインターンシップ参加者数の増加を目指す。

今年度に事前勉強会を開催したことで、学生に対する動機付けを行うことができ、来年度の勉強会およびインターンシップ参加人数増加が期待される。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
<p>JAあいらとの連携協定、JAあいら「経清塾」での講演</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月8日、JAあいら、霧島市との包括連携協定に基づき、JAあいらの「経清塾」にて、県経済連部長、JA曾於部長、JAあいら組合長等に植物バイオシステムコースについて講演を行った。 ・ 連携に基づき新商品を開発し、林野庁コンテストへの出品（大賞受賞）、新商品発売など一連の活動がTV、新聞などに報道された。第一工業大学、ならびに植物バイオシステムコースの認知度向上に貢献した。 ・ この成果から「霧島さん家のグラノーラ」がJAあいらから発売された。一連の活動により、地域プロモーション、地域企業としてのJAの開発力向上に寄与した。

成果

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業のCOC+大学キャンパス内での実施により、学生への効果的な地元企業情報の周知が可能となった。

地元企業の新商品開発、発売によって鹿児島県の食発信に寄与した。本商品は、鹿児島空港、東京鹿児島逸品館等で発売中である。

実施計画 ⑧

シンポジウムやセミナー等の開催並びにホームページによる情報発信等を積極的に行う。

具体的な実施項目	実績
<p>植物バイオシステムコースによる高校への六次産業化講演会</p> <p>*平成28年度開講する自然環境工学科植物バイオシステムコースを中心に、地域農業の活性化と人材育成を産学官民連携で推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月3日：始良伊佐地域振興局管内給食施設連絡協議会と共催で「食と癒しのセミナー」を開催した。（参加者約150名） ・ 10月18日：国分中央高校ビジネス情報科3年生生徒35名、教員4名に対し、六次産業化の中でも商品プロモーションに関する講演を行った。（講演タイトル「ビデオ制作のワークフロー」） ・ 2月9日：国分中央高校園芸工学科2年生11名、教員2名に対し、植物バイオシステムコースの説明、および、植物工場の見学会を実施した。 ・ 2月10日：第一工業大学六次産業化推進フォーラム2017を開催。（参加者約100名） ・ 講演や見学会を通じて、市民や高校生に六次産業化への理解が得られた。自然環境工学科植物バイオシステムコースを開講した。

成果

環境・農業系の新しいコースの設置が周知され、地元進学への情報発信の機会となった。

六次産業化による地元発信の食開発の重要性、マーケティング活動の重要性を市民、企業に啓蒙することができた。

実施計画 ⑨

COC+推進コーディネーターを中心に、事業協働機関及びそれ以外の自治体・商工団体等と連携協働して、新規事業創出による雇用創出及び既存産業の雇用拡大に向けた取組を検討する。

具体的な実施項目	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対する学生主催型防災意識向上市民講座（公開講座）の開催 ・地域企業に対する防災技術講習会の開催 	<p>実施した講演会・講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月24日：「巨大地震に備える～『安全・安心』住宅を自ら手に入れるには～」(ホテルセントコスモ、参加者約80名) ・10月1日：「巨大地震に対する安全・安心住宅とは」(かごしま県民交流センター、参加者約20名) ・10月21日～23日：「かごしま住まいと建築展」に地域企業（鎌田建設株）と共同出展（かごしま県民交流センターブース来場者約300名） ・11月6日：「消防フェスタINさきしま2016」に出展・参加 ・11月26日：「巨大地震に耐え抜く木造住宅とは～熊本地震被害の検証と最新の対策技術～」(公社)鹿児島県建築士会霧島・始良支部創立50周年記念建築文化講演会（参加者約200名） ・7月22日：地域企業（鎌田建設株）向けに耐震診断・補強技術の講習会 ・全ての公開講座・展示会に学生を参加・協力させ、防災意識の向上が図れた。 <p>さらに、地域企業と展示会を共同出展することにより、学生の地域企業に対する意識が向上し、学生と地域企業社員との交流により、お互いの理解を深めることができた。(参加学生1名就職内定)</p>
<p>大学発ベンチャー企業による新規雇用の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2月1日：大学発ベンチャー製品の拡販に向け、大学発ベンチャー企業（株式会社DIT）を学内に設け、新規雇用につなげる準備に入った。
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度開講「木質構造」におけるPBLの実践 ・地域住民・企業に対する耐震診断結果を基にした防災対策講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市内1棟、始良市内1棟、霧島市内1棟 計3棟の耐震診断を授業で実施。始良市内の木造住宅は耐震補強案を提案した。 ・学生が熊本被害地震調査、木造フレームの振動台実験（神戸大学施設）に参加し、意識の高い学生は耐震補強計画にも取り組んだ。 ・耐震診断結果に基づく耐震補強案を作成した。 ・防災対策講座を10月8日、9日、29日、30日に行なった。 ・地域住民の耐震補強のニーズを高め、学生参加型の補強計画を地域企業と共に立案し、地域が求める企業・学生を育成した。 ・12月2日：上記の成果として、始良市内の耐震補強工事に学生が参加した。
<p>植物工場ユニットの設置 →産学官民による勉強会の開催、共同研究の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一工業大学が所有する植物工場で見学交換と勉強会を行った。 ・第1回：4月7日（県内A社）、第2回：7月20日（県内B社）、第3回：9月1日（福岡県C社）、第4回：9月20日（東京D社）。 ・県内A社は、来年度から本格的に植物工場を稼働することが決定しており、今後も、情報交換等で連携することとしている。

成果

防災ニーズの掘り起こしと企業の意識向上を図り、PBLの教育効果による地域が求める人材育成が図られた。

地域企業が求める学生の育成を通じた雇用創出につなげることができた。

地域企業との交流等により地域企業の意識改革が図れ、学生にとって魅力ある企業の一つとなった。

大学発ベンチャー企業の設立により新規雇用の創出につながった。

授業におけるPBLを実践し、意欲と自主性を引き出すことが図れた。

自ら考え行動する技術者の育成につながった。リーダーシップ、学ぶ姿勢、コミュニケーション能力を身につけることができた。

学生の意識改革が図れ、地域企業との共同作業が実際のビジネスとなり、仕事に対する意欲向上につながった。

第一工業大学で植物工場の共同研究が可能であることが周知できた。

6 鹿児島県立短期大学

実施計画 ①

本補助事業推進のための必要な人員配置（COC+推進コーディネーター等）を行う。

具体的な実施項目	実績
産学コーディネーターの配置	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月、産学コーディネーターを配置した。 ・企業訪問により産業界情報と企業が求める学生像、スキル等の収集と把握を行うとともに、卒業生の就職状況を把握し、就職先の開拓、卒業生の定着支援を行った（訪問企業数：118社、平成29年2月現在）。
資料整理補助員の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・産学コーディネーターを補助する資料整理補助員を配置した。 ・産学コーディネーターが収集した企業情報等の整理とともに、産学コーディネーターの指示のもと、情報分析の補助を行った。

成 果

産学コーディネーターが学内教務部門・就職支援部門等と連携することにより、全学的な役割分担のもと実施体制を構築することができた。

資料整理補助員が産学コーディネーターの収集した情報等の整理を行い、学内における情報の共有化が図られた。

実施計画 ②

学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの連絡会を定期的開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討について事業協働機関間で協議する。またCOC+大学及び各COC+参加校においても個別に委員会等を開催する。

具体的な実施項目	実績
学生委員会での検討（キャリア形成、就職支援など）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月26日、学生委員会や教務委員会を主とする教員や職員等を対象に、産学コーディネーターによる「産学コーディネーター報告会」を開催した。 ・学生委員会と産学コーディネーターの連携により、具体的なキャリア形成と就職支援が一体となって学生支援を行った。
教務委員会での検討（教育カリキュラムの再検討、インターンシップの強化など）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月26日、学生委員会や教務委員会を主とする教員や職員等を対象に、産学コーディネーターによる「産学コーディネーター報告会」を開催した。 ・教務委員会が産学コーディネーター等との情報交換などをもとに、教育カリキュラムの再検討やインターンシップ強化を図った。

成 果

学生委員会と産学コーディネーターの連携により、具体的なキャリア形成、就職支援の検討ができた。

教務委員会と産学コーディネーターの連携により、教育カリキュラムの再検討、インターンシップ強化の方法の検討につなげることができた。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
県内企業訪問調査、産業界情報の収集及び就職先の開拓、卒業生の県内就職先への定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問（訪問企業数：118社、平成29年2月現在） ・企業訪問により産業界情報と企業が求める学生像、スキル等の収集と把握を行うとともに、卒業生の就職状況を把握し、就職先の開拓、卒業生の定着支援を行った。
県内関係機関との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・9月26日企業懇談会を開催した。 ・企業5社の採用担当者と本学教員及び職員で、①企業が必要とする人材、②本学に望む教育や就職指導についての意見や提案、③就職活動中の学生へのアドバイスについて意見交換を行い、情報交換・共有化を図った。
企業向けリーフレットの作成・配布	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月に作成した。

成果

産学コーディネーターが、企業のニーズと動向を収集し、就職した卒業生の就職状況を具体的に把握することにより、カリキュラム編成の検討に活用するとともに、企業と学生のミスマッチの解消など具体的な就職支援の方法の検討につなげることができた。

本学と県内関係機関で地域の産業特性と将来的な展開について意見交換を行い、新たな雇用創出の可能性を探ることができた。

企業向けリーフレットを作成・配布し、本学学生の人物像・スキル等を県内企業に紹介することにより、学生の県内就職率の向上と定着の推進を図ることができた。

7 鹿児島女子短期大学

実施計画 ①

本補助事業推進のための必要な人員配置（COC+推進コーディネーター等）を行う。

具体的な実施項目	実績
COC+事業の推進組織である地域連携センターにCOC+コーディネーター及び事務補佐員を配置する	<ul style="list-style-type: none"> ・COC+コーディネーターを1名委嘱した。 ・事務補佐員1名を雇用した。 ・「かごしま産業遺産パートナーシップ会議」への学生参加をはじめ、鹿児島市や指宿市他様々な団体との連携がコーディネートおよび事務処理により順調に進捗した。

成果

COC+事業を推進する「地域連携センター」を充実・活性化し、COC+参加校及び事業協働機関との連携強化と業務の迅速化を図った。

実施計画 ②

学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの連絡会を定期的開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討について事業協働機関間で協議する。またCOC+大学及び各COC+参加校においても個別に委員会等を開催する。

具体的な実施項目	実績
「すこやかLife支援プロジェクト委員会」及び「地域連携協議会」を開催する。	<p>1月20日開催の「COC+事業協働機関連絡会」や2月3日開催の「かごしま学卒者地元定着促進協議会」および「COC+教育プログラム開発委員会」におけるCOC+公開講座開催の確認、COC+教育深化のためのプログラム修了証の取り扱い、活動の地元企業への浸透促進に向けた審議を踏まえ、また2月13日に開催した本学の「COC活動外部評価委員会」で委員から提示された28年度活動における課題や29年度活動計画への提言をも勘案して、3月17日に「鹿児島女子短期大学すこやかLife支援プロジェクト委員会」にて本学のCOC活動の一環として29年度COC+活動計画を検討した。</p>

成果

地域の自治体や企業等と連携することにより、地域のニーズを反映した事業計画が策定できた。

実施計画 ③

COC+大学の「COC+かごしまキャリア教育プログラム」において、「地域就業キャリアデザイン」の後期開講及び地域就業力科目群の編成並びに「地域キャリア実践演習」のプログラム構築に向けた検討を行う。加えて、同プログラムに参画する教員によるFD活動を定期的に行う。また、COC+参加校においては、キャリア教育の整備充実及び見直しに向けた検討を行う。

具体的な実施項目	実績
<p>「すこやか教育」の拡充：COC科目の核である「WE LOVE 鹿児島！」の地域と連携した体験型授業を拡充する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教養学科は前期に、生活科学科、児童教育学科は後期に「WE LOVE 鹿児島！」の授業を実施した。特に、児童教育学科では分野別にグループ活動を中心に実施した。さらに、「WE LOVE 鹿児島！」の理念を生かしたCOC科目や地域連携型教育の充実をめじた。生活科学科食物栄養学専攻では4月から『鹿女短スマイル食育プロジェクト』として6つのプロジェクトを立ち上げ、学生および教職員が地場の企業やNPO団体と連携し、研究開発や実地での食育活動を継続的に展開した。教養学科では、観光に関わる新たなCOC科目の立ち上げが決定した。 ・10月30日には本学キャンパスで鹿児島市と「かごしま食育フェスタ2016」を共催し、本学や鹿児島市および地場企業やNPO団体が30の展示・体験型ブースを出展し、約1200人の来場者を数えた。 ・各学科毎にCOC科目を中心として地元就職促進に繋がるCOC+教育プログラムを策定し、修了者には「COC+教育プログラム認定証」を平成29年度入学生から授与することを決定した。
<p>「すこやか生活」の推進：絆工房シオンちゃんのボランティア活動管理運営の活性化と学生の地域貢献を促進する枠組みの検討。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体となり絆工房シオンちゃんを運営しており、全学生へのボランティア参加の呼びかけや割り振り及び活動報告の取りまとめを行った。 ・「風と光とナポリ祭」をはじめ様々なボランティア活動に学生が参加し、主催団体から好評を得た。活動の可視化については仮想サーバにデータベースを構築しデータ登録の実験を開始した。
<p>「すこやか研究」の活性化：南九州地域科学研究所における地域研究の活性化並びに地域の自治体・企業との共同研究、受託研究を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南九州地域科学研究所には平成28年度8件の研究が申請された。 ・包括連携協定を締結している鹿児島市、指宿市や奄美市および地元企業等と様々な活動を行った。 ・企業からの受託による食品の機能性試験を実施した。『鹿女短スマイル食育プロジェクト』を中心に、志学館大学やJA鹿児島県経済連等と共催で国際交流イベント「美味しい鹿児島再発見」の開催や、川辺道の駅での「あやこまちソフトクリーム」販売、日本食品（株）やサンロイヤルホテルと協同した未利用食材による食品の開発試作、さらに、食育教材として燦々社及びNPO法人霧島食育研究会との協働により大型紙芝居「田の神さあと西郷さん」の制作実演などを行った。

成果

「すこやか教育」の充実：学生が地域との連携や体験活動において地域理解を深め、コミュニケーション能力や地域課題に取り組む意欲、グループ活動によるチームワークなどを身に付けた。

「すこやか生活」の推進：学生が協働力や地域課題解決に向けた意欲・実践力、創造的な発想力を獲得した。

「すこやか研究」の活性化：地域食材の開発による地場産業の振興や自治体、企業等の課題解決による新産業の創造につなげた。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
事業協働機関等と連携し県内企業等への関心を高め、地元就職を促進する機会を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ・一般教養科目（1年前期）「インターンシップ」では、県内企業26事業先へ65名参加（昨年比+30% 15名増加） ・教養学科専門科目「企業実務演習」でのインターンシップ実施では、内企業10事業先へ14名参加（昨年比+7% 1名増加） ・平成29年2月1日～2月9日まで各学科別に「事業所ガイダンス」を実施。 県内から児童教育学科3事業所・生活科学科5事業所・教養学科2事業所を招き、今後就職活動を行う1年生に向けて企業の特徴や期待する人物像、地域の雇用情勢など詳細に説明頂いた。 ・平成29年2月10日 就職・進路指導部会主催「第4回地元事業所との情報交換会」を実施。県内の就職先4事業所およびハローワーク鹿児島・鹿児島県経営者協会から実務管理者を招き、「短期大学に求める職業教育と今後の人材育成について」直接意見を聞く会合を実施。 ・地元事業所からの依頼により個別の学内事業所説明会を年度内7～8社実施し、学生への企業情報供給に努めた。

成果

卸・小売・サービス等一般企業への職業選択は、インターンシップによる企業体験が学生にとって適性を考える最も有効な機会である。本年度は人数制限無く受入してくれる企業が増え、学生の満足度も高かった。来年度以降も地元事業所とも良好な関係を維持したい。

実施計画 ⑧

シンポジウムやセミナー等の開催並びにホームページによる情報発信等を積極的に行う。

具体的な実施項目	実績
HPやデジタルサイネージによるCOC+関連情報の発信を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に設置した学内デジタルサイネージを活用して、COCおよびCOC+活動の結果を画像や映像で本館エントランスや学生ホールに発信した。

成果

学生に対するCOC+情報の発信を強化することにより、地域志向教育の効果を高めるとともに、県内企業等への関心を高めた。

実施計画 ⑨

事業報告書等を作成し、外部評価を実施する。また、一部のCOC+参加校においては、事業報告会を開催する。

具体的な実施項目	実績
「COC活動外部評価委員会」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者の評価を事業に反映させるため、平成29年2月20日に外部評価を受審した。

成果

外部評価を受審することにより、事業のPDCAを確立し、より効果的な事業運営につながった。

8 鹿児島工業高等専門学校

実施計画 ①

本補助事業推進のための必要な人員配置（COC+推進コーディネーター等）を行う。

具体的な実施項目	実績
本事業に係る事務処理を担当する事務補佐員を引き続き配置する。	・平成28年1月に採用した事務補佐員を引き続き配置し、各種COC+事業開催の資料作成や会議準備、インターンシップや地元就職率向上のための事業準備や事務連絡などを担当した。

成果

本事業専任の事務補佐員を引き続き配置することで、担当者間での事業進捗状況確認や事業協働機関等との連絡調整、会議開催や各種事業を円滑に進めることができた。

実施計画 ②

学卒者地元定着促進協議会及びCOC+教育プログラム開発委員会のほか、COC+推進コーディネーターの主宰による事業協働機関間の実務者レベルの連絡会を定期的で開催し、地元就職率向上に向けた地域課題の把握や改善方策の検討について事業協働機関間で協議する。またCOC+大学及び各COC+参加校においても個別に委員会等を開催する。

具体的な実施項目	実績
「COC+高専」地方創生推進会議を期間中4回程度開催する。 (委員：鹿児島工業高等専門学校、包括連携協定の霧島市及び日置市、及び両市の商工会議所、地元企業、九州経済研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回（5月27日） 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1.平成28年度の取り組み 2.合同企業説明会 3.インターンシップの実施について 4.共同研究について ・第2回（9月27日） 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1.地域教育特別講義の実施について 2.地元企業就職率向上のための奨学金制度の在り方について 3.その他（地元企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進） ・第3回（12月20日） 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1.地域教育特別講義の実施について 2.地元企業就職率向上のための奨学金制度の在り方について ・第4回（3月21日予定）

成果

「COC+高専」地方創生推進会議を開催し、産官学（企業団体・商工団体、自治体、鹿児島工業高等専門学校）がそれぞれの立場から本事業推進の在り方や課題について検討・協議を行なうことで、本事業の目的を達成するための取組を効率的・効果的に実施することができた。

実施計画 ⑤

インターンシップの実施モデルの構築及びトライアル実施並びにその他インターンシッププログラムの拡充整備

具体的な実施項目	実績
<p>インターンシップから就職に繋がるケースが多いため、県内企業へのインターンシップ受講率の向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による学生への指導やインターンシップ受入企業の開拓、本校のインターンシップデータベースシステムに県内企業で組織されている本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）に関する情報を充実させたことで県内企業におけるインターンシップ実施の向上に繋げることができた。 平成27年度県内企業実施：40名（うちKTC：19名（5社、3機関）） 平成28年度県内企業実施：42名（うちKTC：27名（11社、4機関）） ・ 昨年度末に県内企業125社に対して実施したアンケート調査をもとに、今後、自治体・商工会議所等に協力を仰ぎ、より一層充実を図ることを推進会議で確認した。

成 果

インターンシップデータベース活用で県内企業へのインターンシップの充実が図れた。なお、次年度は自治体・商工会議所等の協力のもと、データベース情報を更新して内容を充実させ、インターンシップ受講率向上を目指す。

実施計画 ⑥

事業協働機関等と連携した地元企業就職セミナー等の事業を企画立案・実施するほか、COC+大学及びCOC+参加校単位でも地元企業就職セミナー等を展開する。

具体的な実施項目	実績
本校学生に対し地域企業の理解を深めるための特別講義・講演、企業（工場）見学と体験学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業の技術者等による地方創生特別講義を9社実施した。 ・地域企業の企業見学を19社実施した。 ・霧島市及び日置市の職員による地方創生特別講義を本科1年生200名を対象として行った。
本校学生及び保護者に対し地域企業の理解を深めるための地域企業研究会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月28日に保護者向け地元企業説明会を開催した（地元企業：17社、保護者199名参加）。 ・7月11日に地域企業ミニ説明会を開催した（地元企業：8社、学生12名参加）。 ・1月12日に高専生のための地域企業研究会を開催した（地元企業：36社、学生218名参加）。
本校教職員に対し地域企業の理解を深めるための企業講演や工場見学を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・9月2日に開催した「地方創生と産学官連携フォーラム」（鹿児島高専テクノクラブとの共同事業）に教職員43名が出席した。 ・9月16日に薩摩川内市の協力を得て、次世代エネルギー事業（スマートハウス、太陽光、風力、小水力）の実施状況、地域企業の取り組み状況の見学や薩摩川内市との意見交換を行った。

成果

地域企業が持っている製造技術や技術者の仕事、自治体が行っている地方創生への取り組みについて理解を深め、地域志向の意識を育成することができた。

学生及び保護者に対し地域企業の理解を深めるための地域企業研究会を行うことで、地域で活躍する企業等を知る機会となり、地元就職率及び定着率の向上に繋げることができた。

教職員に対し地域企業の理解を深めるための講演や企業見学を行うことで、地域を志向する学生等に対する就職支援を始め、的確な進路指導をすることができた。

実施計画 ⑦

シンポジウムやセミナー等の開催並びにホームページによる情報発信等を積極的に行う。

具体的な実施項目	実績
本校学生の卒業研究等の成果を地域へ知らせるために、地域企業団体等と連携を図りながら学外で開催する	・2月23日、霧島市民会館にて情報工学科5年生の卒業研究審査会を開催した。当日は、本科3、4、5年生（120名）及び学校関係者、地元企業等（30名）が参加した。
本事業を対外的に広報するホームページを随時更新する	・昨年度本校ホームページ上に開設したCOC+の特設サイト上で、事業の開催案内や実施報告について随時更新した。

成果

学生の卒業研究発表会を学外で開催し、地域企業や自治体等関係者に本校学生の取組を広く周知することで、地域企業との共同研究やインターンシップなど協働での課題解決等に繋げ地元就職率及び定着率の向上に繋げることができた。

ホームページで本事業の取組を広く社会にタイムリーに周知することで、本事業のPRと共に地域からの理解が得られた。

実施計画 ⑨

事業報告書等を作成し、外部評価を実施する。また、一部のCOC+参加校においては、事業報告会を開催する。

具体的な実施項目	実績
本事業のこれまでの取組について評価会議を開催する。	・3月21日に評価会議を開催する。
本事業の今年度の取組をまとめ報告書を作成する。	・平成28年度の報告書を作成し、関係機関に配布、本校ホームページ上に公開して、広く社会に周知する。

成果

評価会議を開催し、事業全体の達成状況や効果等について評価を受け、次年度以降の事業計画や取組の改善に反映させることで、より効果的な事業の実施が可能となる。

本事業の今年度の取り組みをまとめ報告書を作成し関係機関に配布することで、本事業に対する本校の取組を広報し、PRすることができる。

Ⅲ 事業協働機関の主要な取り組み

1 鹿児島大学

1 人材育成への取り組み

地域就業キャリアデザインの実施

「かごしまキャリア教育プログラム」の起点かつ基盤となるスタートアップ科目として、「地域就業キャリアデザイン」を後期より開講した。全学の学生が受講しやすいように、水曜日と木曜日の週2回開講したが、初年度と言うこともあり、平成28年度の受講生は33人とどまった。

1. 授業の目的

受講する学生一人ひとりの志向や所属学部での専門性を踏まえて、地域で役立つ資質や能力を高めながら、地方社会でのキャリアを主体的にデザインすることを、この授業の目的とした。

なお、鹿児島での就業を想定して授業は組み立てられているが、鹿児島以外でも応用可能な内容となることを心がけた。

2. 授業の概要

授業は、大きく3つのステージから構成されている。

①第1ステージ（第1回～3回）

地方社会での就業をモデルとしたキャリアデザインを考えていく上での基礎的な準備作業を行った。初回は授業の目的や目標と意義、キャリアデザインの必要性について理解するとともに、現時点での自己認識ワークシートへの記入を行った。2回と3回は、鹿児島県と地元金融機関から講師を招聘して、鹿児島の歴史・文化、地政学的な特徴、地元企業や産業構造などについて、基礎的理解を行った。学生には理解度を測定するために、レポートの提出を求めた。



県職員による講義



企業人による講義

②第2ステージ（第4回～9回）

就業先についてより良く理解するために、インターネットを活用した情報収集から、一歩進んで、直接企業人にインタビューして必要な情報を取得するスキルを磨いた。インターネットや会社四季報などによる企業情報収集の後、「企業インタビュー・ロールプレイング・カードゲーム」（次頁図参照）を用いたインタビュー訓練と受講生と教員による模擬インタビューを行った後、企業から4名の人事担当者を招き、学生が直接必要な情報を聞き出すインタビューを行った。インタビューの結果については、企業人からの講評を学生にフィードバック

クシスキルの向上のチェックをした。

授業で用いた「企業インタビュー・ロールプレイング・カードゲーム」は、学生と教員及び就職支援センターによって、就職支援ツールとして自主開発されたもので、企業情報収集（インタビュー）に必要な「情報収集力」、「コミュニケーション力」を養うためのアクティブラーニング用カードゲームである。



図 「企業インタビュー・ロールプレイング・カードゲーム」の一部例



企業人へのインタビュー



カードゲームの風景

③第3ステージ（第10～15回）

地元就業によるキャリア形成に向け、大学時代に磨くべき能力とスキルアップの方策を明確にする作業を行った。まず10年後の自己のキャリアをイメージさせた。次いで、自他から見た自己分析をもとに自己の強みと弱みを理解し、キャリア実現に必要な能力を高めるための方策についてまとめた。それらの結果について、入社10年後の企業人の参加を得て、グループワークによるディスカッションを行い、再度、多角的な視点から自己のキャリア構想の検

討を行った。検討結果は、全員に対してプレゼンテーションしレポートにまとめた。発表された内容については、教員から文書によるコメントを学生にフィードバックした。



グループワークの風景



グループワーク後の全体発表

3. 授業における工夫

授業の質を高めつつ、学生の自己理解力、企業・職業理解力、地域社会理解力を磨き、鹿児島で就職しキャリア形成を図るために必要な能力について理解し、多元的視点から大学生活において目的意識を持ち自覚的に自己を磨く意欲を高めるために、以下のような工夫を行った。

①アクティブラーニングによる自己成長力の向上

少人数のグループワークを中心としたアクティブラーニングを積極的に取り入れた。自己認識ワークシートやVRTカードを用いた職業適性判断や、自主開発したカードゲームやロールプレイによる模擬面接形式のコミュニケーション力及び情報収集力の向上を図った。また、他者とのディスカッションや協働作業を通して、自己の考えを多元的視点から検証するとともに、時間的展望を持って自覚的・主体的に思考・行動する態度の形成を促した。

②企業人・県職員参加の地域社会とつながる授業

地域就業力を高めるために、県職員や企業人を計4回授業に招聘した。現場で働く人とのコミュニケーションによって、現実に即した情報を直接収集し、地域社会との関わりや企業の社会的役割、働くことの意義、仕事上の課題解決の方法、対人関係のあり方など、就業にまつわりスキルや課題について多角的な視点から理解する機会を作った。そのことにより、学生の視野を広げることに役立つとともに、世代や立場を超えてコミュニケーションできる力が向上した。

③教育の質保証に向けた事前事後学習の強化と教員のFD

教育の質保証を図るために、事前・事後学習の徹底をおこなった。

事前学習：1週間前の授業あるいはムードル上で、次回授業の予告と下調べなどの課題を伝達した。全授業を通して概ね事前学習は徹底されていた。

注：ムードル：教員と学生が情報を共有する双方向学習支援ソフト

授業：事前学習による課題を学生が行っていることを前提に組み立てられた。最初に、

当日の授業目標を伝達し、グループワークによるアクティブラーニングを中心に展開した。授業の最後には、授業のまとめと次回授業の予告及び事後学習の課題を伝達した。

事後学習：レポート等をムードル上で提出させた。

④ルーブリック及び授業マニュアルの作成とFD活動

「地域就業キャリアデザイン」は、グループワークによるアクティブラーニングによる展開を想定していたため、少人数によるクラス編成が行われ、複数の授業が同時並行して開講された。そこで、担当教員の違いを超えて教育の質を均等にし、客観的評価を行うために、各回の授業内容と手法についてマニュアルを作成するとともに、原則として毎週授業終了後に授業担当教員によるFDを行った。また、学生の評価については、教員間の差を無くし授業の目標に沿って客観的に行うために、ルーブリックを作成して運用した。

⑤教育効果の測定

教育効果を測定し、次年度以降の教育改善に役立てるために、授業の節々で学生の思考・態度の変化を意識調査によって測定し、また授業に対する感想等をレポートによって求めた。

4. 授業の効果

受講生が目標（150名）を下回ったのは残念な結果であったが、授業そのものは順調に進行し学生の満足度は高かった。特に社会人による授業参加は、学生の多角的な視点の獲得及び学生の積極性を引き出すことにつながるとともに、地元企業の実態を知るという点で効果的であった。

①授業満足度

授業効果を測定するために、8つの指標について評価を求めた。評価値は1～5の範囲で、数値が高いほど肯定的な評価であることを示す。結果は各指標とも概ね高い評価を示していた。

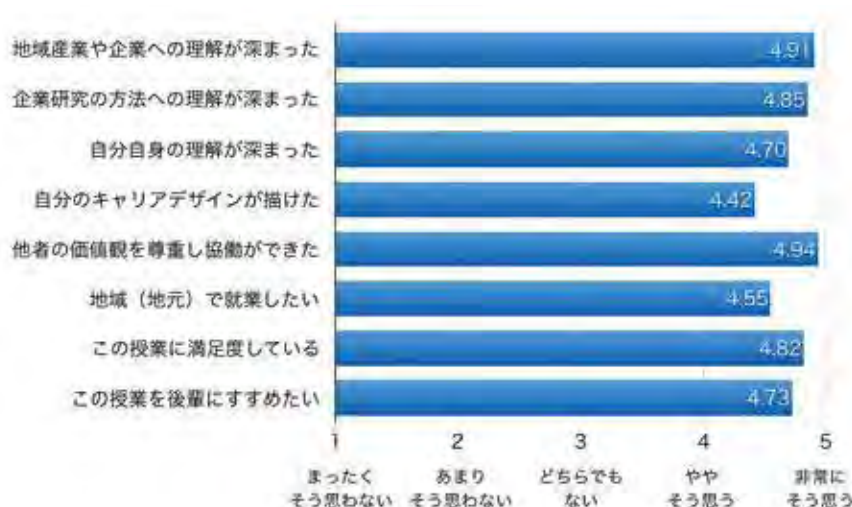


図 受講生の授業内容に関する評価（最大値5で、数値が高いほど肯定的）

②能力に関する測定値の変化

第1回授業と第15回授業において、受講生の自己の能力について評定した。測定項目は、キャリア形成にとって必要と思われる基本的な能力10項目とした。その結果、全ての能力において、授業後、肯定的な評価への変化を示していた。

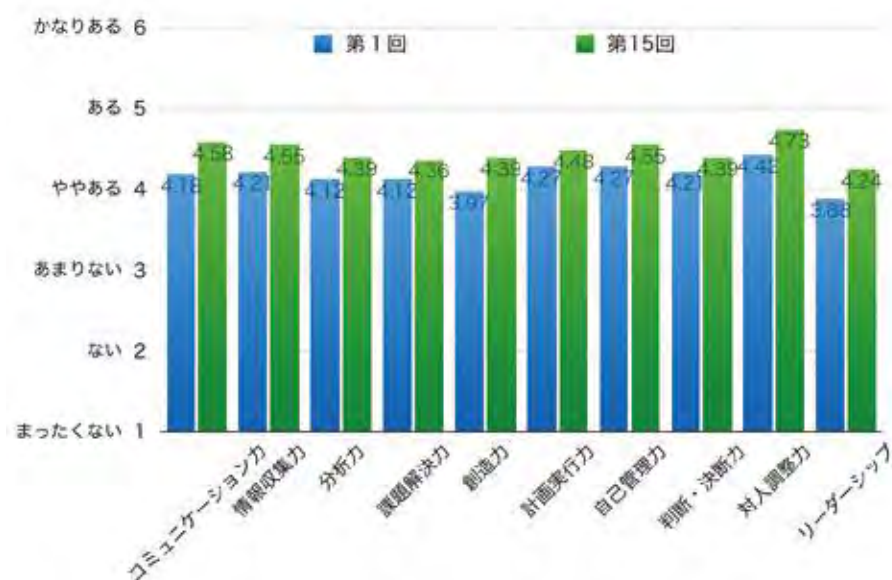


図 受講生の能力に関する自己評価の変化（最大値6で、数値が高いほど肯定的）

③授業に対する受講生の声（一例）

農学部 / 農業生産科学科1年生

自分の将来について考える良いきっかけになりました。グループワークも多く、自分1人ではできないことができるのが、この授業の魅力だと感じました。もし、自分のように将来について迷っている人がいたらぜひ、この授業を受けてほしいと思います。

法文学部 / 経済情報学科1年生

この授業を通して自分のキャリアデザインがかなり変わりました。この授業を取って本当に良かったです。

法文学部 / 法政策学科1年生

この授業は、グループワークが中心でしたので、様々な人に出会えたり、話したりする中で、自分の考えをおのずと形成することができました。やはり、座学では学べない大切なことは、色々な人と関わって学ぶのだと感じさせられました。とてもおもしろかったです。

2 就職支援への取り組み

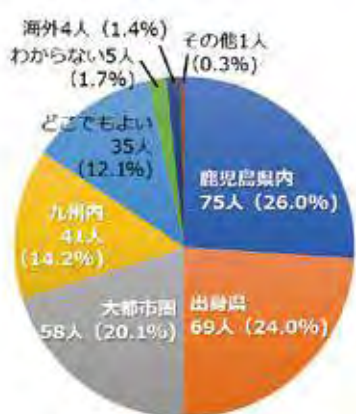
1. 就職に関する学生調査

県内就職率向上にむけた就職支援を行うに当たり、「産学官連携推進センター COC+推進部門」は就職支援センターと連携して学部3年生及び大学院1年生計288人を対象に「就職先希望アンケート」を6月に実施した。その結果、就職先として希望する地域は、鹿児島県75人(26.0%)、出身県69人(24.0%)、大都市圏58人(20.1%)、鹿児島県及び出身県以外の九州内41人(14.2%)、どこでもよい35人(12.1%)、わからない5人(1.7%)、海外4人(1.4%)、その他1人(0.3%)だった。

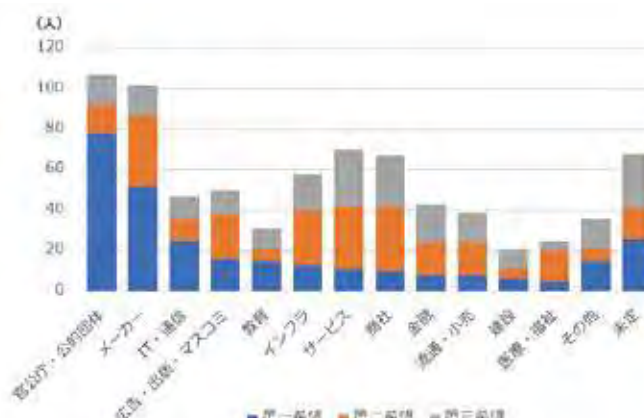
希望する業種は、第一希望としては官公庁・公的団体78人(27.0%)と最も多く、続いてメーカー52人(18.0%)、IT・通信25人(8.6%)が挙げられた。県内出身者のうち、県内就職を希望する学生で官公庁・公的団体を第一希望に挙げた割合は59.6%にのぼったことから、県内就職=公務員といった学生の意識の在り方がうかがえた。この結果から、官公庁・公的団体などを除き、県内に希望する就職先がないといった学生の「思い込み」や「知識不足」が推測された。

出席したい就職イベントとして、「多数の企業が集まる学内合同企業説明会」、「企業の人事担当者による交流会」、「企業の若手社員による交流会」が上位に上がり、学生の企業情報収集へのニーズが高かったことから、県内企業の魅力を学生に十分アピールできれば、県内就職の促進が図れると推測された。

さらに、学生への聞き取り調査(7月27日、8月9日、8月22日)及び「就活ゼミ」(6月27日、7月21日、8月8日)を実施し、より具体的な自己や地域に関する意識や大学への要望について把握した。これらに基づいて今年度の就職支援の方針を設定し、実施した。



就職希望地域



希望する業種



聞き取り調査



就活ゼミ

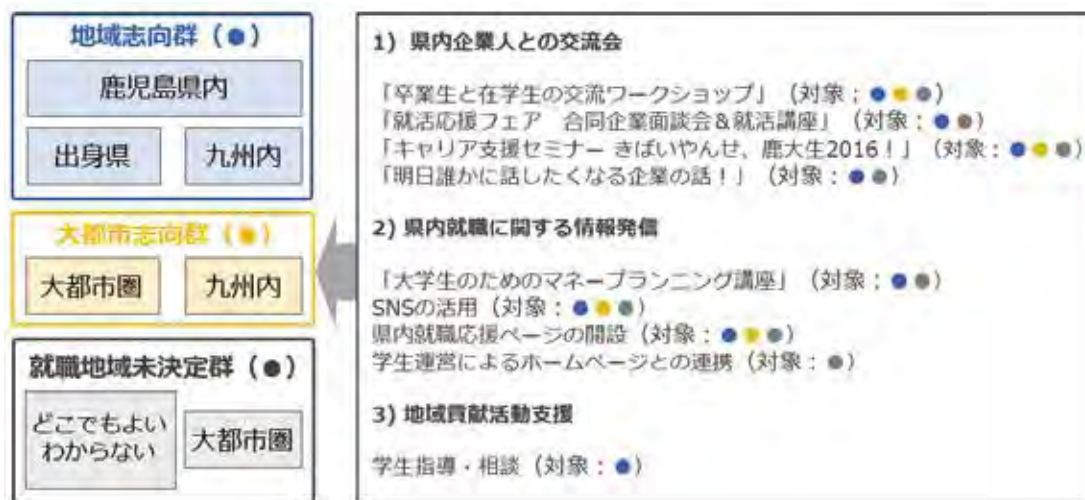
質問	回答者			
	水産学部3年 男性	法文学部3年 女性	理学部4年 男性	理工学研究科2年 男性
あなたが将来やりたいこと	学生の意識改革。学生に一番影響力があるのは私たち学生。就職してすぐの新人時代では、色々な職を経験し、将来的にはそれらを後輩に教えていきたい	企業と学生をつなぐことを仕事にしたい。鹿児島で働きたいと思う学生を少しでも増やしたい。自分自身の就職先は県外かもしれないが、将来的には鹿児島で働きたい	身の回りのあるものに貢献したい。40日間ホームレスをして、自分に必要なものとそうでないものがわかるようになった。目の前にあるものを大切にしていきたい	日本と海外をつないでいきたい。いつかは九州、地元で貢献したい。失敗しても良いから、やったことがないことを挑戦していきたい
鹿児島が将来どうなると良いか	鹿児島での賃金は高くはないが、社会人は楽しく仕事をしているように見える。社会人は学生と比べて、人としての温かき、人との距離感、視野の違いなどがある。それらを学生に伝えることで、鹿児島が楽しい場所になって欲しい	中高生も含め、色々な世代と交流できる場所になっていくと良い。自分が高校生だった頃に何を考えていたのかが振り返られるし、私たちにない視点がある。今の中高生が次の世代なので、中高生の考えも大切にしていきたい	地方都市としてリードするよくな都市になるといい。歴史と教育、歴史とアートなど、様々なジャンルとの融合を民間や行政が協働して行うことで他の地域に波及するようなビジネスモデルになっていくといいと思う	鹿児島はアジア圏と近いので、双方がもっとつながっていくといいと思う。自分の出身は大分だが、大学に入り、鹿児島の知り合いが多くなった。将来的に東京から帰ってきて鹿児島に戻ってくるかもしれない
COC+や大学への要望	学生生活のゴールは就職。就職に向けたイベントをもっとやって欲しい。多くの1、2年生はサークルやアルバイトに精を出す。早い段階から社会人と関わる場があってもいいと思う	大人の話を聞ける場所をもっと増やして欲しい。私たちの願いでもあるし、中高生も同じようなことを思っている。気軽に大人たちと話せるような場所やきっかけが欲しい	学生は授業を享受する側で、学生のことを大学は思っているのか疑問。大学と学生の距離が近いような気がする。軽微なことでもいいから、学生の要望に対して応えて欲しい	大学内の組織の目標は、実はお互い近かったりする。しかし縦割りの構造になっていて情報の共有ができていない。学生から見てもつたいない。円滑かつ効率的に目標達成するために横のつながりをもっと増やして欲しい

聞き取り調査で得られた主な意見

2. 就職支援の概要

①就職支援の方針

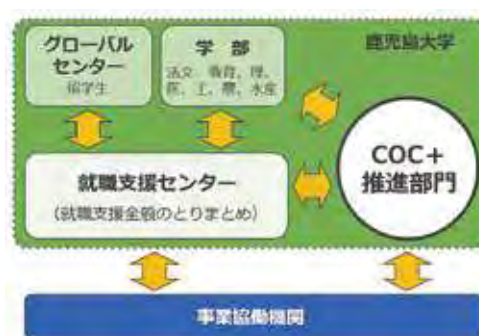
学生への調査結果を踏まえ、学生を志向別に「地域志向群」「大都市志向群」「就職地域未決定群」の3タイプに分類した。就職支援の方針として、1) 県内企業人との交流会、2) 県内就職に関する情報発信、3) 地域貢献活動支援の3つの柱を立て、それぞれの志向群に向けた取組を行った。



就職支援の方針

②就職支援体制

COC+推進部門は学内の各機関等（就職支援センター、学部就職支援窓口、留学生室）及び事業協働機関との連携を図りながら就職支援を行った。



就職支援体制

③主な取り組み

1) 県内企業人との交流会

- 「卒業生と在学生の交流ワークショップ 活躍する卒業生からのメッセージ～大学時代に学んでおくこと～」(5月21日)

地元企業に就職した卒業生から、就業後に求められる能力や資質、在学中に学修すべきことや大学生生活の過ごし方などについて生きた情報を得ることにより、就職活動に向けた有効な対策のヒントを在学生在が得る機会とするとともに、今後の大学教育や就職支援の充実に資することを目的としてCOC+推進部門が主催した。地元企業等に就職している卒業生8人と鹿児島大学をはじめとする県内大学から17人の学生が参加した。卒業生2人による講話や、大学教育や就職支援のあり方などについてグループワークを行った。最後に各グループから人間力やコミュニケーション能力を磨くための授業科目などについて発表を行った。

- 「就活応援フェア 合同就職面談会&就活講座」(6月25日)

鹿児島県若者就職サポートセンター主催、COC+推進部門及び就職支援センターの協力による就職講座及び就職面談会が本学で開催された。当日は地元企業105社と大学生・短大生・専修生を含む若者278人が参加した。「企業が求める人材とは」と題した就職講座のほか、採用担当者からのアドバイス、若手社員の就活体験談などを直接聞くことができる交流会が持たれた。

- 「キャリア支援セミナー きばいやんせ、鹿大生2016！」(12月17日)

就職支援センター主催、COC+推進部門協力によって本学で開催された。当日は全学年51人が参加した。県内外の第一線で活躍する7人の講師から一人ずつ、学生時代の経験を含めた自己紹介があり、続いてビジネスの心構えやグローバル人材に必要とされること、地域貢献のあり方、ダイバーシティの意味等が語られた。その後、学生からの様々な質問や悩みに答える座談会が開かれ、最後に講師から、求める人材や鹿大生に期待することについて語られた。

- 「明日誰かに話したくなる企業の話！（地元企業との意見交換会）」(1月28日)

鹿児島銀行主催、COC+推進部門共催により本学で開催した。本イベントは、地方創生に向け、県内企業と学生との情報交換を目的としたものである。県内52社が出展し、本学およびCOC+参加校、県外学生など約270人が参加した。イベント実施に当たり、鹿児島銀行は企画・運営を行う「課題解決型」インターンシップを実施し（11月16日、

11月24日、12月14日、1月11日)、本学及びCOC+参加校に加え鹿児島純心女子大学生33人がインターンシップ生として関わった。

2) 県内就職に関する情報発信

■「大学生のためのマネープランニング講座」(10月27日)

COC+推進部門主催により、日本証券業協会から講師を招聘し、県内就職または地方で就職する際に人生に必要なお金の内訳、将来豊かな人生を送るための心構え、資産運用についてなどの情報発信を行った。当日は学生16人、教職員4人が参加した。事後アンケートによると、これまでに経済的な側面の情報提供はあまりなかったということで、参加者は多くの興味を持ったようであった。

■SNSの活用(5月～随時)

多くの学生がソーシャルメディアを活用していることから、COC+推進部門によるFacebookページ(<https://www.facebook.com/鹿児島大学-COC-222609578126190/>)を開設し、県内企業人との交流会や県内企業などの情報発信を積極的に行った。

■県内就職応援ページの開設(2月～)

県内への就職支援に関する情報発信の強化を目的に、本学就職支援センターホームページ内に「県内就職応援ページ(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/job/coc.html>)」を開設した。

■学生運営によるホームページとの連携(2月～)

学生自身が制作・運営を行っている「KADAI INFO(<http://www.kadai-info.com>)」と連携し、学生目線による県内企業に関する情報発信を行った。

3) 地域貢献活動支援(6月～)

企業人と学生との交流を通じて地域活性化を図る学生団体「KAGOらぼ」(平成28年度進取の精神チャレンジプログラム地方創生部門)への指導・助言を行った。地元で働く社会人と学生の交流イベント(10月22日、11月26日、12月14日、1月21日)が実施された。また、興味深い企業人の人生観や職業観を取材した冊子「かごんまが人」も発行された。

3. 就職支援の効果

今年度は学生の県内就職に対する「思い込み」や「知識不足」の払拭と、高い企業情報収集へのニーズに応えるため、学生を志向別に3タイプに分類し、それぞれに向けた取組を1)県内企業人との交流会、2)県内就職に関する情報発信、3)地域貢献活動支援の3つの柱に基づいて様々な就職支援を行った。地元企業と学生との意見交換会に参加した学生からは、「自分の知らない企業について詳しく知ることができてとても参考になった」、「県外の企業に就職したいと思っていたが、県内の企業の話聞いて色んな考え方や経験をすることができた」、「自分の知らない業界を知るきっかけになった」といった肯定的な感想を得ることができた。企業からも「学生が企業に何を望んでいるのか、生の声を聴くことができた」、「今後の採用活動に

向けてヒントを得ることができた」、「学生からの意見も取り入れて、今後の採用に反映していきたい」といった感想を得たことから、学生・企業の双方に一定の効果があったと考えられる。今後は学内組織や事業協働機関等と一層の連携を行い、「オールかごしま」でより効果的な就職支援を行っていきたい。

2 鹿屋体育大学

1 人材育成

【社会人基礎力テストの実施】

1年生及び3年生に対して、社会人基礎力テスト（PROGテスト、リアセック社）を受検させた。受検者数及び受検率は次のとおりである。

1年生（受検者数／受検率）…178名／100%

3年生（受検者数／受検率）…179名／92.3%

1年生は入学早々の4月14日にテストを受け、7月7日にフィードバック及び解説を、3年生は当該年次の履修科目であるスポーツ指導実習及び企業実習の履修後の12月下旬にテストを受け、2月15日にフィードバック及び解説を行った。

この社会人基礎力テストはリテラシー及びコンピテンシーのそれぞれのチカラを数値として可視化でき、3年生は当該学生の入学時に受検しているため、このテストによって、学内での教養科目及び専攻科目さらにはスポーツ指導実習等を経たうえで、学生個々の成長度を数値として気付かせることができた。リテラシー及びコンピテンシーともに平均値では成長の数値が見られた。

2 就職支援

【企業等説明会の開催】

2年前まで実施していた学内での合同企業説明会は、就職活動スケジュールの変更に伴い学生の参加が見込めないため、現在は実施を見送っている。

一方で、企業等からの合同企業説明会開催の要望は依然として高いため、企業等のアピールの場を提供する手段として、本学では、個別での企業等説明会に注力した。

個別企業等説明会の案内チラシ（写真①）を作成し、本学ホームページへの掲載や企業等の人事担当者との打合せの際に開催を呼びかけた。

その結果、延べ26社（昨年度比12社増）の個別企業等説明会を学内で開催するに至った。



写真①

3 地域や地元企業との連携活動等

【インターンシップ等受け入れの開拓】

現3年次生より本学教育課程においてスポーツ指導実習（※）が必修化された。それに伴い、受入先の開拓を行う必要があったため、今年度新たに、県内の企業14社、公共施設6機関に受け入れ要請を行い、了承を得た。

また、企業実習においても大隅半島の企業3社に対し受入先の開拓を行い、そのうち1社に対

して1名を派遣した。

(※スポーツ指導実習とは、学内での学習を基礎に、指導現場における実地的・実践的な実習を通じて、スポーツに特化した指導力等の涵養等を目的として行う実習を指し、「スポーツコーチ実習」「生涯スポーツ指導実習」「武道指導実習」の3つから構成される。)

さらに、「企業・自治体等との懇談会」と称して、第1回となる12月22日に鹿屋市内の3つの医療機関との懇談会を開催し、今後のインターンシップの受け入れや就職の受け入れ等の連携についての強化を図った。

本学からは副学長をはじめ9名の教職員が、医療機関からは病院長等をはじめ9名の病院関係者が参加した。

3 鹿児島国際大学

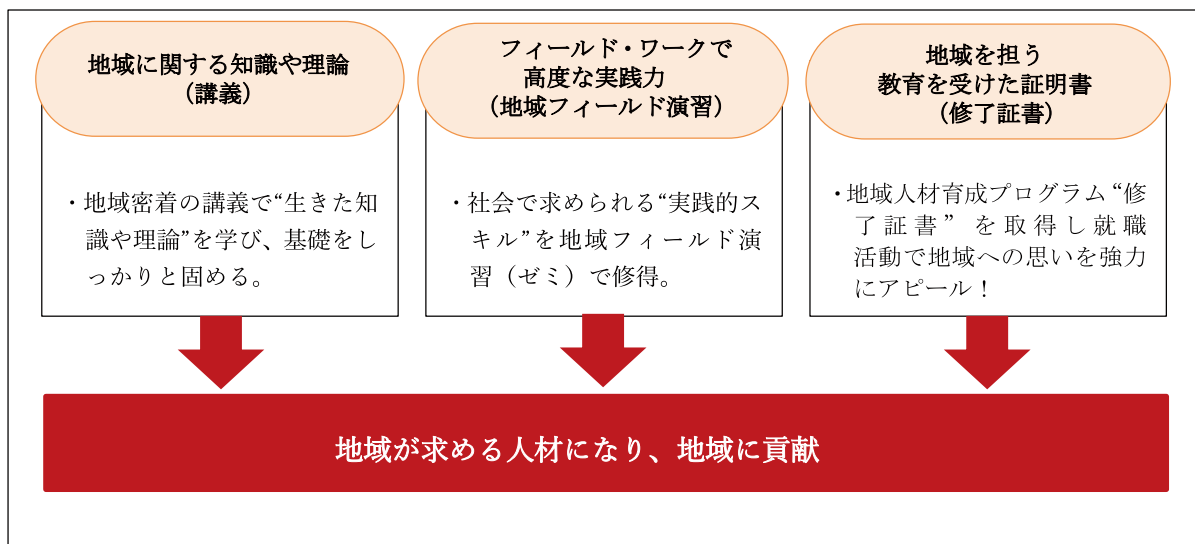
1 人材育成

①教育プログラムの実施

- ・「地域人材育成プログラム」、「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を開講し、「地域志向科目群（全学生選択必修2単位）」および「地域志向演習」を実施した。

②教育プログラム実施に必要な教育環境の整備充実

- ・オリエンテーションや学部別演習ガイダンス等の期間に、地域人材育成プログラムについての説明会を行い、学生が混乱なく履修できるよう周知した。
- ・7月の教育プログラム開発委員会および地域人材育成委員会において「地域人材育成プログラム」一部変更の承認を得て、地域を研究のフィールドとした基礎演習（地域フィールド演習科目）を3年次からの実施を2年次からの実施へと引き下げ、学生が履修しやすい教育環境の整備を図った。



教育プログラム履修のメリット

- ・平成29年2月に垂水市と地方創生の取り組みに関する協定を締結し、平成29年度に同市を研究対象とする地方創生関連の寄附講座を開設する準備を行った。
（垂水市が進める新しい観光拠点づくりのプロジェクトを通し、地方経済の実態を学ぶ。地方経済の知識や理論からフィールドワークの実学へつなげ、地域で活躍する人材育成を目指す。）

③フィールドワーク活動記録および自己評価の実施

- ・「フィールドワーク活動記録」の管理活用に向けた取り組みを行った。
- ・フィールドワーク終了後に学生自身がWebキャリア・ポートフォリオや「フィールドワーク活動記録」を活用して、総括的なりフレクシオンに基づく自己評価を行った。学生が自己の能力レベル等を具体的に把握し、地域が求める人材に向けてのモチベーションを向上させることができた。

2 就職支援

①委員会等における事業協働機関との意見交換および教育プログラム（含修了証明書）認知のための普及活動

- ・教育プログラム修了証が、地域のプロフェッショナルになるための教育プログラムを受けたことを証明するものであることを地元企業等に認知してもらうため、地域人材育成委員会と教育プログラム開発委員会を開催して、意見交換や協力要請を行った。
- ・地域フィールド演習の認定条件や実施に向けた要領作成など、教育プログラムの推進や修了証発行に向けた準備を行った。

②連携協定に基づく教育活動

- ・就職キャリアセンターを中心とした大学主催合同企業説明会や協定締結先と連携した地元企業と留学生との座談会など、就職支援のためのイベントを実施した。
- ・鹿児島県、鹿児島市、阿久根市、西之表市、南大隅町、大和村との連携協定に基づく教育活動等を行い、雇用に結び付くインターンシップ先の開拓とインターンシップ実施に取り組んだ。（③地域や地元企業との連携活動等へ関連事項再掲）

3 地域や地元企業との連携活動等

①国内外インターンシップ事業の推進

- ・COC+事業協働機関と連携したインターンシップをはじめ、COC地域人材育成プログラムにおけるプレ・インターンシップや国内インターンシップに108名の学生が参加した。
- ・インターンシップ参加学生の増加に伴い、受け入れ先の拡充にも取り組んだ。
- ・昨年度、事業協働機関と連携した開拓に取り組んだ結果、海外インターンシップに新たに香港が加わった。現在、中国・台湾・香港・シンガポールの4ヶ国で実施している。

国内インターンシップ・海外インターンシップ参加人数

国内種類	参加人数	海外国別	参加人数
鹿児島県インターンシップ	26	中国・大連	3
3日間社長のカバン持ち体験	29	台湾・台北	9
本学独自開拓インターンシップ	41	香港	3
エアラインインターンシップ	2	シンガポール	3
プレ・インターンシップ	6	計	18
COC + 事業協働機関インターンシップ	4		
計	108		

②包括連携協定締結

- ・新たな連携先として、4月に鹿児島商工会議所、7月に日置市と包括連携協定書を締結した。
- ・7月にスターフライヤーと包括連携協定締結の更新を行った。
- ・平成29年2月に垂水市と地方創生の取り組みに関する協定を締結した。



日置市との包括連携協定締結式の様子

③地域や事業協働機関等との連携取組

- ・連携協定に基づく教育活動の一環として、更には地域フィールド演習として鹿児島県内各地でフィールドワークを多数実施した。
- ・実際に現場に行き、地域が抱える課題を発掘し、その解決に向けて地域社会と協働しながら具体的な解決策を考え、実践するフィールドワークに約640名の学生・教職員が参加した。

本学で取り組んでいる多彩なフィールドワーク例



《鹿児島市》 喜入旧麓地区景観保存活動



《阿久根市》 地域活性化プロジェクト



《西之表市》 留学生モニターツアー



《西之表市》

観光モニターツアーおよび商店街調査



《南大隅町》 地域活性化対策・策定



《いちき串木野市》 ふるさと水土里の探検隊

④生涯学習センターと連携したシンポジウムやワークショップの開催

- ・10月に「地方創生と大学の役割～地域の担い手づくり」のテーマでシンポジウムを開催し、事業協働機関関係者、地域住民ほか約230名が参加した。
- ・平成29年1月に「地域の夢」～谷山・坂之上地域の未来を語る～としてワークショップを開催し、事業協働機関関係者、地域住民ほか約450名が参加した。

⑤COC+大学との連携取組

- ・4月、6月、8月、9月、平成29年1月に開催したCOC+事業協働機関連絡会に出席し、事業の進捗状況の把握と協議等についての意見交換を行った。
- ・10月に開催した「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016」に出席し、ポスターセッションへの参加や、各参加大学との情報交換を行った。

⑥情報発信などの広報活動（地域や高校等との取組など）

- ・地域や地元企業との連携活動等をはじめ、COC+およびCOC事業の取り組みは、COC事業専用のホームページにて取り組みと成果を逐次報告、公表し、事業協働機関とは常に情報の共有化を図っている。
- ・平成29年2月に「高校生よかアイデアコンテスト」の最終審査並びに表彰式を開催した。同コンテストは、高校生が自分の身近な地域に目を向けて課題を発見し、解決策を考える時間を通して、地域を担う若者に成長する機会の提供を目的に今年度、初めて開催した。ホームページにてこの取り組みを公表した。



「高校生よかアイデアコンテスト」表彰式

⑦年次報告の実施及び学外評価委員会

- ・学内・学外評価委員会に年次報告を実施した。
- ・平成29年2月に学内評価を受け、3月に外部評価委員による学外評価委員会を開催し、評価を受けた。取組みのPDCAサイクルを効率的に回し、着実な目標の達成を目指す。

4 志學館大学

1 人材育成

○インターンシップ受入先の新規開拓と事前学習の強化

自治体や企業等との連携による地域を意識した「地域インターンシップ」を新たなモデルとして追加し、演習・実習系の科目に取り入れた。また、既存の共通教育科目「インターンシップ」では、事前学習にJA鹿児島県経済連・鹿児島女子短期大学等との連携による「鹿児島産品レシピ開発プロジェクト」や「国際交流プロジェクト」、ショッピングモールでの「食と観光フェスタ」実施を取り入れることで、実践力やチームワーク力、振り返る力を鍛えた上で就業体験実習に参加する形を整えた。



○共通教育科目「キャリア開発演習Ⅱ」では、鹿児島県交通政策課・霧島市等との連携により、「交通政策論」講座および鹿児島の陸・海・空を実践的に学ぶ「交通政策フィールドワーク」を実施した。



○共通教育科目「キャリアデザイン」では、「薩摩剣士隼人」等のローカル・キャラクターやコンテンツを多数制作・発信している企業との連携により、地域分析力と発信力を身に付ける講義や現地研修を行った。



○共通教育科目「キャリア概論」をはじめ、キャリア形成科目群において、地元企業、行政、施設、士業、NPO等より外部講師の招聘による講話を増やした。

○共通教育科目「学問へのステップ」への全学での地域取材学習導入について検討した。

○共通教育科目「ボランティア企画実習」でショッピングモールでの「地域交流フェスタ」と鹿児島市地域振興課との連携による「町内会活性化プロジェクト」を実施した。

○専門教育科目「社会産業実習」で湯砂菜企画等との連携による「特産品広告実習」を実施し、調査した内容を壁新聞にまとめて学内に掲示広告した。

○専門教育科目「産業組織心理学演習」でNPO桜島ミュージアムとの連携による「桜島応援プロジェクト」を実施した。

○専門教育科目「特殊研究」(野上ゼミ)で鹿児島市・鹿児島女子短期大学共催「食育フェスタ」に参加した。また、「山川鯉節商品開発プロジェクト」や「地域交流フェスタ」を実施した。

○専門教育科目「専門演習」(志賀ゼミ)で鹿児島市「天文館広場活用事業」への応募やNHK市町村活性化関連番組への協力、南さつま市観光協会との連携による「公認特派員プロジェクト」、同協会と本坊酒造との連携による「地域インターンシップ」、JA鹿児島県中央会等との連携による「弁当男子コンテスト」を実施した。特に、弁当男子コンテストは地元マスメディア全社の取材を受け、ニュース番組で放送され、新聞にも掲載された。



I 事業協働機関との連携

II COC+ 参画校の事業実績

III 事業協働機関の主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

料

- 資格センターに、鹿児島商工会議所後援で東川隆太郎氏による「かごしま検定対策講座」を新設し、生涯学習センターの後援により一般にも開放した。



- 進路支援センター教職員のキャリア研修実施
学生との面談や面接練習のやり方についてキャリア・サポーターによる研修を実施したり、鹿児島経済同友会の異業種交流会に教職員が参加したりすることで、スキルアップや情報収集を行った。

2 就職支援

- 進路支援センターによる既存の50以上のプログラムのうち、下記については広い会場に変更して受け入れ企業数を増やしたり、学内実施から本番さながらのホテル実施に変えたりした。
大学主催「合同企業説明会」の拡大実施（4月20日、77社）
「経営者と語る会」の学外実施（7月13日、中小企業家同友会）
「模擬面接会」の学外実施（11月9日、東南ロータリークラブ）
「模擬面接会」の学外実施（12月21日、中小企業家同友会）
「企業経営者との座談会」（2月21日、鹿児島東倫理法人会）



- 次のプログラムを新規に追加した。
1年生対象「社会人基礎力テスト・解説講座」
1・2年生対象「企業経営者との座談会」（2月21日、鹿児島東倫理法人会）
3年生対象「就職基礎ガイダンス」、SPI活用講座、実践書類作成講座、模擬面接&GD対策講座



- キャリア・サポーターの活用により、全学および卒業生対象の就職相談・面接練習の時間を増やした。

3 地域や地元企業との連携活動等

人材育成に関連して行った連携活動

- 共通教育科目「インターンシップ」事前学習「鹿児島農産品レシピ開発プロジェクト」
連携：JA鹿児島県経済連・鹿児島女子短期大学
- 同「国際交流プロジェクト」
連携：JA鹿児島県経済連・鹿児島女子短期大学・鹿児島大学グローバルセンター・九州日本語学校・ボランティア団体～響～
- 同「食と観光フェスタ」
連携：大和リース・鹿児島市交通局・EN WATER FARMS・湯砂菜企画・NPOトカラインターフェイス
- 共通教育科目「キャリア開発演習Ⅱ」における「交通政策論」および「交通政策フィールドワーク」
連携：鹿児島県企画部交通政策課・霧島市・日本エアコミューター・鹿児島空港ビルディング・南国交通・マルエーフェリー・鹿児島ドック鉄工
- 共通教育科目「キャリアデザイン」における「薩摩剣士隼人プロジェクト」
連携：ポケモンプロ
- 共通教育科目「ボランティア企画実習」における「地域交流フェスタ」
連携：大和リース・ボランティア団体～響～・NPO薩摩ロッククラブ・NPO桜島ミュージアム
- 同「町内会活性化プロジェクト」
連携：鹿児島市地域振興課
- 専門教育科目「社会産業実習」における「特産品広告実習」
連携：湯砂菜企画・NPO桜島ミュージアム・山川水産加工協同組合・富士屋製菓・芳恵丸
- 専門教育科目「産業組織心理学演習」における「桜島応援プロジェクト」
連携：NPO桜島ミュージアム
- 専門教育科目「特殊研究」（野上ゼミ）の鹿児島市・鹿児島女子短期大学共催「食育フェスタ」参加
連携：鹿児島市健康総務課・鹿児島女子短期大学
- 同「山川鯉節商品開発プロジェクト」
連携：山川水産加工協同組合

- 専門教育科目「専門演習」(志賀ゼミ)における「公認特派員プロジェクト」および「地域インターンシップ」

連携：南さつま市観光協会、本坊酒造

- 同 「弁当男子コンテスト」

連携：JA鹿児島県中央会・JA鹿児島県女性組織協議会・鹿児島県立加世田常潤高等学校・南さつま市観光協会

- 資格センター「かごしま検定対策講座」

後援：鹿児島商工会議所

就職支援に関連して行った連携活動

- 「経営者と語る会」

連携：鹿児島県中小企業家同友会

- 「模擬面接会」

連携：東南ロータリークラブ、鹿児島県中小企業家同友会

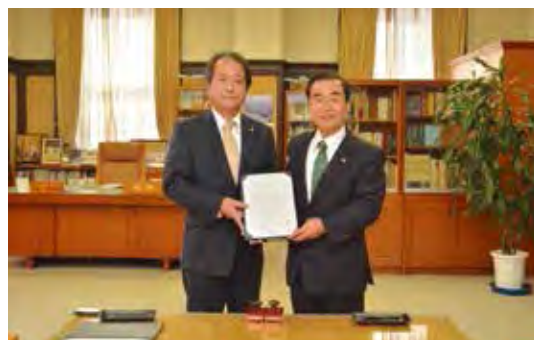
- 「企業経営者との座談会」

連携：鹿児島東倫理法人会

COC+事業推進会議での議論や事業の実施により、学内での社会連携の機運が格段に高まり、下記が実現した。

- 鹿児島経済同友会の異業種交流会への教職員等の参加（8月29日）

- 指宿市との包括連携協定締結（8月31日）、鹿児島市との包括連携協定締結（11月1日）



- 鹿児島県中小企業家同友会との「意見交換会・懇親会」の実施（1月11日）

- 鹿児島県商工会議所の協力による「4年制文系大学卒業者に求める能力に関するアンケート」実施

5 第一工業大学

1 人材育成

「学生による西郷公園リノベーション」

霧島市の西郷公園を対象として、公園のリノベーション案を作成した。学生が主体となり、現地調査、模型製作、イメージスケッチ制作、地域住民へのヒアリング等の実施を通して再整備プランを考案し、霧島市にプレゼンテーションを実施した。

地域の身近な公共空間を対象として、再整備による地域活性化案を考えることで、学生の地域理解が進み、地域への参加意欲が醸成された。リノベーション案づくりを進める上で、周辺の小学校や幼稚園、観光商業施設、公園利用団体、イベント実施団体等、地域へのヒアリングを実施した。より詳細な地域ニーズが把握でき、具体的な公園リノベーション案が立案できた。

成果を霧島市に数回プレゼンテーションすることで、学生の意識向上と実践的なキャリア教育の実現ができた。実践的なテーマに取り組むことで、学生の地域への参加意識が醸成された。次年度は、同フィールドを活用した地域イベントの開催等、積極的な展開を試みる。



ヒアリングの様子



プレゼンの様子

「学生による地域魅力発見」

霧島市隼人町松永にある平熊地区を対象として、地元の自治会の方々の協力を得ながら、学生が主体となった地域の魅力発見と、冊子媒体へのとりまとめを実施した。

演習の初期段階においては、自治会の方々から人口減少・高齢化など地域が抱える問題と、それに対する自治会の様々な試行錯誤を教えていただき、活動に対する明確なモチベーションの醸成を図った。これを受けて学生は、「平熊を訪れてみたい」と思ってもらえるような魅力の発見と発信媒体の作成というテーマを設定するに至った。

対象地となった平熊地区は、ごく一般的な農村に見られる地域であるため、日本人が共感しやすい農村景観を呈する反面、際だった特徴を見出すことは容易ではない。学生は現地調査を実施し「五感で楽しむ平熊」というテーマで成果をとりまとめた。「地



プレゼンの様子



冊子例

域の魅力とは何か」という疑問になんらかの解答を出すべく試行錯誤を繰り返したことで、地域の現状や将来に対する関心を高め、具体的な方法を提案することができた。

2 就職支援

「インターンシップ事前勉強会の開催」

卒業生の県内企業への就職者数増加のための取り組みとして、県内企業のインターンシップへの参加者の増加を目指している。しかし、学生が企業の業務内容や特徴・トピックスなどを知る手段が少なく、積極的に参加する学生が少ないのが現状である。そこで、インターンシップを受け入れる企業にそれぞれの特徴等を学生に「直接」アピールする機会を設けることで、より多くの学生が企業やその内容を知り、インターンシップへの参加者増、さらに就職者増が期待される。

この機会として、平成29年5月に「企業勉強会」を開催する予定であり、学生の勉強会へ参加する意識を高める目的として、2月9日に「インターンシップ事前勉強会」を開催した。これは2年生を対象とした勉強会であり、各学科合わせて47名が参加した。(株)リクルートキャリアの協力を得て、インターンシップに参加した経験を持つ3年生・4年生をパネラーとしたパネルディスカッション形式の事例紹介およびインターンシップの目的や参加するメリットなどの説明が行われた。参加者は経験者の生の声を聞いたことで、インターンシップの重要性を理解し、来年度以降の参加者数増加に寄与できたと考える。



勉強会の様子



パネラー

3 地域や地元企業との連携活動等

「大学発ベンチャー製品を核とした地元企業連携活動を通じた新規雇用創出」

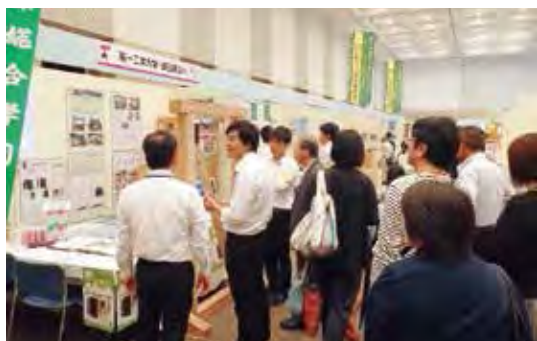
大学発ベンチャー製品（DIT制震金物）を核として、学生が主体となった公開講座、市民講座、展示会等を多く開催し、学生の防災意識の改革が図れたとともに、各催し物の企画からの取り組みで、リーダーシップとコミュニケーション能力の向上さらにはプレゼンテーション能力の習得につながった。

地元企業との課題解決型学習（PBL）の実践では、お互いの意思疎通が図れ、学生から見て魅力ある企業に、企業から見て求める学生の育成につながり、自ら考え行動する技術者の育成ができた。結果として、PBL協力企業に参加学生の就職が決まった。そして、本PBLの発展で、学生が計画した耐震補強が実際に施工され、学生自身も施工に参加し、仕事に対する意欲向上と地域

貢献のやりがいを強く体験した。

これらの活動は全国紙をはじめとし、各種マスコミに大きく取り上げられ、産学連携活動の広報に大きく貢献した。

さらに、新規雇用の創出（地域活性化）を目的に本ベンチャー製品の拡販に向けたベンチャー企業を設立した。



展示会の様子



学生施工の様子

「JAあいら、霧島市との産学連携プロジェクトによる新商品開発」

平成28年度に開講した植物バイオシステムコースは、平成28年3月24日、霧島市、JAあいら、第一工業大学の三者で締結した「包括連携協定」に基づき、林野庁主催の「森のめぐみプロジェクト・食べて美味しい、からだも嬉しい、新メニュー・新商品コンテスト」に応募、新商品部門で平成28年6月大賞を受賞した。この結果を受けて新商品をブラッシュアップの上、市民を巻き込んだ「ネーミングコンテスト」も開催し、「霧島さん家のグラノーラ」という商品名で平成28年12月発売された。本商品は、現在、鹿児島空港、銀座鹿児島逸品館、市内「霧や櫻や」、管内のAコープで販売されている。

大賞受賞からネーミングコンテスト、上市までの一連の活動は、各種マスコミに大きく取り上げられ、産学連携活動の広報に役立った。農業系を志向する県内高校生へ、あらたな進学先としての植物バイオシステムコースの認知度向上に寄与した。



開発グラノーラ



フォーラムの様子

6 鹿児島県立短期大学

1 人材育成

ア 学生委員会での検討（キャリア形成、就職支援など）

- 7月26日、学生委員会や教務委員会を主とする教員や職員等を対象に産学コーディネーターによる「産学コーディネーター報告会」を開催した。
- 学生委員会と産学コーディネーターの連携により、具体的なキャリア形成と就職支援が一体となった学生支援を行うとともに、これからの支援の在り方について検討できた。

イ 教務委員会での検討（教育カリキュラムの再検討、インターンシップの強化など）

- 7月26日、学生委員会や教務委員会を主とする教員や職員等を対象に産学コーディネーターによる「産学コーディネーター報告会」を開催した。
- 教務委員会と産学コーディネーターの連携により、教育カリキュラムの再検討、インターンシップ強化の方法の検討につなげることができた。

2 就職支援

ア 産学コーディネーターの配置

- 4月、産学コーディネーターを配置した。
- 企業訪問により産業界情報と企業が求める学生像、スキル等の収集と把握を行うとともに、卒業生の就職状況を把握し、就職先の開拓、卒業生の定着支援を行った（訪問企業数：118社、2月15日現在）。
- 産学コーディネーターが学内教務部門・就職支援部門等と連携することにより、全学的な役割分担の下、実施体制を構築することができた。

イ 資料整理補助員の配置

- 4月、産学コーディネーターを補助する資料整理補助員を配置した。
- 産学コーディネーターが収集した企業情報等の整理とともに、産学コーディネーターの指示の下、情報分析の補助を行った。

ウ 企業向けリーフレットの作成・配布

- 3月、「企業向けリーフレット」を作成した。
- 企業向けリーフレットを作成・配布し、本学学生の人物像・スキル等を県内企業に紹介することにより、学生の県内就職率の向上と定着の推進を図ることができた。

3 地域や地元企業との連携活動等

ア 県内企業訪問調査、産業界情報の収集及び就職先の開拓、卒業生の県内就職先への定着支援

- 企業訪問により産業界情報と企業が求める学生像、スキル等の収集と把握を行うとともに、卒業生の就職状況を把握し、就職先の開拓、卒業生の定着支援を行った（訪問企業数：118社、2月15日現在）。また、企業訪問時には、COC+事業の広報も行った。

- 産学コーディネーターが企業のニーズと動向を収集し、就職した卒業生の就職状況を具体的に把握することにより、教育カリキュラム編成の検討に活用するとともに、企業と学生のミスマッチの解消など具体的な就職支援の方法の検討につなげることができた。

イ 県内関係機関との意見交換

- 9月26日、「企業懇談会」を開催した。
- 県内企業5社の採用担当者と本学教員及び職員で、①企業が必要とする人材、②本学に望む教育や就職指導についての意見や提案、③就職活動中の学生へのアドバイス について意見交換を行い、情報交換・共有化を図った。

ウ 企業向けリーフレットの作成・配布（再掲）

- 平成29年3月、「企業向けリーフレット」を作成した。
- 企業向けリーフレットを作成・配布し、本学学生の人物像・スキル等を県内企業に紹介することにより、学生の県内就職率の向上と定着の推進を図ることができた。

7 鹿児島女子短期大学

1 人材育成

鹿児島を知り、その魅力や問題点を理解することで地域マインドを醸成すること、体験的に地域と関わることで地域の中に自分を位置づけるローカル・アイデンティティを確立すること、それをベースに地域の課題解決に取り組む意欲や他者と協働するためのコミュニケーション能力を高めること等を目標に教育に取り組み、最終的には卒業生が地域活性化の担い手として地元に着することを目指す。

(1) 全学的な必修科目「WE LOVE 鹿児島！」の授業に各学科の特性を生かして取り組んでいる。

- 児童教育学科：学生の意志に基づいて鹿児島についての6分野にグループ分けし、地域志向の活動を実施した。〈写真①〉
- 生活科学科：地域の防災を座学と体験学習を通して学ぶ。〈写真②〉
- 教養学科：ユネスコ選定を受けて仙巖園・関吉疎水溝・寺山炭窯跡などの世界文化遺産を見学した。〈写真③〉



①「食育フェスタ」でのおはなし会



②防災体験学習



③寺山炭窯跡の見学

(2) 「WE LOVE 鹿児島！」の理念を生かしたCOC科目や地域連携型教育の充実に努めた。

- 生活科学科食物栄養学専攻：『鹿女短スマイル食育プロジェクト』として専攻の教員と学生全員が6つのプロジェクトに分かれ、「鹿児島の食」をテーマに、本学の持つ「調理学」「栄養学」「食文化」「食品加工」「栄養教育」「食育」等の知識・技能と外部連携先が持つ「地域食材」「農業」「食環境」「文学」「食品流通および販売」等の資源を融合させ、新たな視点での商品開発・イベントの開催・異文化交流・食育教材の開発等に取り組んだ。〈写真④⑤〉



④



⑤

④⑤「(鹿女短+志學館) ×指宿市=世界」の国際交流活動：留学生を交えた郷土料理作り

- 生活科学科福祉専攻「介護の基本Ⅱ」：介護を必要とする人や、その人の生活の場について学ぶ。〈写真⑥〉
- 教養学科「プロジェクト演習」：学生の地元リサーチによる手作りの小冊子「おごじょたん」の発行は第4号となった。また、新たなCOC科目の立ち上げが決定した。〈写真⑦〉



⑥「介護の基本Ⅱ」：高齢者施設での利用者さんとの交流



⑦「おごじょたん」第3号

- (3) 各学科毎にCOC科目を中心として地元就職促進に繋がるCOC+教育プログラムを策定し、修了者に授与するCOC+教育プログラム認定証（仮称）について検討した。

2 就職支援

シンポジウムやセミナー等の開催並びにホームページによる情報発信等を積極的に行う。
 <主に地域の事業所との連携による就職支援等>

- 一般教養科目（1年前期）「インターンシップ」 県内企業26事業先へ65名参加（昨年比+30% 15名増加）〈写真⑧～⑩〉



⑧「株式会社コルテーヌ」



⑨「指宿コーラルビーチホテル」



⑩「南日本新聞社」

- 教養学科専門科目「企業実務演習」でのインターンシップ 県内企業10事業先へ14名参加（昨年比+7% 1名増加）

- 平成29年2月1日～2月9日まで各学科別に「事業所ガイダンス」を実施
県内から児童教育学科3事業所・生活科学科5事業所・教養学科2事業所を招き、今後就職活動を行う1年生に向けて企業の特徴や期待する人物像、地域の雇用情勢など詳細に説明頂いた。

- 平成29年2月10日 就職・進路指導部主催「第4回地元事業所との情報交換会」を実施。県内の就職先事業所およびハローワーク鹿児島・鹿児島県経営者協会から実務者を招き、「短期大学に求める職業教育と今後の人材育成について」直接意見をお聞きする会合を実施<写真⑩>



⑩「第4回地元事業所との情報交換会」

- 企業からの依頼により個別の学内事業所説明会を年度内7～8社実施
- その他採用試験対策講座・就職模擬試験等毎年度実施の講座を実施

3 地域や地元企業との連携活動等

(1) 包括連携協定先の地域自治体との連携強化

①鹿児島市

- 4月：「大学との連携強化の基本的な進め方」について協議
- 10月30日：「かごしま食育フェスタ2016」を本学キャンパスにて鹿児島市と共催。本学や鹿児島市および地場企業やNPO団体が30の展示・体験型ブースを出展し、約1200人の来場者を迎えた。<写真⑫～⑮>



⑫児童教育学科「お店屋さんごっこ」



⑬食物栄養学専攻「よい食プロジェクト」の展示



⑭「魚の解体ショー」



⑮「環境未来館」ブースの紹介

- 年間:「かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議(若手会)」・「風と光とナポリ祭」・「かごしまアジア青少年芸術祭」・「音とあかりの散歩道2016」・おはら祭り(鹿児島・渋谷)への参加「ヤング踊り連Team鹿女短」・「鹿児島市選挙コンシェルジュ」・「広域計画検討ワーキンググループ(市街地再開発)」等の企画・実施への参加<写真⑬~⑱>



⑬「風と光とナポリ祭」への協力



⑭「かごしまアジア青少年芸術祭」への協力



⑮「広域計画検討」グループ発表



⑯渋谷おはら祭りでのパフォーマンス

②奄美市

- 12月:委員として奄美市総合戦略会議への教員参加
- 1月:「すこやか子育て支援講座 in 奄美」2講座開催<写真⑳>

③指宿市

- 4月:28年度連携事業の打ち合わせ
- 7・8月:「夏休み子どもクラブ(指宿市山川福元区)」学生ボランティア活動<写真㉑>
- 10月18日:「指宿市食生活改善推進員養成講座」への講師派遣
- 11月11日:「指Tableレシピコンテスト」審査員(教員)派遣
- 11月25日:「地域づくり・子育て支援セミナー」ゲストスピーカーとして学生参加
- 12・1月:「冬休み子どもクラブ(同)」学生ボランティア活動



⑳「すこやか子育て支援講座 in 奄美」



㉑指宿市「子どもクラブ」

(2) 地域・地元企業との連携活動

- ①生活科学科食物栄養学専攻の『鹿女短スマイル食育プロジェクト』で、地域団体や企業等（JA鹿兒島県経済連・若者留学生サポートステーション・日本食品株式会社・サンロイヤルホテル・土里夢たかた・協同食品株式会社・NPO法人霧島食育研究会等）と連携し6種のプロジェクトを展開した。<写真②③>



②農事法人「土里夢たかた」やJAと



③「たわわタウン谷山」の料理長さんと

- ②高麗町内会の皆さんとの連携<写真④⑤>



④学生手作りランチ



⑤本学との意見交換会

- ③鹿兒島県との連携<写真⑥>



⑥「介護の日」イベント協力

- ④「紫原独居老人給食会」との連携<写真⑦>



⑦「さわやか食事会」の活動

8 鹿児島工業高等専門学校

1 人材育成

(1) 共同研究を通じた人材育成

COC+事業の一環として共同研究を通じた人材育成に取り組んでおり、本校の産学官交流組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）や地元企業等と協働して共同研究を行っている。特に卒業研究を人材育成、技術教育、工学教育の実践の場として位置づけ、年間を通して、学生、教員、企業技術者とともに共同研究を行っている。共同研究先の企業技術者が本校において、教員と連携して卒業研究の指導を行ったり、逆に、学生と教員が企業へ出向いて、企業現場で教員と技術者が、実験や研究の進捗、研究の問題点について、ゼミ形式でディスカッションし、学生への指導を行っている。

また、夏期休暇時には、企業の現場において、共同研究の課題を研究する「研究開発型インターンシップ」も実施しており、学会での共同発表に関しても学生指導を行っている。現在、KTC会員企業と9件の共同研究を行っており、前述のような具体的な共同研究開発事例として、「非接触式火山灰センサの開発」「空気燃料電池電源の開発」「変位・圧力計測センサブロックシステムの開発」などが挙げられる。これらの研究は、公的機関（科学技術振興機構）からの研究助成金を獲得して行われており、企業との共同研究の成果を特許出願したテーマもあった。写真1～写真4は、共同研究をもとに卒業研究での指導の事例と学会発表の状況を示したものである。



写真1 本校での指導事例



写真2 企業での指導事例1 (左:技術者)



写真3 企業での指導事例2 (左:技術者)



写真4 学生の学会発表 (於:宮崎大学)

(2) インターンシップを通しての人材育成

インターンシップに関しては、4年生に対し受講指導を行った。5月、機械・金属・鉄鋼業、電気電子機器製造業、土木建設・設備工事業、ソフトウェア・情報処理業、電力・ガス・エネルギー関連業などの県内企業へインターンシップ受け入れを要請し、8月～9月の夏期休暇期間に実施した。平成28年度実績として、インターンシップ受講希望者178名のうち、149名の学生がインターンシップに参加した。県内企業での受講者は、42名であった。引き続き、県内企業へのインターンシップ受講を奨励し、インターンシップを通じた地元企業への就職希望学生を育成していく予定である。

2 就職支援

4年生、5年生を対象とした“保護者のための企業説明会”、“企業説明会”、“企業研究会”などを開催して就職支援を行っている。

(1) 保護者のための企業説明会

多くの学生は、保護者に相談し、就職の方向性を決定することから、保護者にも県内企業を知ってもらう目的で、平成28年5月28日、本校体育館において、1年生の保護者に対して実施した。保護者を対象とした初めての説明会開催だったことから、企業の参加が危ぶまれたが、企業17社、保護者199名、学生24名が参加し、盛況となった。親子で参加し、企業の受ける家族もあった。参加企業、保護者、学生へ行ったアンケート調査では、いずれも参加して良かったとの声が多く、地元就職率アップを目標とした事業として成功したと考えている。企業からは、高専を知る良い機会になった、保護者の思いを知ることができたとの報告や保護者からは、地元企業を知る良い機会であったなどの意見が多数寄せられた。写真5～写真7は説明会の全景と親子で説明を受けている風景である。



写真5 説明会風景



写真6 説明会の親子1



写真7 説明会の親子2

(2) 企業説明会

5年生の就職希望者12名が参加して、平成28年7月11日、本校でミニ企業説明会を実施した。参加企業は8社であった。写真8～写真10は説明会の風景である。



写真8 説明会風景1



写真9 説明会風景2



写真10 説明会風景3

(3) 企業研究会

企業研究会の事業は、4年生及び専攻科1年生に対して、次年度、就職活動を行う上での基礎知識の取得と就職に対する自覚の定着のために行った。県内の産業分野にどのような企業があり、どのような業務を行っているかを学生に知らせることも目的としている。平成28年度は平成29年1月12日に本校体育館で実施し、県内企業36社、約220名の参加があった。企業からは、3月1日に解禁となる説明会の前準備ができたことや高専生の実情を知ることができたと好評であった。学生からは、県内企業を知ることができたこと、自分の専門分野の企業を知ることができたとの意見が多かった。各社説明会の工夫がなされ、学生からも分かりやすかったと感想が寄せられた。写真11～写真13は、企業研究会の実施状況である。

後述する「COC+高専」地方創生推進会議におけるインターンシップと企業説明会の計画を表1に示す。霧島市と連携したインターンシップと企業合同説明会開催についての計画である。



写真11 研究会風景



写真12 説明を受ける学生1



写真13 説明を受ける学生2

表1 「COC+高専」地方創生推進会議におけるインターンシップと企業合同説明会計画

協働事業	H28 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月	4月	
インターンシップ事業																
推進会議	実施準備															
市役所			広報・調整・実施支援													
企業・団体等			インターンシップ受け入れ準備													
高専(教育機関)			インターンシップ生募集													
インターンシップ							実施									
企業合同説明会事業																
推進会議	実施準備															
市役所		3/1企業説明会開催		広報・参加要請・実施												
企業・団体等		説明会参加		説明会参加												
高専(教育機関)		説明会参加		説明会参加												
就職支援																
就職試験・内定					6/1採用試験解禁				10/1内定式解禁							

3 地域や地元企業との連携活動等

(1) 地域との連携活動

地域との連携活動として、平成27年度、霧島市、日置市及び両市の商工会議所、KTC会員企業が連携して「COC+高専」地方創生推進会議を立ち上げ、年4回の会議により、協働事業の基本的方針の策定や事業の実施状況等の把握を行っている。協働事業として、事業Ⅰ：地元企業インターンシップの推進、事業Ⅱ：企業合同説明会の推進、事業Ⅲ：地域教育特別講義の推進、事業Ⅳ：奨学金による地元就職の推進、事業Ⅴ：地元企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進の5事業がある。本会議では合同企業説明会、インターンシップ、地元企業との共同研究、地域教育特別講義、地元企業就職率向上のための奨学金制度の在り方について議論・検討を行っている。事業Ⅰ、事業Ⅲは、平成27年度から実施しており、平成28年度は事業Ⅱと事業Ⅳについて協議を重ねてきた。産（企業）による特別講義に加え、今年度は、官（市）による地域教育特別講義を霧島市役所企画政策課と日置市企画課行政経営戦略係の協力を得て実施した。平成29年2月15日に1年生を2学科と3学科に分けて、両市職員が地方創生に関する講義を行った。写真14は企業特別講義、写真15は「COC+高専」地方創生推進会議、写真16は日置市職員の特別講義風景である。



写真14 企業による特別講義



写真15 COC+高専地方創生推進会議



写真16 講義風景

I 事業協働機関との連携

II COC+参画校の事業実績

III 事業協働機関の主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

(2) 地元企業との連携活動

地元企業との連携活動として、平成27年度から、県内で事業を展開している地元企業の工場見学を行っている。専門的な見地から各企業の技能・技術を習得する事を目的としている。見学には、各科が通年で実施する事業とキャリア教育を目的に1年生に実施している事業がある。今年度は、通年で実施する事業が、5月～2月に9社、キャリア教育の事業で平成29年1月12日に11社を見学した。1年生は、地元企業の具体的な技術事例を知り、地域企業に興味を持つこと、3年生～5年生は、地元の企業の魅力、事業内容を知り、地元企業に就職する意義を知ることを目的とした。図1に1年生が見学した企業の位置を示す。写真17～写真18に工場見学の風景を示す。



図1 平成28年度県内企業見学の位置



写真17 工場見学風景1



写真18 工場見学風景2

9 その他の事業協働機関（鹿児島県・企業団体等）

【鹿児島県】

（教育庁総務福利課）

大学等へ進学する意識が高く、将来、鹿児島県において活躍することが期待できる優秀な人材を育成するための奨学金を設けた。

○大学等入学時奨学金実績（平成28年度4月入学生）

区 分	募集定員	応募数	採択数
明治維新150周年記念特別枠 （給付型）	100	148	71
地方創生枠（無利子） ※地元就職で返還免除	300	350	300
一般枠（無利子）	500	271	217

○大学等奨学金返還支援制度実績（平成28年度）

区 分	募集定員	応募数	採択数
人材育成枠 （高校3年生等）	70	249	70
地域活性化枠 （大学4年生、3年生）	40	111	20+α
地域活性化枠 （社会人）	10	0	0

※地域活性化枠の大学3年生は今後年度内に選考予定

（雇用労政課）

○UIターンフェア“かごしま”&県内就職合同面接会

平成28年8月12日（金）鹿児島サンロイヤルホテル

参加企業数：100社、求職者数337人（学生108人）

○合同企業説明会“鹿児島で働かんけー？”

		鹿児島	福岡	大阪
H28	期 日	H29.3.28	H29.3.18	H29.3.10
	場 所	城山観光ホテル	福岡ファッションビル	ヒルトンプラザウエストオフィスタワー
	企業数	160社予定	50社予定	11社予定
H27	期 日	H28.3.22	H28.3.17	H28.3.11
	場 所	城山観光ホテル	福岡ファッションビル	ヒルトンプラザウエストオフィスタワー
	企業数	150社	50社	11社
	参加者	688人	85人	23人

（大学生等、既卒3年以内の若年者）

○広域インターンシップの推進（12月末時点）

平成28年度：

県外へ送り出し：参加学校数2校・参加学生数7人・受入企業数7社

県内へ受け入れ：参加学校数8校・参加学生数11人・受入企業数5社

【鹿児島県工業技術センター】

工業技術センターでは、人材育成業務の一環として学生指導の制度があり、随時要望に応じて学生を受け入れている。また、大学の夏休み期間中にはインターンシップも受け入れている。

表1 最近の学生受入状況 (人)

受入年度	H25	H26	H27	H28
学生指導	21	3	4	21
インターンシップ	5	4	3	2
合計	26	7	7	23

その他、鹿児島大学の講義への講師派遣も行っている。

共通教育：2名5コマ、農学部：1名1コマ

かごしまルネッサンスアカデミー：4名5コマ

【大隅加工技術研究センター】

○インターンシップの学生の受け入れ

県外学生（鳥取大大学院）1名1日

県内学生（鹿児島純心女子大）1名5日間

○視察研修対応（県内学生60名）

○平成27年度(農水省補正予算)「革新的技術開発・緊急展開事業」における研究を鹿児島大学と5件協働で遂行している。

【(公財)かごしま産業支援センター】

○センター主催の各種セミナー等を通じて、県内中小企業等に対し、COC+事業の概要や取組状況について周知に努めている。

○中小企業等から県内大学の学卒者の雇用に関する問い合わせや相談が寄せられた場合、COC+事業の事務局を紹介するとともに、その問い合わせ内容等を同事務局に繋いでいる。

【(公社)鹿児島県観光連盟】

○鹿児島職業能力開発促進センターの鹿児島県地域訓練コンソーシアムによる新たな職業訓練コースのカリキュラム開発に当連盟の観光プロデューサーが参加（観光サービス科）。

【（公社）鹿児島県工業倶楽部】

- 会員へのCOC+事業のPR等広報活動を行った。

【鹿児島県農業協同組合中央会】

- インターンシップの受入
 - (1) 9月12日～14日 畜産コース3日間（農学部限定）
総参加者5名（うち県内大学3名）
 - (2) 2月10日 全学部対象
総参加予定者5名（うち県内大学5名）
- よい食・環境県民フォーラムを活用した短大等への助成事業の実施
 - (1) 鹿児島女子短期大学「植える・食べる・伝える」スマイル食育プロジェクトへの支援
- 志学館大学 男子料理コンテストへの協賛
- 鹿児島大学と連携した機能性成分の分析等の取組み（経済連）

【鹿児島県森林組合連合会】

- 従来までなかなか定期昇給を行うことができなかったが、職員の給与改定を今年度実施し、待遇改善を図った。
- 合同就職説明会へ参加し、本会のPRを実施した。
- 2大学に対して、人材の照会を依頼したが、今年度については実績はなかった。

【鹿児島県漁業協同組合連合会】

- 既存雇用拡大には至らないが、地元優先での雇用を実施した。
- 本会より大学講義への講師を派遣し、水産業の現状及び問題点等を赤裸々に伝えるとともに、今後の展望を踏まえた魅力を発信した。

【鹿児島経済同友会】

- 10月29日開催の「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016」開催の参加者申込書を会員宛に案内をした。

【鹿児島県商工会議所連合会】

○合同企業説明会の開催

- ・ 6月25日（土）『就活応援フェア 合同就職面談会&就職講座』
場 所： 鹿児島大学 学習交流プラザ
主 催： 鹿児島商工会議所（若者就職サポートセンター）
協力機関： 鹿児島県、鹿児島労働局、ヤングハローワーク
参 加 者： 企業：107社 学生：278人

鹿児島商工会議所（鹿児島県若者就職サポートセンター）は、平成29年3月卒業予定の学生等を対象とする合同就職面談会を、県内の8大学等によるCOC+事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）との協働事業として開催した。

鹿児島大学の学生に関しては、僅かではあるが、昨年を上回る実績を出すことができた。卒業年次にある学生は、希望する企業ブースを積極的に訪ね、採用担当者の会社説明に熱心に耳を傾けていた。「新しく興味を引く企業があった」と答えた学生も複数いた。COC+事業との協働事業として、地元にも一人でも多くの学生が残ってもらえるよう、1～3年生に対して就職講座や企業交流セミナー等を案内し、19名の学生が参加し、積極的な質疑応答が行われた。



- ・ 9月20日（火）『学生・若者応援 就職フェア 企業合同就職面談会』
参加企業91社、参加人数170人（学生92人、一般78人）
- ・ 3月28日（火）『鹿児島で働かんけー？ 合同企業説明会』
参加企業160社、

『特別就職講座』 ロンブーの淳さんと鹿児島商工会議所会頭岩崎氏が鹿児島県の企業で働くということについて学生の皆さんと一緒に考える企画

<COC+との連携>

以上の合同企業説明会に開催にあたっては、COC+事業協働機関の枠組みを活用し、COC+参画校の就職支援センターの協力を得ながら学生の参加募集を行った。特に、6月の合同就職面談会&就職講座は、鹿児島大学学習交流センターを開催場所として、提供して貰った。

○企業と留学生のマッチングの促進

- ・ 7月 『合同企業説明会』
留学生87人（15ヶ国17学校：鹿児島49人、福岡26人、宮崎8人）
→内定実績4社5名、入社実績1社1名
- ・ 1月 『企業と留学生の交流会（業界・仕事・インターンシップに関する説明会）』
県内留学生61名（6ヶ国、7大学等） 参加企業17社
- ・ 2月 インターンシップ事業 参加企業25社、留学生60名
- ・ 3月 合同企業説明会 参加企業25社、留学生110名

<COC+との連携>

- ・ COC+参加校への案内（学生の参加募集）
- ・ 参加校の就職支援センター、留学生係、グローバルセンター、学部教授、学友会からの協力を元に学生への案内、呼びかけをして貰った。

○地元企業と県内大学の交流促進

- ・ 2月 『地元企業と県内大学生とのトーク&座談会』
学生100名（1～3年生）、参加企業20社

○「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の推進事業

- ・ 県内大学生などのインターンシップ受け入れ及び雇用状況調査への協力
アンケート調査票の企業への配布・回収を行った（発送700通、回収132通）。
- ・ 学卒者地元定着促進協議会、COC+教育プログラム開発委員会、COC+事業協働機関連絡会へ参加した。

【鹿児島県中小企業団体中央会】

- 本会実施事業（ものづくり補助金等）において、大学の学識経験者に委員等の就任を要請し、適切な助言・アドバイスを頂くことで円滑かつ効果的な事業推進を実現した。

【（社福）鹿児島県社会福祉協議会】

当センターで、福祉・介護人材の確保・定着に向けて、次の事業を実施した。

○福祉人材無料職業紹介事業

県内の福祉・介護職場に就職を希望する方に、職場の紹介や就職の斡旋を実施

○福祉人材確保総合推進事業

福祉・介護の職場に就職を希望する方を対象に「就職支援講座」や「就活応援セミナー」等を開催

○就職面談会の開催

就職面談会を年4回開催。

- ・ 8月（鹿児島市）、9月（鹿屋市）、10月（薩摩川内市）
2月（鹿児島市）

【株式会社鹿児島 TLO】

- 鹿屋市、薩摩川内市など関係する自治体向けに広報、パンフレットの案内、配布など行った。
- 自治体の実施したセミナー等で、参加者向けにパンフレットの配布
- 弊社会員企業など関連機関向けに COC+各種事業の案内など実施
- 産学官連携活動
- 教員と企業との共同研究のコーディネート
- 国や自治体の公募事業の案内や申請支援

【株式会社鹿児島銀行】

- 「地元企業と学生との意見交換会」の実施（1月28日）
学生に対して、少しでも地元企業のことや地元で働く人のことを知ってもらい、「地元企業と学生」両者間の課題やニーズを解決してもらうことを目的としたグループディスカッション形式での意見交換会を開催（共催：鹿児島大学産学官連携推進センター COC+推進部門）
- 大学からの依頼による講義「金融機関による地方創生の取り組みについて」（実施大学：鹿児島大学、志学館大学）

<「地元企業と学生との意見交換会」の概要>

『地元企業と学生との意見交換会～明日誰かに話したくなる企業の話！～』

1. 目的

地元企業と学生を対象に、グループディスカッション形式での意見交換会を行い、学生は、地元企業や地元で働く人に対する理解を深め、地元就職への気運が醸成され、地元企業は、自社のPRおよび学生の考えやニーズを収集し採用活動に活かすことができる。

2. 企画について

- ・学生目線での魅力的な意見交換会を目指し、企画段階より当銀行のインターンシップを活用。
- ・「鹿児島銀行と学生でつくる地方創生プロジェクト」と題し、県内8大学より33名の学生と共に、全5回にわたって企画を実施する。
- ・魅力的なタイトルやチラシの作成、効果的な会の運営方法の検討、学生ネットワークを使った募集活動等を協働する。

3. 開催実績

【日 時】平成29年1月28日（土） 第一部=9:30～12:00 第二部=13:30～16:00

【会 場】鹿児島大学 学習交流プラザ

【主 催】株式会社 鹿児島銀行

【共 催】鹿児島大学産学官連携推進センター COC+推進部門

【参加者】企業：46社（両部延べ52社、※「参加企業一覧」参照）

学生：285名（県内7大学、県外4大学）

（1年生：101名 2年生：43名、3年生：131名 4年生：6名、その他：4名）

4. アンケート結果

(1) 満足度

- 企業 「満足」以上：84.5% 「普通」：15.5% 「やや不満」以下：なし
- 学生 「満足」以上：91.5% 「普通」：7.8% 「やや不満」以下：0.7%

(2) 満足度回答理由（一部紹介）

- 企業 「これだけ多くの学生と交流する機会は少ないので、非常に良かった。」
「学生の視点と当社の考える視点とのギャップも知ることができ、参考になった。」
- 学生 「企業の色々な話を聞いて良かった。」
「知らない企業や業種について詳しく知ることができ、とても参考になった。」

(3) その他

- アンケート結果については、参加企業や県内大学にも還元した。
- 参加企業に対するインターン生の面談感想を集約して、個社別にフィードバックした。今後の採用活動の一助として活用を依頼した。

～参加企業一覧～

第一部	第二部
株式会社 あいハウジング	社会福祉法人 落穂会
株式会社 鹿児島銀行	株式会社 鹿児島銀行
株式会社 現場サポート	株式会社 現場サポート
株式会社 川北電工	株式会社 川北電工
有限会社 フォーラム	株式会社 久永
社会福祉法人 天上会	社会福祉法人 天上会
有限会社 かごしま有機生産組合	出水運輸センター 株式会社
株式会社 トータルハウジング	株式会社 アルファイン
株式会社 南給	株式会社 日本地下技術
株式会社 九州タブチ	株式会社 九州タブチ
株式会社 ビーザ・ワン	医療法人 平和会 ひさまつクリニック
福山黒酢 株式会社	南州農場 株式会社
大福コンサルタント 株式会社	阪東機工 株式会社
コムテック 株式会社	マルイ農協グループ
株式会社 クオリティフォーム	社会福祉法人 常盤会
株式会社 昴	かごしま電工 株式会社
株式会社 まきの商店	株式会社 プロゴワス
株式会社 アリマコーポレーション	いわさきグループ
株式会社 イケハタ企画	今別府産業 株式会社
株式会社 パルコーポレーション	鹿児島総合警備保障 株式会社
三洋ハウス 株式会社	医療法人 参天会
わたなべ工具販売 株式会社	株式会社 西原商会
株式会社 共栄	株式会社 共栄
有限会社 ジュノ	南栄リース 株式会社
鹿児島県民共済生活協同組合	株式会社 ブンカ巧芸社
株式会社 ネットウェーブ	久永情報マネジメント 株式会社



インターンシップ活動風景



意見交換会

IV 就業支援：地元企業と学生のマッチング

1 主な合同企業説明会・研究会他

実施主体	日付	項目	備考
第一工業大学	4月7日	意見交換および勉強会	県内A社が参加
第一工業大学	4月8日	勉強会	JAあいらの幹部候補生向け勉強会「経清塾」での講演
志學館大学	4月20日	大学主催合同企業説明会	地元企業を中心に77社が参加
鹿屋体育大学	5月13日	OBによる講話	起業しているOB（1名）による学生に対する講話
鹿児島大学	5月21日	ワークショップ	「活躍する卒業生からのメッセージ～大学時代に学んでおくこと～」を開催（学生17名、OB/OG8名、教員5名 参加）
鹿児島工業高等専門学校	5月28日	地元企業説明会	保護者向けに開催（地元企業17社、保護者199名参加）
鹿屋体育大学	6月16日	OBによる講話	県内の国際交流施設及び鹿屋市に勤務するOB2名による講話
鹿屋体育大学	6月24日	地元企業人による講話	岩崎産業株式会社（鹿児島）副社長による講話
鹿児島県商工会議所連合会	6月25日	合同企業説明会 & 就職講座	企業107社、学生等278名参加
鹿児島県商工会議所連合会	7月10日	合同企業説明会	合同企業説明会、企業と留学生のマッチングを実施（企業21社、留学生87名参加）
志學館大学	7月13日	経営者と語る会	鹿児島県中小企業家同友会会員と実施
第一工業大学	7月20日	意見交換および勉強会	県内B社が参加
第一工業大学	7月22日	講習会	地域企業（鎌田建設株）向けに耐震診断・補強技術の講習会を開催
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	8月4日	就職面談会	鹿児島市で開催
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	8月4日	就活応援セミナー	63名が参加
鹿児島県	8月12日	合同面接会	Uターンフェア“かごしま”&県内就職合同面接会を開催
第一工業大学	9月3日	セミナー	始良伊佐地域振興局管内給食施設連絡協議会と共催で「食と癒しのセミナー」を開催（参加者約150名）
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	9月15日	就職面談会	鹿屋市で開催
鹿児島工業高等専門学校	9月16日	見学会	薩摩川内市の協力を得て、次世代エネルギー事業の実施状況、地域企業の取り組み状況を見学
鹿児島県商工会議所連合会	9月20日	合同企業説明会	企業91社、学生等170名参加
第一工業大学	9月24日	市民講座	「巨大地震に備える～『安全・安心』住宅を自ら手に入れるには～」を開催（参加者約80名）

実施主体	日付	項目	備考
鹿児島県立短期大学	9月26日	企業懇談会	企業5社の採用担当者と本学教員及び職員との情報交換・共有化
第一工業大学	10月1日	市民講座	「巨大地震に備える～『安全・安心』住宅を自ら手に入れるには～」を開催（参加者約80名）
第一工業大学	10月18日	講演	国分中央高校ビジネス情報科3年生生徒35名、教員4名に対し、商品プロモーションに関する講演
鹿児島大学	10月22日	ワークショップ	学生主体による「地元のHOTな先輩と語る場①」を開催
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	10月22日	就職面談会	薩摩川内市で開催
第一工業大学	10月21～23日	市民講座	かごしま県民交流センターにおいて「かごしま住まいと建築展」に地域企業（鎌田建設株）と共同出展
鹿児島大学	10月27日	セミナー	日本証券業協会から講師を招聘し、鹿児島で生活する際のマネープランニングセミナーを開催
鹿児島大学	10月28日	ワークショップ	学生主体による「本音の就職活動」を開催
鹿児島大学	10月29日	シンポジウム	九州・沖縄COC / COC+合同シンポジウム「COCとCOC+が拓く地方創生と大学改革」を開催
鹿児島女子短期大学	10月30日	フェスタ	鹿児島市と「かごしま食育フェスタ2016」を共催
第一工業大学	11月6日	企画展	「消防フェスタINきりしま2016」に出展・参加
志学館大学	11月9日	模擬面接会	東南ロータリークラブによる模擬面接
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	11月19～20日	就職支援講座	2日間で4回開催（参加者約80名）
鹿屋体育大学	11月22日	OB・OG座談会	OB・OG10名（県内5名、県外5名）を招聘し、就職ガイダンス〔OB・OG座談会〕を開催
鹿児島大学	11月26日	ワークショップ	学生主体による「地元のHOTな先輩と語る場②」を開催
鹿児島大学	12月14日	ワークショップ	学生主体による「地元のHOTな先輩と語る場③」を開催
志学館大学	12月21日	模擬面接会	鹿児島県中小企業家同友会による模擬面接
鹿児島工業高等専門学校	1月12日	地域企業研究会	地元企業36社、学生218名参加
鹿児島県商工会議所連合会	1月15日	企業と留学生の交流会	企業と留学生の交流会（企業17社、留学生61名参加）
鹿児島大学	1月21日	ワークショップ	学生主体による「地元のHOTな先輩と語る場④」を開催

I 事業協働機関との連携

II COC+参画校の事業実績

III 事業協働機関の主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

実施主体	日付	項目	備考
鹿児島銀行、鹿児島大学	1月28日	「地元企業との意見交換会」	県内企業46社と学生（学部1年～修士1年）約285名が参加
(社福)鹿児島県社会福祉協議会	2月11日	就職面談会	鹿児島市で開催
鹿児島工業高等専門学校	2月23日	成果報告会	本校学生の卒業研究等の成果を地域へ広報するために、地域企業団体等と連携を図りながら学外で開催
鹿児島県商工会議所連合会、鹿児島大学	2月27日	意見交換会	「地元企業若手社員と学生のトーク&座談会」を開催
鹿児島県商工会議所連合会	3月20日	合同企業説明会	合同企業説明会、企業と留学生のマッチング
鹿児島県	3月28日	合同企業説明会	「鹿児島で働かんけー？」を開催

2 COC+ワークショップ

日 時 平成28年5月21日（土）13：30～15：30
 場 所 鹿児島大学学習交流プラザ2F 学習交流ホール
 テーマ 活躍する卒業生からのメッセージ～大学時代に学んでおくこと～
 主 催 鹿児島大学産学官推進センター COC+推進部門
 参加者 鹿児島大学他卒業生8名、学生17名（本学以外5名）、COC+関係教員5名

概 要

学生と卒業生との交流の場を提供し、社会人の経験知をもとに、就業後に求められる能力や資質、在学中に学修すべきことや大学生活の過ごし方などについて生きた情報を得るとともに、就職活動に向けた有効な対策のヒントを得ることを目的として実施した。井上COC+推進部門長の挨拶に続き、出口准教授の進行により卒業生からの基調講演の後、4グループに分かれて今後の大学教育の在り方や就職支援の在り方などについてディスカッションを行った。最後に、大学で学びたい科目のアイデアについてグループごとにプレゼンテーションを行った。

本ワークショップは大学教育の在り方について多くの示唆を得ることができ、今後の取り組みに向けて有意義な機会となった。学生は社会人との情報交換・交流の機会が得られたことにポジティブな評価をしていた。一方で、学生の時間が短かったこと、目標設定をもっと明確にすべきであったこと、多様な関心を持った学生の議論を深化させることの困難さなど課題も多くあった。COC+事業の推進の観点からは、積極的な行動力を持った学生に対し地元就職の魅力をピーアールすることの重要性を再認識した。



卒業生講話



ワークショップ

V 企業及び学生に関する調査

1 企業訪問による就職状況およびインターンシップ調査

今年度、COC+推進コーディネーターが、企業（80社）及び自治体（6）を訪問し就職状況及びインターンシップ調査を行った。

【訪問・面談した企業の業種】

製造業35社、金融・保険業9社、サービス業7社、住宅・不動産6社、情報・通信業6社、卸・小売り5社、電気・ガス業4社、医療・福祉3社、農林水産業3社、その他2 機関・自治体等6 機関

（Ⅶ 資料-1-①企業訪問・来訪企業一覧126ページ参照）

（1）就職・求人状況について

◇学卒者採用実績企業：44社

- 鹿児島大学就職支援センターの就職支援室長に同行して学卒者を毎年雇用する実績のある企業44社を訪問した。
- 特に金融機関においては、50名～100名の求人を行い、50名～80名に内定を出している。内定者の7割が県外の大学ということであった。卸・小売業の中には、100名を超える求人を行っている企業もあり、40名～50名に内定を出している。その他の企業での求人数は、20名～30名、10～15名、5名、若干名であった。
- 平成28年度の内定者数は昨年度と同程度かそれ以上とのことであった。
- 企業研究をしっかりと行っている学生とそうでない学生の差が益々広がっているという意見があった。

◇その他：36社

- 求人を出しても、鹿児島大学生は応募してくれないとの声が多くあった。会社説明、経営者の理念等が学生に十分に説明尽くされていないことが多く、積極的に企業説明会に参加する事や、給与面、福利厚生、研修制度等待遇面での改善を要請した。

（2）インターンシップ調査について

- 訪問企業に対し、COC+事業の概要を説明し、平成30年度に実施する長期インターンシップの受け入れについて要請を行った。
- 短期インターンシップ（1日から5日間）については、約4割の企業が実施しており、長期インターンシップ（2週間以上）においては、3週間を実施している企業が1社あった。しかし、多くの企業において、長期インターンシップはハードルが高いとの意見があった。PBL^{注1}型インターンシップの意義を説明した結果、学生目線で、提案が得られることも可能とのことから、15社から受け入れを検討したいと言われ、今後、具体的な打ち合わせをすることとした。

注1 Project Based Learning（課題解決型学習）： 企業、地域、自治体、教員が提供する課題や目標に対して、学生が自立的、主体的にチームを作り取組む教育手法のこと。

- インターンシップの経験がない企業に対して、経団連でインターンシップ推進に携わった保険業の企業から、アドバイスをしたいとの申し出があった。

2 県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査概要

1 調査目的

(1) 企業調査

長期インターンシップの受入企業の確保、学卒者の地元定着率向上の課題に対処するために、COC+推進コーディネーターが企業訪問に際して、交渉を円滑に進めるための基礎的データを取得することを目的に調査を行う。

(2) 学生調査

学生の就職活動において学生が求める情報と地元企業側が提供する情報のマッチングを図るために、学生が就職活動のなかで利用する情報の質や情報獲得手段等を明らかにすることを目的に調査を行った。

2 調査概要

(1) 企業調査

- ①調査対象：事業協働機関傘下の県内企業
- ②調査方法：質問紙調査
- ③調査期間：平成28年10月～12月
- ④配布・回収：事業協働機関の協力を得て配布、回収した。
配布数1,270社 有効回収数237社 有効回収率18.7%
- ⑤調査項目：
 - ・インターンシップ受入実績の有無と今後の意向
 - ・県内大学等の卒業生採用実績の有無と今後の意向
 - ・企業が抱える課題の把握
 - ・県内大学に対する期待

(2) 学生調査

- ①調査対象：COC+大学及びCOC+参加校の学生
4年制大学3・4年生 短期大学1・2年生、高専4・5年生
- ②調査方法：質問紙調査
- ③調査期間：平成28年10～11月
- ④配布・回収：各大学等のCOC+事業担当部署を通じて行った。
配布数7,413人 回収数3,958人 有効回収率53.4%
- ⑤調査項目：
 - ・学生が就職決定の際に重視する企業情報
 - ・情報収集開始時期と情報収集手段
 - ・県内就業の志望の有無
 - ・大学に期待する就職支援

3 調査結果の概要

①企業向けアンケート送付と回収状況

用紙配布867枚、メール送信403通 計1270件 回収数237枚 (19%)

②アンケート回答機関の業種分類

	農林水産業	建設業	製造業	電気・ガス業	情報通信業
該当件数	18	18	32	4	16
件数 / 総数	7.6%	7.6%	13.5%	1.7%	6.8%
件数順位	4	4	3	14	6
	運輸業	卸、小売業	金融、保険業	不動産、物品 賃貸業	学術研究、専門 ・技術サービス業
該当件数	6	38	5	10	16
件数 / 総数	2.5%	16.0%	2.1%	4.2%	6.8%
件数順位	12	2	13	9	6
	宿泊、飲食サー ビス業	生活関連サービ ス業、娯楽業	教育、学習 支援業	医療、福祉	その他
該当件数	7	9	1	59	15
件数 / 総数	3.0%	3.8%	0.4%	24.9%	6.3%
件数順位	11	10	15	1	8

③インターンシップ受入れ実績

○実績あり 70社 (30%)

○1位 製造業、2位 医療福祉業、3位 卸小売業、3位 建設業、5位 情報通信業、5位 学術研究、専門・技術サービス業、5位 生活関連サービス業、娯楽業

○受入れ頻度 ほぼ毎年 40件 (57.1%) 数回程度 13件 (18.6%)

ほぼ毎年インターンシップを受入れている機関が半数以上あるということから、インターンシップを受入れた機関はインターンシップのメリットを理解し、毎年依頼し、受入れる傾向があることが分かる。

○受入れ時期は、夏が41件 (42.3%)、大学の休み20件 (20.6%) で大学の事情に配慮している

○受入れ部門では 現業部門が46件 (63.9%) で現場体験を重視

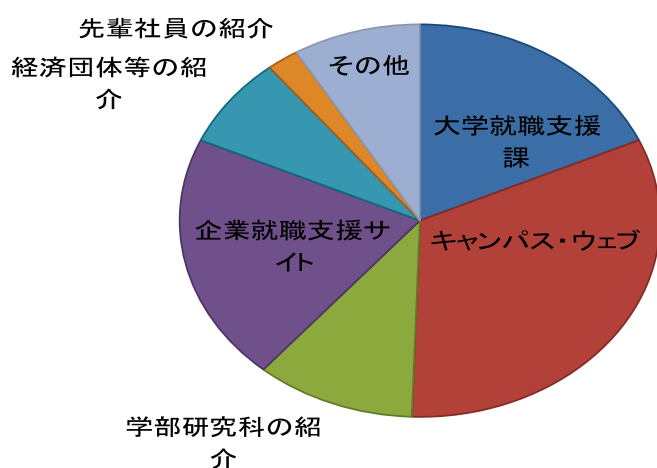
○受入れる大学を複数回答可で質問した。

	鹿児島大学	鹿屋体育大学	鹿児島国際大	志学館大学	第一工業大学
件数	35	10	34	23	10
構成比	17.9%	5.1%	17.4%	11.8%	5.1%
	鹿児島立短期大	鹿女短期大	鹿児島高専	県内他大学	県外大学
件数	16	16	15	16	20
構成比	8.2%	8.2%	7.7%	8.2%	10.3%

○受入れ期間について一週間以内、二週間以内、一か月以内、一か月超の4種類から選択していただいた。

	一週間以内	二週間以内	一か月以内	一か月以上
件数	51	10	4	5
構成比	72.9%	14.3%	5.7%	7.1%

○インターンシップの受入れ方法



○今後の受入れ方針

- ・積極的受入れ 33件 (48.5%)
- ・受入れ可能 21件 (30.9%)
- ・内容次第 14件 (20.6%)

半数近くが積極的に受入れたいと記入しており、受入れたいという回答も含めると、8割程度が受入れを表明しており、インターンシップの制度には期待していることが分かる。

○実績がないと回答した機関158社の受入れについての考えは

- ・積極的受入れ 17件 (10.8%)、受入れ可能 27件 (17.1%)
- ・内容次第 63件 (39.9%)、考えていない 51件 (32.3%)

○全ての機関への質問によれば

- ・一週間以内 91件 (41.9%)
- ・二週間以内 72件 (33.2%)
- ・一か月以内 38件 (17.5%)
- ・一か月以上 16件 (7.4%)

④県内の新卒学生採用実績

○採用実績あり 127社 (54%)

○採用実績あり機関の業種分類

	農林水産業	建設業	製造業	電気・ガス業	情報通信業
該当件数	6	13	18	3	10
採用社 / 業種件数	33.3%	72.2%	56.3%	75.0%	62.5%
件数順位	8	4	3	12	5

	運輸業	卸、小売業	金融、保険業	不動産、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業
該当件数	4	23	4	3	10
採用社 / 業種件数	66.7%	60.5%	80.0%	30.0%	62.5%
件数順位	10	2	10	12	5

	宿泊、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	その他
該当件数	3	7	1	28	5
採用社 / 業種件数	42.9%	77.8%	100.0%	47.5%	33.3%
件数順位	12	7	15	1	9

○過去10年間（2007年度以降）の各年度における県内大学等の新卒学生の採用人数

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
男子	95	131	88	82	109
女子	101	96	94	92	123
合計	196	227	182	174	232
平均値	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
男子平均	0.7	1.0	0.7	0.6	0.9
女子平均	0.8	0.8	0.7	0.7	1.0
合計平均	1.5	1.8	1.4	1.4	1.8

○県内学生の採用 1,936 名（68.8%）

○大学新卒生 採用の目的、理由

	幹部候補生	専門知識	事業拡大	技術向上	商品開発
件数	69	38	56	24	12
順位	1	3	2	4	6
	市場開拓	海外展開	経営戦略	大学と連携	その他
件数	12	4	6	5	24
順位	6	10	8	9	4

○募集方法を複数回答可で質問した。

	リクルート雑誌	マスコミ広告	自社 HP	リクナビなど	ハローワーク
件数	14	9	68	52	105
順位	7	10	3	4	1
	自治体説明会	マスコミ企業説明会	研究室紹介	先輩訪問	インターンシップ
件数	75	17	18	8	0
順位	2	6	5	11	13
	アルバイト	縁故採用	その他		
件数	7	14	11		
順位	12	7	9		

○求める能力（特に重視するもの3個を選択）について質問した

	創造力	実行力	判断力	調整力	地域就業力	地域マインド
件数	79	132	95	56	24	44
順位	3	1	2	4	6	5

○県内学生 採用の優先度

	優 先	必要に応じ	なんとも言えない	優先しない
件 数	63	98	64	5
順 位	3	1	2	4

⑤会社情報について

○会社が現状課題と考えている内容

	人材確保	技術向上	商品開発	国内市場開拓	海外展開
件 数	175	59	35	30	9
ランク	1	2	3	4	10

	資金繰り	後継者問題	新分野開拓	広 報	その他
件 数	26	21	29	11	15
ランク	6	7	5	9	8

○大学との関係で期待すること

	インターンシップ	新卒採用	出前授業	見学会実施	商品開発	共同研究
件 数	80	122	23	43	12	28
ランク	2	1	7	5	9	6

	海外展開支援	市場開拓支援	学生と交流	企業説明会	全学対象説明会	その他
件 数	3	8	50	58	15	5
ランク	12	10	4	3	8	11

⑥大学学生 アンケート送付と回収状況

○用紙配布 7,413枚、回収数 3,958枚 (53.4%)

○回答者学年別・性別人数 構成

学年別・性別人数		1年	2年	3年	4年	5年	6年
男 子	1,996	46	37	965	768	171	8
女 子	1,875	450	510	559	313	29	14
総 数	3,871	496	547	1,524	1,081	200	22

○回答者学年別・出身地 構成

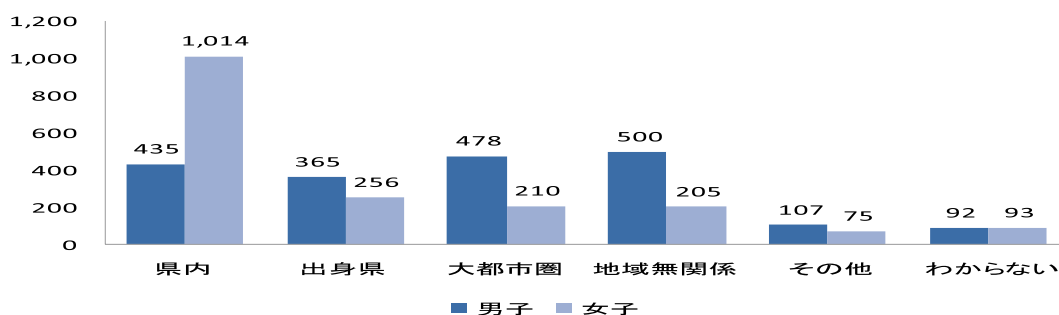
学年別・出身地	総 数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
鹿児島県内	2,435	452	490	810	512	162	9
県外 (九州内)	1,012	28	43	510	407	17	7
県外 (九州外)	385	7	5	195	156	16	6
外 国	26	3	2	8	8	5	0
合 計	3,858	490	540	1,523	1,083	200	22

○就職についての情報収集を開始した時期

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期
男子	49	60	59	140	509	653
女子	124	409	268	225	330	280
合計	173	469	327	365	839	933
男子ランク	8	6	7	5	2	1
女子ランク	6	1	4	5	2	3
合計ランク	8	3	5	4	2	1

	4年前期	4年後期	5年前期	5年後期	6年前期	6年後期
男子	242	143	27	11	4	2
女子	68	31	5	2	11	1
合計	310	174	32	13	15	3
男子ランク	3	4	9	10	11	12
女子ランク	7	8	10	11	9	12
合計ランク	6	7	9	11	10	12

○就職の希望地



○出身地別に就職希望先 県内出身者 56%、九州内出身者 10% 弱

学年別・出身地	総数	鹿児島県内	自分の出身県	国内大都市圏	地域無関係	その他
鹿児島県内	2,435	1,327	43	410	398	100
県外 (九州内)	1,011	91	410	194	206	65
県外 (九州外)	385	18	166	75	96	12
外国	26	3	1	8	6	4
合計	3,857	1,439	620	687	706	181

○就職先を検討する際の情報源

	大学の就職支援センターや学生課など	ゼミ・研究室の指導教員など	就職希望先のホームページや会社案内など	就職希望先でのインターンシップなど	公的機関による就職支援サイトなど	民間企業による就職支援サイトなど	OB/OGなど	その他
男子	987	800	1,323	488	260	818	844	50
女子	1,253	528	1,237	370	390	676	807	43
合計	2,240	1,328	2,560	858	650	1,494	1,651	93
男子ランク	2	5	1	6	7	4	3	8
女子ランク	1	5	2	7	6	4	3	8
合計ランク	2	5	1	6	7	4	3	8

上位 3件	1位	2位	3位
男子	HP・会社案内	大学支援センター	OB/OG
女子	大学支援センター	HP・会社案内	OB/OG
全体	HP・会社案内	大学支援センター	OB/OG

○就職先を検討する際の大学の就職支援の方法

	年度末卒業予定者を対象とした企業合同説明会	全学年を対象とした企業合同勉強会	社会人との交流会・ワークショップ	経営者等による講演会	企業情報を取りまとめた冊子の提供	就職についての学生同士による意見交換会	現場体験ができるインターンシップ	その他
男子	1,308	669	776	564	1,034	384	914	33
女子	1,150	545	684	387	1,119	433	890	24
合計	2,458	1,214	1,460	951	2,153	817	1,804	57
男子 ランク	1	5	4	6	2	7	3	8
女子 ランク	1	5	4	7	2	6	3	8
合計 ランク	1	5	4	6	2	7	3	8

上位 3件	1位	2位	3位
男子	企業合同説明会	企業情報冊子	インターンシップ
女子	企業合同説明会	企業情報冊子	インターンシップ
全体	企業合同説明会	企業情報冊子	インターンシップ

○就職先を決定するために、重視するもの

	就職先の規模	就職先の認知度	就職先の安定性	就職先の立地場所	就職先の男女構成	事業内容の充実度	研修内容の充実度
男子	577	353	1,784	780	146	1,030	412
女子	349	166	1,417	858	154	867	410
合計	926	519	3,201	1,638	300	1,897	822
男子 ランク	7	11	1	6	14	5	9
女子 ランク	9	12	3	6	13	5	8
合計 ランク	8	12	2	6	13	5	9

	福利厚生 の充実度	高額な給与 と年収	転勤の 程度	社長など 組織トップ の魅力	職場の 雰囲気	今後成長 産業となる ような業種	色々な 経験が 積める 職種
男子	1,733	1,631	343	127	1,139	215	408
女子	1,900	1,517	295	68	1,408	70	332
合計	3,633	3,148	638	195	2,547	285	740
男子 ランク	2	3	12	15	4	13	10
女子 ランク	1	2	11	18	4	17	10
合計 ランク	1	3	11	16	4	14	10

I 事業協働機関との連携

II COC+ 参画校の
事業実績

III 事業協働機関の
主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と
学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

	将来独立の際に 役立つ経験	仕事と生活の調和 の取りやすさ	インターネットの 掲示板やSNSなど の評判	ゼミ・研究室の教 員の評価やすさ	OB / OG・友人の 評価やすさ	親や兄弟、親戚な どの評価やすさ	その他
男子	107	489	72	98	89	64	27
女子	62	673	58	77	147	97	10
合計	169	1,162	130	175	236	161	37
男子 ランク	16	8	19	17	18	20	21
女子 ランク	19	7	20	16	14	15	21
合計 ランク	18	7	20	17	15	19	21
上位 5件	1位	2位	3位	4位	5位		
男子	安定性	福利厚生	給与・年収	職場の雰囲気	事業内容充実		
女子	福利厚生	給与・年収	安定性	職場の雰囲気	事業内容充実		
全体	福利厚生	安定性	給与・年収	職場の雰囲気	事業内容充実		

⑦まとめ

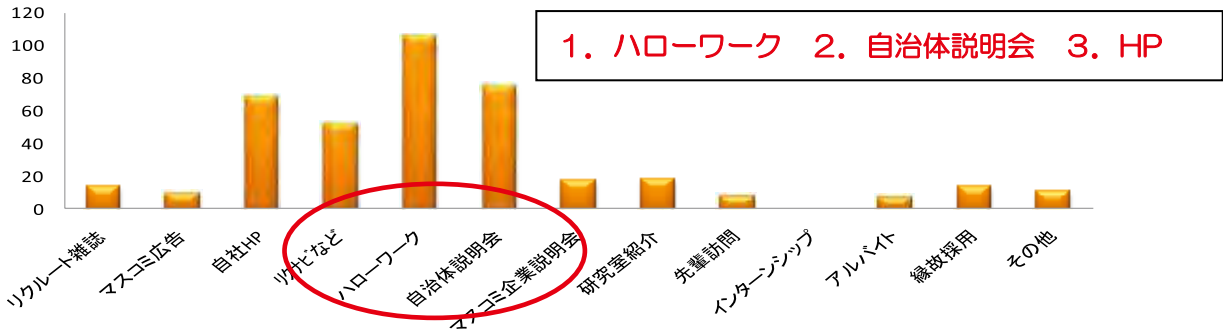
○インターンシップ

学生もインターンシップが就活の中で役に立つツールだと考えている。また、企業も自社や業界を知って貰うための良いツールだと感じている。自ら積極的にインターンシップ先を探す学生、受入れを行う企業だけではない現状から、各大学の就職支援機関などは、入学後早い段階で受入れを表明している企業を紹介するなど学生にインターンシップのチャンスを増やす必要がある。

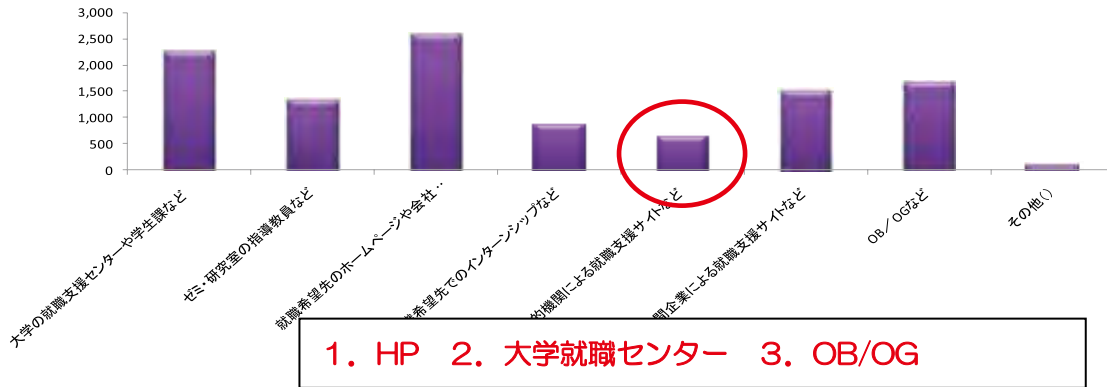
○採用・求職活動

- ・平均値の推移をみると、近年新卒の採用数が漸増していることが分かる。
また、鹿児島県内で採用される学生の約2/3が県内からの採用であることが分かった。
- ・どのような目的・理由で採用したか質問したところ、事業拡大による採用が一番多かったが、幹部候補や専門知識を理由による採用もあり会社業容の拡大において大学への期待が高いことが分かる。
- ・一方、大卒というだけでは、給与待遇を変えないという企業・機関が4割近くあることも分かり、実力本位での採用ということだろうが、福利厚生や高い給与を希望している学生の考えとのギャップにつながる可能性がある。
- ・企業がどんな募集方法を選んでいるかという質問の結果と、学生が良く利用する情報源を比較すると企業の意識と学生の意識に乖離があることが分かる。

企業向け 募集方法アンケート結果



就職を検討する際学生が利用する情報源



地(知)の拠点

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム

学生の就職活動における情報活用に関する調査
報告書

平成 29 年 1 月

国立大学法人鹿児島大学
産学官連携推進センター COC+推進部門

I 事業協働機関との連携

II COC+ 参画校の
事業実績

III 事業協働機関の
主要な取り組み

IV 就業支援...地元企業と
学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

VI 広報活動

COC+大学及びCOC+参加校による主な広報活動

COC+ 事業の効果を上げるためには、広く企業や自治体、県民に、事業の目的や意義、具体的な活動内容などを、理解してもらうことが欠かせない。そこで、COC+ 大学及び COC+ 参加校では、様々な機会を捉えて広報活動を行った。平成 28 年度に行った主な広報活動を、以下の一覧表に示した。

COC+大学及びCOC+参加校による主な広報活動一覧

日付	実施校名	概要	訪問・告知先	チラシ等 配布	HP	新聞 掲載	テレビ・ ラジオ紹介	備考
4 月								
4月5日	鹿児島女子短期大学	事業説明	入学式					プレゼン
4月7日	鹿児島国際大学	事業説明	鹿児島商工会議所包 括連携協定締結		○	○	○	
4月7日	第一工業大学	事業説明	県内A社					
5 月								
5月10日	鹿児島大学	イベント案内	COC+参加校（ワーク ショップ案内）					
5月10日	鹿児島女子短期大学	事業説明	高等学校連絡会（川 内地区）					プレゼン
5月13日	鹿児島女子短期大学	事業説明	高等学校連絡会（大 島地区）					プレゼン
5月14日	鹿児島大学	事業説明	鹿児島県中小企業家 同友会	○				
5月16日	鹿児島女子短期大学	事業説明	高等学校連絡会（鹿 児島地区）					プレゼン
5月18日	鹿児島大学	事業説明	工業技術センター定 例会					
5月20日	鹿児島女子短期大学	事業説明	高等学校連絡会（鹿 屋地区）					プレゼン
5月23日	鹿屋体育大学	講師協力依頼	岩崎産業株式会社					
5月23日	鹿児島女子短期大学	事業説明	高等学校連絡会（始 良地区）					プレゼン
5月24日	鹿児島工業高等専門学 校	イベント案内	錦江湾テクノパーク クラブ (KTC) 第1回 総会		○	○		
5月25日	鹿児島女子短期大学	事業説明	高等学校連絡会（都 城地区）					プレゼン
5月27日	鹿児島工業高等専門学 校	情報交換	第1回「COC+高専」 地方創生推進会議		○			
5月28日	鹿児島女子短期大学	事業説明	後援会総会・保護者 会					プレゼン
5月28日	鹿児島工業高等専門学 校	イベント案内	保護者向け校内合同 企業セミナー	○	○	○	○	学生や保護者、鹿 児島高専テクノク ラブ (KTC) 会員 に周知
5月31日	鹿児島大学	事業説明	薩摩川内企業連携協 議会総会					
6 月								
6月2日	第一工業大学	その他	熊本地震現地調査		○			
6月6日	鹿児島大学	事業説明	鹿児島県中小企業家 同友会会議					
6月6日	第一工業大学	事業説明	申良商業高校	○				
6月10日	第一工業大学	事業説明	南日本新聞			○		
6月10日	鹿児島工業高等専門学 校	企業訪問	鹿児島アスファルト 合材センター		○	○		
6月21日	第一工業大学	事業説明	地域木造の耐震診断		○			
6月22日	第一工業大学	事業説明	地域木造の耐震診断		○			
6月22日	第一工業大学	事業説明	鹿児島第一高校	○				
6月22日	第一工業大学	事業説明	KTS				○	
6月27日	第一工業大学	事業説明	沖縄県内高校	○				
6月28日	第一工業大学	事業説明	沖縄県内高校	○				
6月29日	第一工業大学	事業説明	沖縄県内高校	○				
6月30日	第一工業大学	事業説明	日本農業新聞			○		
6月	志學館大学	事業説明	志學館大学 大学案 内パンフレット					

日付	実施校名	概要	訪問・告知先	チラシ等 配布	HP	新聞 掲載	テレビ・ ラジオ紹介	備考
7 月								
7月1日	鹿児島大学	情報交換	専修大学	○				
7月1日	鹿児島大学	事業説明	鹿児島商工会議所					会報「アイム」 NO.738p5掲載
7月1日	第一工業大学	事業説明	合同企業説明会		○			
7月1日	第一工業大学	事業説明	広報きりしま			○		
7月4日	鹿児島大学	事業説明	鹿児島県中小企業家 同友会委員会					
7月4日	第一工業大学	事業説明	「制震金物」が合同通 信で紹介		○	○		
7月4日	第一工業大学	事業説明	志布志高校	○				
7月6日	鹿児島大学	事業説明&IS受 入依頼	日置市異業種交流会 総会					
7月7日	鹿屋体育大学	チラシ等送付	学生(第1回就職ガイダンス)	○				
7月7日	第一工業大学	事業説明	MBC				○	
7月8日	鹿屋体育大学	情報交換	株式会社東海日動 パートナーズ九州	○				
7月11日	鹿児島国際大学	事業説明&IS受 入依頼	日置市包括連携協定 締結		○	○	○	
7月11日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	㈱南日本情報処理センター		○			
7月11日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	㈱ソフト流通センター		○			
7月11日	鹿児島工業高等専門学校	事業説明	校内ミニ企業説明会	○	○	○		学生、KTC会員に周知
7月12日	鹿児島大学	事業説明&IS受 入依頼	鹿児島県企業誘致事 務研修会					
7月12日	鹿児島大学	事業説明	KISA					
7月13日	鹿児島大学	事業説明&IS受 入依頼	肝付町					
7月13日	鹿児島国際大学	情報交換	地元中小企業			○		
7月13日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	アルバック九州(株)		○			
7月14日	第一工業大学	事業説明	NEDO-TCP 未来 2017説明会	○	○			
7月19日	鹿児島国際大学	事業説明	スターフライヤーエ アラインセミナー			○		
7月20日	第一工業大学	事業説明	県内B社					
7月23日	第一工業大学	イベント案内	隼人町平熊地区自治 公民館					
7月26日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受 入依頼	鹿屋市役所(総務部 総務課)	○				
8 月								
8月1日	第一工業大学	事業説明	「制震金物」日経アー キテックチャ		○	○		
8月2日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受 入依頼	鹿屋市役所(市民生活部 市民スポーツ課)	○				
8月4日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	㈱トヨタ車体研究所		○			
8月4日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	㈱南光		○			
8月4日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	㈱コムツァイト		○			
8月5日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	太陽ガス(株)		○			
8月5日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	㈱オーケー社鹿児島		○			
8月7日	鹿児島大学	チラシ等送付	オープンキャンパス 学生保護者	○				
8月7日	鹿児島国際大学	事業説明	オープンキャンパス 保護者等配布	○	○			
8月8日	第一工業大学	事業説明	公開講座	○	○			
8月9日	鹿屋体育大学	企業訪問	鹿屋市役所(市民生活部 市民スポーツ課)					
8月16日	鹿屋体育大学	企業訪問	鹿屋市役所(市民生活部 市民スポーツ課)					
8月24日	鹿児島国際大学	事業説明	鹿児島県商業部会研修会	○				
8月28日	第一工業大学	事業説明	読売新聞			○		
8月29日	鹿児島大学	企業訪問	島津興業	○				
8月30日	鹿児島国際大学	事業説明	高齢者の学びの公開 講座参加者配布	○	○			
8月31日	志学館大学	事業説明	鹿児島経済同友会 かごしま飛翔会	○				
8月31日	第一工業大学	事業説明	西郷公園プロジェクト		○			

日付	実施校名	概要	訪問・告知先	チラシ等 配布	HP	新聞 掲載	テレビ・ ラジオ紹介	備考
9 月								
9月2日	鹿児島工業高等専門学校	イベント案内	鹿児島高専テクノクラブ (KTC) 第2回技術研修会	○	○	○		学生及び保護者、KTC会員、県内企業、自治体、商工会議所などに周知
9月7日	鹿児島国際大学	事業説明	株式会社ARIO	○				
9月15日	鹿児島国際大学	事業説明	阿久根市・鹿児島相互信用金庫			○		
9月16日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	薩摩川内市	○	○			教職員、KTC会員に周知
9月24日	鹿児島国際大学	事業説明	鹿児島高校文化祭「にこにこ市」配布	○	○			
9月25日	鹿児島国際大学	事業説明	いちき串木野市県水土里探検隊事業	○		○		
9月26日	鹿児島大学	チラシ等送付	COC+参加校、事業協働機関、県内高校、3/7キックオフシンポジウム参加者(10/29合同シンポジウム)	○	○			
9月26日	鹿児島県立短期大学	情報交換	地元企業との意見交換会	○	○			
9月27日	鹿児島国際大学	事業説明	国際文化学科ガイダンス参加者	○				
9月27日	鹿児島工業高等専門学校	情報交換	第2回「COC+高専」地方創生推進会議		○			
9月28日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受入依頼	鹿児島きもつき農業協同組合	○				
9月28日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受入依頼	株式会社まちづくり鹿屋	○				
10 月								
10月1日	第一工業大学	事業説明	公開講座	○	○	○		
10月3日	鹿児島大学	講師協力依頼	さつま町長					
10月5日	鹿児島国際大学	事業説明	理事会	○				
10月6日	鹿児島国際大学	事業説明	COCシンポジウム参加者配布	○	○	○		
10月10日	鹿児島国際大学	事業説明	オープンキャンパス保護者等配布	○	○			
10月12日	鹿児島国際大学	イベント案内	近隣11高校アイデアコンテスト案内	○				
10月13日	第一工業大学	事業説明	隼人町平熊地区					
10月14日	鹿児島国際大学	事業説明	阿久根市	○				
10月17日	鹿児島大学	事業説明	労働局政労使会議オブザーバー参加		○			
10月18日	第一工業大学	事業説明	KYT				○	
10月19日	鹿児島国際大学	事業説明	京都女子大	○				
10月19日	第一工業大学	事業説明	KTS				○	
10月21日	鹿児島大学	講師協力依頼	南国殖産、南日本銀行		○			
10月21日	鹿児島国際大学	事業説明	地元企業と留学生の座談会参加者	○	○			
10月21日	第一工業大学	事業説明	2016かごしま住まいと建築展	○	○	○	○	
10月24日	鹿児島国際大学	事業説明	経済学部ガイダンス参加者	○				
10月29日	鹿児島大学	事業説明	外部 (COC/COC+ 合同シンポジウム)	○	○	○		1/13文教ニュース掲載
10月29日	鹿児島国際大学	チラシ等送付	COC / COC+ 合同シンポジウム配布	○			○	
10月29日	第一工業大学	その他	AIRAふるさとチャレンジャー開催		○			
10月30日	第一工業大学	事業説明	隼人町平熊地区自治公民館	○				
10月	志学館大学	その他	交通政策フィールドワークのプレスリリース		○			

日付	実施校名	概要	訪問・告知先	チラシ等 配布	HP	新聞 掲載	テレビ・ ラジオ紹介	備考
11 月								
11月1日	鹿屋体育大学	情報交換	株式会社さかうえ	○				
11月1日	第一工業大学	事業説明	JAあいら広報誌			○		
11月4日	第一工業大学	事業説明	朝日新聞			○		
11月4日	第一工業大学	事業説明	南日本新聞			○		
11月5日	鹿児島国際大学	情報交換	始良市商工会連携事業	○		○		
11月6日	第一工業大学	事業説明	消防フェスタinきりしま2016	○	○			
11月7日	鹿屋体育大学	イベント案内	社会医療法人 鹿屋島 愛心会大隅鹿屋病院	○				
11月7日	鹿屋体育大学	イベント案内	医療法人 青仁会池田 病院	○				
11月7日	第一工業大学	その他	「制震金物」福岡設置		○			
11月8日	鹿屋体育大学	イベント案内	社会医療法人 恒心会 おぐら病院	○				
11月10日	鹿児島大学	情報交換	鹿銀、相信の認定CD		○			
11月11日	第一工業大学	情報交換	隼人町平熊地区自治 公民館					
11月15日	鹿児島大学	IS受入依頼	法文学部長					
11月17日	鹿児島大学	情報交換	鹿児島銀行					
11月17日	第一工業大学	事業説明	リクルートキャリア					
11月18日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	(株)山水		○			
11月20日	志学館大学	事業説明	大学祭でのCOC+ コーナー設置					学生SNS
11月21日	鹿児島大学	情報交換	政策金融公庫の認定 CD					
11月22日	鹿児島大学	事業説明	MBC (テレビ)				○	[MBC NEWS NOW ニューズナウ] 出演
11月26日	第一工業大学	事業説明	建築文化講演会	○	○	○		
12 月								
12月1日	第一工業大学	事業説明	ラーラぱど			○		
12月5日	鹿児島大学	情報交換	商工中金の認定CD					
12月6日	第一工業大学	イベント案内	リクルートキャリア (県内企業)	○				
12月8日	第一工業大学	事業説明	「制震金物」を耐震補 強で設置		○	○		
12月9日	鹿児島大学	事業説明	鹿児島建設新聞			○		
12月9日	第一工業大学	事業説明	シティリビング東京版			○		
12月9日	鹿児島大学	事業説明	鹿児島建設新聞			○		
12月10日	第一工業大学	事業説明	合同進学ガイダンス 開催		○			
12月12日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	(株)ソフト流通センター		○			
12月13日	鹿屋体育大学	情報交換	医療法人 翔優会よし どめ歯科					
12月13日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受 入依頼	社会医療法人 鹿屋島 愛心会大隅鹿屋病院					
12月13日	志学館大学	その他	弁当男子コンテスト のプレスリリース		○	○	○	学生SNS
12月14日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受 入依頼	社会医療法人 恒心会 おぐら病院					
12月14日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	キリシマ精工(株)		○			
12月14日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	マイクロカット(株)		○			
12月16日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受 入依頼	医療法人 青仁会池田 病院					
12月16日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	大福コンサルタント(株)		○			
12月19日	第一工業大学	講師協力依頼	若松商業高校					
12月19日	第一工業大学	講師協力依頼	JAあいら					
12月20日	鹿児島大学	情報交換	第3回「COC+高専」 地方創生推進会議					
12月20日	鹿児島大学	事業説明	大崎町					
12月20日	第一工業大学	講師協力依頼	宝珠山きのご生産組合					
12月20日	鹿児島工業高等専門学校	情報交換	第3回「COC+高専」 地方創生推進会議		○			
12月22日	第一工業大学	情報交換	リクルートキャリア					
12月	志学館大学	事業説明	学校法人志学館学園 学園広報					

日付	実施校名	概要	訪問・告知先	チラシ等 配布	HP	新聞 掲載	テレビ・ ラジオ紹介	備考
1 月								
1月4日	第一工業大学	事業説明	霧島市					
1月4日	第一工業大学	事業説明	JAあいら					
1月6日	第一工業大学	チラシ等送付	JAあいら					
1月8日	第一工業大学	チラシ等送付	霧島市	○				
1月10日	鹿屋体育大学	企業訪問	社会医療法人恒心会 おぐら病院					
1月10日	鹿屋体育大学	企業訪問	社会医療法人鹿児島 愛心会大隅鹿屋病院					
1月11日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	ソニーセミコンダクタマ ニユファクチャリング(株)		○			
1月12日	鹿児島工業高等専門学校	イベント案内	高専生のための地域 企業研究会	○	○	○	○	KTC会員に周知
1月12日	鹿児島工業高等専門学校	企業訪問	1年生地域企業見学会		○			KTC会員に周知
1月13日	鹿屋体育大学	企業訪問	社会医療法人鹿児島 愛心会大隅鹿屋病院					
1月16日	第一工業大学	講師協力依頼	鹿児島厚生連魏病院					
1月16日	第一工業大学	情報交換	リクルートキャリア					
1月18日	鹿屋体育大学	事業説明&IS受 入依頼	株式会社桜開発(桜 観光)	○				
1月19日	鹿屋体育大学	情報交換	鹿屋商工会議所青年部	○				
1月20日	鹿児島国際大学	情報交換	地域の未来を語るワー クショップ参加者配布	○	○	○		
1月24日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	(株)キラ・コーポレー ション		○			
1月26日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	(株)IHI		○			
1月28日	鹿児島大学	事業説明	地元企業との意見交換会	○		○	○	
1月31日	第一工業大学	チラシ等送付	学内(2年生)	○				
2 月								
2月1日	鹿児島大学	IS受入依頼	山形屋	○				
2月1日	鹿屋体育大学	情報交換	鹿児島きもつき農業 協同組合	○				
2月1日	鹿児島女子短期大学	情報交換	生活科学専攻事業所 ガイダンス					
2月3日	鹿児島女子短期大学	情報交換	生活福祉専攻事業所 ガイダンス					
2月3日	鹿児島女子短期大学	情報交換	教養学科事業所ガイ ダンス					
2月4日	鹿屋体育大学	情報交換	小鹿酒造株式会社					
2月6日	鹿児島国際大学	事業説明&IS受 入依頼	大和村インターンシッ プ			○		
2月6日	鹿児島国際大学	事業説明&IS受 入依頼	垂水市包括連携協定 締結	○	○	○	○	
2月6日	第一工業大学	事業説明	南九州ケーブルテレビ				○	
2月6日	鹿児島女子短期大学	情報交換	児童教育学科事業所 ガイダンス					
2月7日	第一工業大学	事業説明	南九州ケーブルテレビ				○	
2月7日	鹿児島女子短期大学	情報交換	食物栄養専攻事業所 ガイダンス					
2月9日	第一工業大学	事業説明	国分中央高校	○				
2月9日	第一工業大学	その他	学内(インターンシッ プ事前勉強会)		○			
2月10日	第一工業大学	事業説明	六次産業化推進フォー ラム		○			
2月10日	鹿児島女子短期大学	情報交換	地元事業所との情報 交換会					説明
2月12日	鹿児島国際大学	事業説明	地域活性アイデアコ ンテスト参加者配布	○	○		○	
2月13日	鹿児島女子短期大学	情報交換	COC活動外部評価委 員会					説明
2月15日	鹿児島工業高等専門学校	講師協力依頼	日置市、霧島市		○			
2月20日	鹿屋体育大学	事業説明	南日本新聞	○				
2月23日	鹿児島工業高等専門学校	イベント案内	情報工学科卒業研究 審査会		○			KTC会員に周知

日付	実施校名	概要	訪問・告知先	チラシ等 配布	HP	新聞 掲載	テレビ・ ラジオ紹介	備考
3 月								
3月3日	鹿児島女子短期大学	情報交換	地元企業と語る会					説明
3月3日	鹿児島工業高等専門学校	イベント案内	鹿児島高専テクノ クラブ(KTC)第3回 技術研修会					
3月4日	鹿児島国際大学	事業説明	阿久根市活性化事業		○			
3月21日	鹿児島工業高等専門学校	情報交換	第4回「COC+高専」 地方創生推進会議及 び外部評価会議					

I 事業協働機関との連携

II COC+参加校の
事業実績

III 事業協働機関の
主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と
学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

料

平成29年 1月13日(金曜日) 文 教 速 報 (第三編郵便物認可) 第8377号 -7-

九州・沖縄COC+/COC+合同シンポジウムを開催(鹿児島県)

鹿児島大学主催による「九州・沖縄COC+/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016・COC+/COC+が拓く地方創生と大学改革」が、このほど鹿児島県大ホールで開催された。

同シンポジウムは、九州・沖縄地域のCOC+事業探検隊を中心として、地域を志向した教育・研究の活性化と社会貢献のあり方について議論することを目的とするもの。20年の歴史を誇る、27年の伝統を誇るCOC+事業が開始されたことを受けて、今回はCOC+シンポジウムとして実施した。

鹿児島県が作成した「Bird's Eye View of Kagoshima」の巻頭上読に引き続き、前田芳貴鹿児島大学長による基調講演、三反園訓鹿児島県知事による来賓挨拶、小林洋子副知事代読、後、「地方創生への取組と今後の方向性」と題して、地田康一内閣府地方創生推進部長による基調講演が行われた。引き続き、事例発表、分科会をそれぞれ、地田氏、岡式久参事長ら大みやだいCOC+推進委員、鹿児島大学文学部3年の若林美穂さん、村代慶安(二社)九州インターンシップ推進協議会事務局長をパネリストとして、パネルディスカッションが行われた。

今回のシンポジウムは事例発表、分科会、パネル討論を軸として、「大学が拓くx地域が拓く」地方創生をテーマとして、それぞれが主役である「大学」「学生」「地域」が「地方創生」にどのような働きかけをしてくのか、また何が求められるのかについて議論を深めた。

シンポジウムには、九州・沖縄地域の大学の教職員や市民、学生、自治体関係者、企業及び企業団体関係者を含めて約200名が参加する中、大いに盛り上がった。

また、鹿児島大学留交流プラザに会場を貸して開催した情報交換会でも、各大学の地域を志向した教育や若者の地元就職率向上に向けた取組や課題などについて活発な意見交換が行われた。






建設業の役割伝える

鹿大へ講師派遣

建設協
材育
策成
室

県建設業協会人材育成
対策室は8日、鹿児島市
の鹿児島大学で開講され

女性活躍の拡大を説明する鎌田専務
(左) 鹿児島市の鹿児島大学で



ている「地域就業キャリア
アデザイン」の授業に講
師を派遣、学生に地元建
設業界の役割や現状など
を伝えた。

授業は、大学卒業生の
地元就業率向上を目的に、
国が県内の大学と連携し
て進めている地域就業教
育プログラムの一環で
行っている

もの。全15
回の講義を
通して地域
の現状や就
職に向けた
企業研究の
手法などを
教えている。
同日は、
建設業をほ
じめインフ
ラ、ICT
関連、総合
商社の経営
者や人事担
当者に学生
がインタ
ビューを实

施した。
講師として参加した(株)
鎌田建設の鎌田安典専務
へ仕事内容について質問
が寄せられると、同社が
手掛ける事業や建設業が
地域で果たす役割を話し
たほか、女性の活躍する
仕事が増えている現状

を伝えた。
鎌田専務は「男社会で
重労働というイメージが
変わったという声もあり、
意義のある時間になった
のでは。地元の企業にも
目を向けて就職活動に取
り組んでほしい」と感想
を語った。

<提供：鹿児島建設新聞>

VII 資 料

1 企業訪問・来訪企業一覧及び県外COC+機関等調査一覧（鹿児島大学）

平成28年度 企業訪問・来訪企業一覧

卸売・小売業	(株)西原商会	医療・福祉業	日本赤十字社 鹿児島県支部	
	(株)M i s u m i		鹿児島医療生活協同組合	
	サツマ酵素工業(株)		(株)カクイックス	
	南国殖産(株)		(株)九州経済研究所	
	(株)山形屋			岩崎産業(株)
製造業	(株)エルム	サービス業	(株)大進	
	サステナジー(株)		(株)島津興業	
	(株)岡野エレクトロニクス		(株)新日本科学	
	(株)井川産業	技術 サービス業	(株)大翔	
	日本特殊陶業(株) (宮之城工場)		(株)地域科学研究所 鹿児島事務所	
	京セラ(株) (鹿児島川内工場)	金融・保険業	鹿児島相互信用金庫	
	京セラ(株) (鹿児島国分工場)		鹿児島信用保証協会	
	加治木産業(株)		損保ジャパン日本興亜(株)	
	(株)オーケー社鹿児島		東京海上日動火災保険(株)	
	(株)南光		鹿児島信用金庫	
	(株)スペーサー工業		(株)南日本銀行	
	(株)東郷		JA共済連鹿児島	
	(株)てまひま堂		三井住友信託銀行(株) 鹿児島支店	
	本坊酒造(株)		(株)鹿児島銀行	
	インフラテック(株)		住宅・ 不動産業	M B C 開発(株)
	坂元醸造(株)	鎌田建設(株)		
	日本澱粉工業(株)	ヤマグチ(株)		
	(株)ヒガシマル	コーアツ工業(株)		
	シチズン時計鹿児島(株)	鹿児島ターミナルビル(株)		
	日之出紙器工業(株)	鹿児島空港ビルディング(株)	電気・ ガス・ 水道業	(株)栄電社
	(株)健康家族	霧島木質発電(株)		
	(株)トヨタ車体研究所	日本ガス(株)		
	(株)イケダパン	(株)コーアガス日本	農業・林業・ 漁業	マルイ農業協同組合
	(株)山野井	JA経済連鹿児島		
	(株)九州タブチ	JA鹿児島県連合会		
	鹿児島くみあい食品(株)	官公庁	鹿児島市役所	
	(株)飯塚製作所鹿児島工場		霧島市役所	
	(株)キラコーポレーション		日置市役所	
	(株)藤田ワークス		薩摩川内市役所	
	三豊機工(株)		さつま町役場	
	アルバック九州(株)	その他	薩摩川内市産業支援センター	
	昭光エレクトロニクス(株)		南九州観光客促進連合	
	(株)省力化技研	情報・通信業		
	(株)ソフト流通センター			
	(株)現場サポート			
	(株)富士通鹿児島インフォネット			
	ピクオス(株)			
	南国システムサービス(株)			
	(株)南日本情報処理センター			

(順不同)

平成28年度 県外COC+機関大学等の取組状況調査一覧

日付	調査先(大学)	場所	目的
7月1日(金)	専修大学	専修大学生田キャンパス4号館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1	課題解決型インターンシップについての聞き取り調査
9月26日(月)	富山県立大学	富山国際会議場 富山県富山市大手町1-2	富山県立大学主催COC/COC+全国シンポジウム『地域活性化と大学の役割～地方創生に向けた学生・大学・地域のさらなる連携を求めて～』の参加および本学学生の地域貢献活動についてのポスター発表
12月9日(金)	熊本大学 熊本県立大学	メルパルク熊本 熊本市 中央区水道町14-1	「オール熊本で取り組む熊本産業創成と雇用創出のための教育プログラム」シンポジウム「第1次産業の競争力強化と6次産業化による地方創生」のCOC/COC+シンポジウムに参加。(主催)くまもとCOC+事業産学官連携部会六次産業化育成連絡会
平成29年 2月20日(月)	北九州大学	北九州市立商工貿易会館 北九州市小倉北区古船場町	「北九州・下関まなびとぴあ」平成28年度事業報告会『ともに創ろう未来への懸け橋～若者が地域を変える～』に参加
平成29年 2月20日(月)	北九州大学	アミュプラザ小倉西館8階 (JR小倉駅ビル)	まなびとJOBステーションの現場視察
平成29年 3月6.7日(月・火)	高知大学	高知市本町 ザクラウンパレス新阪急高知 高知商工会館	全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム(第1部・第2部)参加 全国コーディネーター会議出席

I 事業協働機関との連携

II COC+参画校の事業実績

III 事業協働機関の主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

2 平成28年度就職面接会等一覧（鹿児島県雇用労政課）

H29.2.15 現在

名 称 (主 催 者)	対象者					H28					H27					
	高 校 生	大 ・ 短 大 生	若 年 者	一 般	そ の 他	期 日	企 業	参 加 者 (目 標)	参 加 者	内 定 採 用	場 所	期 日	企 業	参 加 者	内 定 採 用	場 所
就活応援フェア 「合同会社面談会&就 職講座」 (キャッチワークかご しま・鹿児島労働局・ 鹿児島県)		○	○			6/25	106	700	278		鹿児島大学	6/30	122	430	74	鹿児島 アリーナ
九州・山口UIJター ン就職応援フェア【合 同会社面談会】 (九州・山口UIJター ン若者就職促進協議 会)		○	○			7/8 7/9	117 (12) ※2	1,000	179 (52)		東京都 新宿NSビル	/				
UIJターンフェアかご しま&県内就職合同面 接会 (鹿児島県・鹿児島労 働局)		○	○	○		8/12	80	300	337		サンロイヤル ホテル					
若者応援就職フェア 「企業合同就職面談会」 (キャッチワークかご しま・鹿児島労働局・ 鹿児島県)		○	○			9/20	91	350	170		サンロイヤル ホテル	9/28	96	339	55	城山観光 ホテル
大学生等就職面接会in 鹿児島 (鹿児島労働局・鹿児 島県)		○ ※				2/21	60	—			サンロイヤル ホテル	2/22	52	71	5	サンロイヤル ホテル
九州・山口UIJター ン就職応援フェア【合 同会社説明会】 (九州・山口UIJター ン若者就職促進協議 会)		○	○			3/14	120 (16) ※3	1,000			東京都 池袋サンシャイ ンシティ	3/21	118 (15) ※3	331 (102) ※3		東京ドーム プリズムホール
合同企業説明会“鹿児 島で働こう！” (鹿児島県・鹿児島労 働局)		○	○			3/10	11	100			龍谷大学大阪梅 田キャンパス (大阪市)	3/11	11	23		龍谷大学大阪梅 田キャンパス (大阪市)
						3/18	50	200			福岡ファッショ ンビル (福岡市)	3/17	50	85		福岡ファッショ ンビル (福岡市)
	鹿児島会場：キャッチ ワークかごしま共催		○ ※			3/28	160	700			城山観光 ホテル	3/22	150	688		城山観光 ホテル
鹿児島県UIJターン就職 応援フェア in 東京 (鹿児島商工会議所・ 鹿児島県)		○	○			/					4/26	29	139		東京都 アーバンネット 神田カンファレ ンス	

※…既卒3年以内を含む ※2…()は鹿児島県分2日間の合計数 ※3…()は鹿児島県分 ※4…()は学生数であり内数

3 県内企業と県内大学生の就職・インターンシップに関する調査

鹿児島県の企業における県内大学生等のインターンシップ受入及び雇用状況アンケート調査票

貴社についての質問

1) 基本情報についてうかがいます。

①	会社名		
②	業種 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 農林水産業 <input type="checkbox"/> 建設業 <input type="checkbox"/> 製造業(具体的に記入: <input type="checkbox"/> 電気・ガス業 <input type="checkbox"/> 情報通信業 <input type="checkbox"/> 運輸業 <input type="checkbox"/> 卸、小売業 <input type="checkbox"/> 金融、保険業 <input type="checkbox"/> 不動産、物品賃貸業 <input type="checkbox"/> 学術研究、専門・技術サービス業 <input type="checkbox"/> 宿泊、飲食サービス業 <input type="checkbox"/> 生活関連サービス業、娯楽業 <input type="checkbox"/> 教育、学習支援業 <input type="checkbox"/> 医療、福祉 <input type="checkbox"/> その他()	
③	資本金	()円	
④	正社員数	()人	うち 女性社員 ()人
⑤	売上高	<input type="checkbox"/> 1000万円未満 <input type="checkbox"/> 1億円未満 <input type="checkbox"/> 10億円未満 <input type="checkbox"/> 100億円未満 <input type="checkbox"/> 100億円以上	
⑥	本社	(〒 -)	
⑦	支店・営業所等 (職階付すべし)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 県内 <input type="checkbox"/> 九州内(鹿児島を除く) <input type="checkbox"/> 国内(九州を除く) <input type="checkbox"/> 海外	

2) 現在抱えている課題などについてうかがいます。

①	内容 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 人材確保 <input type="checkbox"/> 技術向上や新技術導入 <input type="checkbox"/> 商品開発 <input type="checkbox"/> 国内市場開拓 <input type="checkbox"/> 海外展開 <input type="checkbox"/> 資金繰り <input type="checkbox"/> 後継者問題 <input type="checkbox"/> 新分野開拓 <input type="checkbox"/> 広報 <input type="checkbox"/> その他()	
---	---------------	---	--

3) 県内大学等との関係で期待することについてうかがいます。

①	内容 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> インターンシップ <input type="checkbox"/> 新卒学生採用 <input type="checkbox"/> 業界の業務内容を説明できる出前授業 <input type="checkbox"/> 企業の業務内容を説明できる見学会実施 <input type="checkbox"/> 学生参加による商品開発 <input type="checkbox"/> 共同研究など産学連携 <input type="checkbox"/> 海外展開などについての支援 <input type="checkbox"/> 市場開拓の支援 <input type="checkbox"/> 学生との交流・意見交換 <input type="checkbox"/> 新卒学生を対象とした企業説明会実施 <input type="checkbox"/> 全学年を対象とした自社の説明会実施 <input type="checkbox"/> その他()	
---	---------------	---	--

4) 今後、連絡等させていただく為に下記内容についてご記入下さい。

部署名	TEL	
役職名	FAX	
担当署名	E-Mail	

★たくさんの質問をさせていただき、ご面倒をおかけ致しました。ありがとうございます。

「地(知)の拠点」 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

**鹿児島県の企業における県内大学生等の
インターンシップ受け入れ及び雇用状況
アンケート調査票**

◇ 本調査は国立大学法人鹿児島大学の委託により、株式会社鹿児島TLOが実施するものです。
 ◇ 鹿児島大学は地域活性化の知の中核的拠点として、下記機関と連携して「オールがこしま」で以下の取り組みを行っています。
 ①地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
 ②参加大学の知と地域の特徴を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
 ③地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
 これらの事業をすすめるために、県内企業のみなさまの実態を把握し、調査を実施すること致しましたので、ご協力宜しくお願い致します。

【COC+大学】 国立大学法人鹿児島大学
【COC+事業協働機関】
 (参加大学等) 鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島工業高等専門学校
 (参加自治体) 鹿児島県
 (参加企業等) (公財)がこしま産業支援センター、鹿児島県工業技術センター、鹿児島県大加工技術研究センター、(公社)鹿児島県観光連盟、(公社)鹿児島県工業倶楽部、鹿児島県農業協同組合中央会、鹿児島県森林組合連合会、鹿児島県漁業協同組合連合会、鹿児島県経済同友会、(株)鹿児島TLO、鹿児島県商工会議所連合会、鹿児島県商工会連合会、鹿児島県中小企業団体中央会、(社福)鹿児島県社会福祉協議会、(株)鹿児島銀行

◇ アンケートは**受領の日から2週間以内**にご回答をお願いいたします。
 ◇ ご提供いただいた情報は、COC+関係者のみで使用し、一般には公開しません。
 外部に公開する場合は、匿名化された統計的結果のみと致します。また、ご回答頂いた企業様には、匿名化された統計的結果をフィードバックします。

【問い合わせ先】 このアンケートに関する内容については下記へお問い合わせください。
 株式会社鹿児島TLO 萩留 博実、上原 美子 TEL. 099-284-1631 FAX 099-284-1632
 E-mail Info@tlo.co.jp 住所 〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番40号 鹿児島大学内

各質問の該当する口を○をつけて下さい。また、()内は具体的に記入して下さい。
 なお、文中の「大学等」とは、4年制大学、短期大学、高等専門学校を指します。

インターンシップについての質問

職業経験を積むために、学生が企業等で一定期間、労働に従事することを**インターンシップ**と呼びます。

1) 過去10年間(2007年度以降)、インターンシップによる県内大学生等の受入実績がありますか? **○ある □ない**

2) 実績があるとお答えの方には、(複数年受入の実績は平均的事例を記入して下さい)

①	受入実績(人・回数)	のべ()人・のべ()回 →うち 県内()人 県外()人	
②	受入頻度	□ほぼ毎年 □数回 □一度のみ	
③	受入時期(一年の間で)	<input type="checkbox"/> 春 <input type="checkbox"/> 夏 <input type="checkbox"/> 秋 <input type="checkbox"/> 冬 <input type="checkbox"/> 繁忙期 <input type="checkbox"/> 閑散期 <input type="checkbox"/> 大学の休み期間	
④	受入部門(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 総務部門 <input type="checkbox"/> 業務現場 <input type="checkbox"/> 全部門 <input type="checkbox"/> その他()	
⑤	受入大学等名(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 鹿児島大学 <input type="checkbox"/> 鹿児島体育大学 <input type="checkbox"/> 鹿児島国際大学 <input type="checkbox"/> 志学館大学 <input type="checkbox"/> 第一工業大学 <input type="checkbox"/> 鹿児島県立短期大学 <input type="checkbox"/> 鹿児島女子短期大学 <input type="checkbox"/> 鹿児島工業高等専門学校 <input type="checkbox"/> その他県内大学等 <input type="checkbox"/> 県外大学等	
⑥	受入学部について	<input type="checkbox"/> 指定した(学部名:) <input type="checkbox"/> 指定しない	
⑦	受入期間	<input type="checkbox"/> 一週間以内 <input type="checkbox"/> 二週間以内 <input type="checkbox"/> 一か月以内 <input type="checkbox"/> 一か月超	
⑧	一日の受入時間(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 終日 <input type="checkbox"/> 午前 <input type="checkbox"/> 午後 <input type="checkbox"/> 夜間等 <input type="checkbox"/> 時間指定(: ~ :)	
⑨	受入方法について (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 大学等の就職支援課 <input type="checkbox"/> 大学等のインターンシップ窓口(イベント・ラボ) <input type="checkbox"/> 大学等の学部・研究科からの紹介 <input type="checkbox"/> マイナビ・リクナビ等の就職支援サイト <input type="checkbox"/> 経済団体等からの紹介 <input type="checkbox"/> 先輩社員からの紹介 <input type="checkbox"/> その他()	
⑩	受入者の性別について	<input type="checkbox"/> 男子のみ <input type="checkbox"/> 女子のみ <input type="checkbox"/> 両方受け入れ	
⑪	今後の受入について	<input type="checkbox"/> 積極的に受け入れたい <input type="checkbox"/> 受け入れたい <input type="checkbox"/> 内容次第 <input type="checkbox"/> 中止する (その理由:)	

3) 実績がないとお答えの方には、

①	今後の受入について	<input type="checkbox"/> 積極的に受け入れたい <input type="checkbox"/> 受け入れたい <input type="checkbox"/> 内容次第 <input type="checkbox"/> 考えていない (その理由:)	
②	希望する学部について	<input type="checkbox"/> 学部は関係ない <input type="checkbox"/> 希望する()	

4) **全ての方**に質問します。インターンシップ受入はどの程度の期間が適切と考えますか?

①	受入期間	<input type="checkbox"/> 一週間以内 <input type="checkbox"/> 二週間以内 <input type="checkbox"/> 一か月以内 <input type="checkbox"/> 一か月超	
---	------	--	--

5) 最近、企業や業種の抱える課題(例:商品開発、マーケティングなど)について、参加学生が調査し、解決策などを提案する**課題解決型インターンシップ**があります。このことについてうかがいます。

①	課題解決型インターンシップ	<input type="checkbox"/> 実施経験あり <input type="checkbox"/> 知っているが実績はない <input type="checkbox"/> 初めて聞いた	
②	今後の受入について	<input type="checkbox"/> 積極的に受け入れたい <input type="checkbox"/> 受け入れたい <input type="checkbox"/> 内容次第 <input type="checkbox"/> 考えていない (その理由:)	

県内の新卒学生採用についての質問

1) 過去10年間(2007年度以降)に県内大学等の新卒学生を採用した実績がありますか? **○ある □ない**

2) 1)で、**ある**とお答えの方には、

1. 過去10年間(2007年度以降)の各年度における県内大学等の新卒学生の採用人数を記入して下さい。

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
男子										
女子										

2. 過去10年間(2007年度以降)に採用した新卒学生のうち、県内大学等出身者と県外大学等出身者の人数をお知らせください。

	県内	人	県外	人
--	----	---	----	---

3. 採用内容についてうかがいます。

①	新卒学生採用理由 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 幹部候補生 <input type="checkbox"/> 専門知識(研究等) <input type="checkbox"/> 事業拡大 <input type="checkbox"/> 技術向上や新技術導入 <input type="checkbox"/> 商品開発 <input type="checkbox"/> 市場開拓 <input type="checkbox"/> 海外展開 <input type="checkbox"/> 経営戦略企画立案 <input type="checkbox"/> 大学との連携 <input type="checkbox"/> その他()	
②	待遇	<input type="checkbox"/> 大卒を考慮する <input type="checkbox"/> 特別には考慮しない	
③	募集方法 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 就職雑誌など紙媒体 <input type="checkbox"/> 新聞・ラジオなどマスメディア <input type="checkbox"/> 自社ホームページ <input type="checkbox"/> リクナビなど就職支援サイト <input type="checkbox"/> ハローワークなど公的就職支援機関 <input type="checkbox"/> 自治体などが行う公的企業説明会 <input type="checkbox"/> マスカミなど企業が行う企業説明会 <input type="checkbox"/> 大学研究室からの紹介 <input type="checkbox"/> 自社社員による後輩訪問 <input type="checkbox"/> イベント <input type="checkbox"/> アルバイト受入 <input type="checkbox"/> 学生の両親など縁故関係 <input type="checkbox"/> その他()	
④	求める能力 (特に重視するもの3種を選択)	<input type="checkbox"/> 創造力(新しい価値を生み出す力) <input type="checkbox"/> 実行力(やり遂げる力) <input type="checkbox"/> 判断力(様々な選択肢を検討できる力) <input type="checkbox"/> 調整力(複数の意見の調和を図る力) <input type="checkbox"/> 地域就業力(地元組織及び地域の活性化に貢献できる力) <input type="checkbox"/> 地域マインド(地域に貢献したいという意識、態度)	

3) **全ての方**に質問します。今後、県内大学等の新卒学生の採用を優先したいですか?

①	県内新卒学生	<input type="checkbox"/> 優先したい <input type="checkbox"/> 必要に応じて優先したい <input type="checkbox"/> 何とも言えない <input type="checkbox"/> 優先しない	
---	--------	---	--

I 事業協働機関との連携
II COC+参画校の事業実績
III 主要な取り組みの事業協働機関の
IV 就業支援・地元企業と学生のマッチング
V 企業及び学生に関する調査
VI 広報活動
VII 資料

県内大学生などの就職に関する意識調査票

県内大学生等の就職に関する意識調査票

この調査は、①地元産業界のニーズを踏まえた卒業生の地元就業率向上につながる教育改革の推進、②参加大学等の知と地域の特徴を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大、③地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化を目的に、就職先である産業界・自治体等と、下記8大学等の学生のニーズのマッチングを図るための基礎資料とするものです。そこで、在学中の学生の方々に就職についての考えをお伺いすることに致しました。なお、今回いただきましたご回答は全て統計的な処理を行い、8大学等で共有するものとし、上記目的以外には使用しません。ご協力よろしくお願致します。

【調査参加大学等】

鹿児島大学、鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島工業高等専門学校

【問い合わせ先・調査受託機関】このアンケートに関する内容については下記へお問い合わせください。

株式会社鹿児島TLO 吹留 博実、上原 美子 TEL. 099-284-1631 FAX 099-284-1632
E-mail info@tlo.co.jp 住所 〒890-0065 鹿児島市都元1丁目21番40号 鹿児島大学内

各質問の該当する項目の□に✓をつけてください。または()に記入してください。

1. 就職についての情報収集はいつ始めましたか？

回答	<input type="checkbox"/> 1年前期 <input type="checkbox"/> 1年後期 <input type="checkbox"/> 2年前期 <input type="checkbox"/> 2年後期 <input type="checkbox"/> 3年前期 <input type="checkbox"/> 3年後期 <input type="checkbox"/> 4年前期 <input type="checkbox"/> 4年後期 <input type="checkbox"/> 5年前期 <input type="checkbox"/> 5年後期 <input type="checkbox"/> 6年前期 <input type="checkbox"/> 6年後期
----	--

2. 就職の希望地域についての考えを教えてください。

回答	<input type="checkbox"/> 鹿児島県内 <input type="checkbox"/> 自分の出身県 <input type="checkbox"/> 国内大都市圏 <input type="checkbox"/> 地域は関係ない <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> わからない
----	--

3. 就職先を検討する際、よく利用する情報源を以下から3つ選んでチェックしてください。

<input checked="" type="checkbox"/>	① 大学等の就職支援センターや学生課など
<input type="checkbox"/>	② ゼミ・研究室の指導教員など
<input type="checkbox"/>	③ 就職希望先のホームページや会社案内など
<input type="checkbox"/>	④ 就職希望先でのインターンシップなど
<input type="checkbox"/>	⑤ 公的機関(ハローワーク等)による就職支援サイト・イベントなど
<input type="checkbox"/>	⑥ 民間企業(リクルート等)による就職支援サイト・イベントなど
<input type="checkbox"/>	⑦ OB/OG、知人・友人・家族など
<input type="checkbox"/>	⑧ その他 ()

4. 大学等での就職支援の方法として、希望するものを以下から3つ選んでチェックしてください。

<input checked="" type="checkbox"/>	① 年度末卒業予定者を対象とした企業合同説明会
<input type="checkbox"/>	② 全学年を対象とした企業合同勉強会
<input type="checkbox"/>	③ 社会人との交流会・ワークショップ
<input type="checkbox"/>	④ 経営者等による講演会
<input type="checkbox"/>	⑤ 企業情報を取りまとめた冊子の提供
<input type="checkbox"/>	⑥ 就職についての学生同士による意見交換会
<input type="checkbox"/>	⑦ 現場体験ができるインターンシップ
<input type="checkbox"/>	⑧ その他 ()

次ページもあります →

5. 就職先を決定するために、重視するものを以下から5つ選んでチェックしてください。

<input checked="" type="checkbox"/>	① 就職先の規模(従業員数、資本金など)
<input type="checkbox"/>	② 就職先の認知度
<input type="checkbox"/>	③ 就職先の安定性
<input type="checkbox"/>	④ 就職先の立地場所
<input type="checkbox"/>	⑤ 就職先の男女構成
<input type="checkbox"/>	⑥ 事業内容の充実度
<input type="checkbox"/>	⑦ 研修制度の充実度
<input type="checkbox"/>	⑧ 福利厚生(有給休暇数、休日数、育児休暇、住宅手当など)の充実度
<input type="checkbox"/>	⑨ 給与や年収
<input type="checkbox"/>	⑩ 転勤の程度
<input type="checkbox"/>	⑪ 社長など組織のトップの魅力
<input type="checkbox"/>	⑫ 職場の雰囲気
<input type="checkbox"/>	⑬ 今後成長産業となるような業種
<input type="checkbox"/>	⑭ 色々な経験が積める職種
<input type="checkbox"/>	⑮ 将来独立する際に役立つ経験
<input type="checkbox"/>	⑯ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の取りやすさ
<input type="checkbox"/>	⑰ インターネットの掲示板やSNSなどでの評判
<input type="checkbox"/>	⑱ ゼミ・研究室の教員の評価やすさ
<input type="checkbox"/>	⑲ OB/OG・友人の評価やすさ
<input type="checkbox"/>	⑳ 親や兄弟、親戚などの評価やすさ
<input type="checkbox"/>	㉑ その他 ()

6. 就職に関する意見や相談などがありましたら自由にご記入下さい。

7. あなたについて教えてください。

大学等名	(要記入)		
学部・学科	(要記入)	学部	学科
学年	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 6年		
性別	<input type="checkbox"/> 男子 <input type="checkbox"/> 女子		
出身地	<input type="checkbox"/> 鹿児島県内 <input type="checkbox"/> 県外(九州内) <input type="checkbox"/> 県外(九州以外) <input type="checkbox"/> 外国 ()		

※これで、全ての質問は終わりです。ご回答、有難うございました。

4 ホームページ



食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム

トップページ
概要
就職イベント
お知らせ
新入校
資料





鹿児島で活躍したい学生を産学官金でバックアップ！

① 就職イベント

[一覧を見る](#)

開催日・名称・主催	対象者	場所
[2017/02/28] 合同企業説明会「鹿児島で働くチャンス！in鹿児島（旧名称：鹿児島県） 为企业に会える！合同企業説明会」	学生（平成30年3月卒業予定者） 既卒3年以内の求職者（平成29年3月卒業予定の学生を含む）	城山観光ホテル（鹿児島市）
[2017/02/28] KISA会員企業による企業説明会	平成30年3月卒業予定者の学生全般（大学、短大、高専、専門学校等）	ソフトプラザかごしま2F
[2017/03/28] 留学生対象の合同企業説明会	県内留学生	鹿児島サンロイヤルホテル

② お知らせ

[一覧を見る](#)

お知らせ
[2017.02.06]
【ご案内】「地元企業高専社員と学生のトーク&座談会」開催のお知らせ

お知らせ
[2017.01.30]
【ご案内】就職に関するイベントについて（2017年1月30日掲載）

お知らせ
[2017.01.10]
平成29年1月28日（土）開催「地元企業との意見交換会」のご案内

活動報告

[一覧を見る](#)

鹿児島工業高等専門学校
[2017.03.15]
日南市及び鹿児島市職員による地方創生特別講義を開催しました(2017/2/15)

鹿児島工業高等専門学校
[2017.02.06]
「高専生のための地域企業研究会」を開催いたしました。(2017/1/12)

お知らせ
[2017.01.25]
平成28年度第4回COC+事業協働機関連絡会が開催されました

お問い合わせ

かごしま学卒者地元定着促進協議会
〒890-0065 鹿児島市都元1丁目21番40号
TEL: 099-285-0487 FAX: 099-285-8495
E-mail: plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

トップページ | 代表あいさつ | 概要 | お問い合わせ | 電話案内 | 新入校 | サイトマップ

© Copyright 2015 kagoshima UDC

I 事業協働機関との連携

II COC+参画校の事業実績

III 事業協働機関の主要な取り組み

IV 就業支援…地元企業と学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

5 「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016」プログラム



文部科学省「地(知)の拠点大学整備事業(COC)」「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウムIN鹿児島2016

COCとCOC+が拓く 地方創生と大学改革

日時 2016年10月29日(土) 12:30~18:00

場所 鹿児島大学稲盛会館 キミ&ケサ メモリアルホール(分科会:工学系講義棟)

<プログラム>

総司会: 木村 郁夫(鹿児島大学かごしまCOCセンター長)

1. 主催者あいさつ 12:30~12:40

前田 芳實(鹿児島大学長)

2. 来賓あいさつ 12:40~12:45

三反園 訓(鹿児島県知事)

3. 基調講演 12:45~13:45

塩田 康一(内閣府地方創生推進室次長)

「地方創生への取組みと今後の方向性」

4. 事例発表 13:45~14:45

- 休憩 / 会場移動 (14:45~15:00) -

5. 分科会 15:00~16:30

1) 第一分科会「大学が変わる」

2) 第二分科会「学生が動く」

3) 第三分科会「地域が紡ぐ」

- 休憩 / 会場移動 (16:30~16:45) -

6. パネルディスカッション 16:45~17:55

「大学が変わる × 学生が動く × 地域が紡ぐ = 地方創生」

<<パネリスト>>

塩田 康一(内閣府地方創生推進室次長)

國武 久登(宮崎大学みやだいCOC推進室長)

神代 眞宏(九州インターンシップ推進協議会事務局長)

若松 香澄(鹿児島大学法文学部3年)

<<コーディネーター>>

出口 英樹(鹿児島大学かごしまCOCセンター特任准教授)

7. 閉会あいさつ 17:55~18:00

福島 誠治(鹿児島大学産学官連携推進センター長)

◆情報交換会 18:30~20:00

場所: 鹿児島大学学習交流プラザ1階

■ 基調講演講師紹介 ■



塩田 康一
(内閣府地方創生推進室次長)

1965年鹿児島市生まれ。1988年、東京大学法学部卒業後、通商産業省（当時）に入省。これまで、地域活性化・まちづくり、環境、エネルギー、産業保安、人事などの多岐にわたる分野の政策を担当。また、大蔵省（人吉税務署）、自治省、外務省（在イタリア日本国大使館）、内閣府、産業技術総合研究所、特許庁など多くの府省庁・機関での勤務を経験。この数年は地方創生に関連する部署に在籍。特に、地方創生コンシェルジュ（鹿児島県担当）として、鹿児島県内の多くの地方自治体の総合戦略策定及びその実現に向けた取組みを支援

昭和63年	3月	東京大学法学部卒
昭和63年	4月	通商産業省入省、大臣官房総務課企画室に配属
平成2年	7月	資源エネルギー庁石炭部計画課総括係長
平成3年	6月	立地公害局立地政策課総括係長
平成4年	10月	資源エネルギー庁公益事業部業務課総括班長
平成6年	7月	大蔵省国税庁熊本国税局人吉税務署長
平成7年	7月	商務流通グループ商政課国際班長
平成8年	5月	自治省大臣官房地域政策室課長補佐
平成10年	6月	環境立地局保安課総括班長
平成13年	7月	内閣府原子力安全委員会事務局総務課総括課長補佐
平成14年	6月	外務省在イタリア日本国大使館参事官
平成17年	6月	商務情報政策局情報通信機器課環境リサイクル室長
平成18年	11月	(独)産業技術総合研究所能力開発部門長
平成20年	7月	特許庁長官官房秘書課長
(平成23年3月～5月 内閣府被災者対策支援本部参事官(物資・調整担当) 併任)		
平成23年	7月	製造産業局鉄鋼課長
平成24年	6月	中国経済産業局総務企画部長
平成25年	6月	地域経済産業グループ地域経済産業政策課長
平成26年	7月	内閣官房地域活性化統合事務局参事官
平成27年	7月	内閣府地方創生推進室参事官(総括担当)
平成28年	6月	内閣府地方創生推進室次長

■ 事例発表 ■

① 國武 久登 (宮崎大学みやだい COC 推進室長)

「大学 COC 事業から地域を志向する新学部設置へ」

宮崎大学では、大学 COC 事業の採択を機に、少人数教育やアクティブラーニングを取り入れた基礎（共通）教育に全学カリキュラムを改革すると共に、新学部「地域資源創成学部」を設置した。本発表では、本学の地域志向教育改革の全学を挙げた取組について紹介する。

② 若松 香澄 (鹿児島大学法文学部3年)

「かごんまのよかとこ発信プロジェクト」

鹿児島の大学生が鹿児島で働く社会人を通じて鹿児島の魅力を発見し、高校生や大学生に対して“就活”や“働くこと”をより身近に感じてもらうプロジェクトについて紹介する。また、企業の情報発信や社会人との交流会を通じて実感している、学生の地域貢献活動への動機や大学・地域との連携の在り方や要望等を報告する。

③ 齊藤 拓馬 (九州インターンシップ推進協議会事務局書記)

「産学官連携による地域の人材育成について」

当協議会は産学官連携かつ協議会形式で年間1,000名を超える学生が就業体験を行う組織となり、設立から16周年を迎えている。地域をあげての人材育成に主軸に置いた、組織運営・仕組みや取り組んでいるインターンシップの種類と今後の展開について紹介する。

■ 分科会 ■

<第1分科会：「大学が変わる」> 工学系講義棟131号講義室（3F）

【討議内容】

①趣 旨
九州・沖縄地区の国公私立大学が進めている「大学（組織）改革」、「教育（カリキュラム）改革」、「地域貢献活動」の取組報告をもとに、「地域再生・活性化の拠点」となる大学のあり方について議論・考察し、今後の大学のあり方を探る。

②視 点
・大学（組織）改革
・教育（カリキュラム）改革
・地域貢献活動

*座長：
富永 茂人（鹿児島大学かごしまCOCセンター特任教授）

*話題提供者
1) 石川 雄一（大分大学学長特別補佐／COC+推進担当）
2) 伊藤 奈賀子（鹿児島大学教育センター准教授）
3) 三島 伸雄（佐賀大学工学系研究科教授／COC事業実施責任者）
4) 枚田 邦宏（鹿児島大学農学部教授）
5) 影山 隆之（大分県立看護科学大学看護学部教授／看護研究交流センター長）
6) 遠藤 光男（琉球大学法文学部教授／コミュニティキャンパス事業本部長）

<第2分科会：「学生が動く」> 工学系講義棟121号講義室（2F）

【討議内容】

①趣 旨
「学生が主体的に動くにはどうしたら良いか」をテーマに、学生や大学関係者などで議論・考察し、地域課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するための大学や地域のあり方を探る。

②視 点
・学生の地域貢献意欲醸成
・大学の指導・支援体制
・地域の受入体制

*座長：
牧野 暁世（鹿児島大学産学官連携推進センター特任助教）

*話題提供者
1) 岡部 由紀夫（西九州大学健康福祉学部講師／COC事業プロジェクトJ）
2) 吉村 充功（日本文理大学工学部教授／学長室長）
3) 中谷 賢人（「つながり大作戦」代表／愛媛大学3年）
4) 高橋 空雅（「ORBIS KAGOSHIMA」代表／北九州市立大学3年）

<第3分科会：「地域が紡ぐ」> 工学系講義棟111号講義室（1F）

【討議内容】

①趣 旨
地域活性化や学生の地元定着を促進するために、大学と自治体や企業等との協働のあり方などについて意見交換を行い、課題や課題克服への取組などを探る。

②視 点
・大学と地域社会が連携した地域活性化の取組
・地域と連携した地域志向人材の育成
・学生の地元定着と地元企業や自治体の受入体制

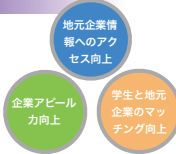
*座長：
井上 佳朗（鹿児島大学産学官連携推進センター特任教授）

*話題提供者
1) 日高 政勝（鹿児島県さつま町長）
2) 田中 ひろみ（北九州市立大学地域戦略研究所特任准教授／COC+事業コーディネーター）
3) 大久保 幸夫（鹿児島国際大学副学長）
4) 鶴ヶ野 未央（株式会社九州タブチ社長）

7 鹿児島大学COC+パンフレット

3. 就職支援

学卒者の地元就職率の向上を図るためには、地元企業をよく知ってもらうことが重要と考えています。COC+推進コーディネーターによる企業訪問によって学卒者受入企業の把握を行うとともに、学生支援コーディネーターを就職支援センターに配置し学生と地元企業とのマッチングを図ります。



4. 既存雇用の拡大と新規雇用の創出

(1) 既存雇用の拡大

地元の既存企業等は、県内における雇用の受け皿として、今後も大きなキャパシティを有しています。高等教育を受けた学卒者の活躍の場を地元企業等において積極的に作り出し、彼らの能力を活用して事業の拡大に繋げていくことが重要です。

(2) 新規雇用の創出

かごしまCOC+事業では、有力な新産業分野として食・健康とバイオマスエネルギー、観光と環境保全などの分野を中心に、新規事業の立ち上げを支援していきます。

<ul style="list-style-type: none"> 農林畜産・水産業を活性化する食・健康とバイオ関連 	<ul style="list-style-type: none"> 食の情報発信の高度化や「農畜産システム」のIT化推進 機能性飼料（飼） 農林畜産及び水産業の6次産業のIT化 地域産品の販路拡大支援のための商談会の拡大 産摩輪（黒糖含む）の6次産業化 高度分析のための試薬や分析機器の提案
<ul style="list-style-type: none"> 自然・歴史・文化・食を活かした観光と環境保全 	<ul style="list-style-type: none"> 専用機器を使った新しい観光案内システム 県外及びインバウンド宿泊者へ提供可能な情報の収集と統合 観光のIT化 ホテル事業及び運輸事業の拡大 Eコマースへの対応や環境保全

県内企業アンケート調査（平成27年6月）の結果より

(3) 学卒者の活躍機会の創出と待遇の向上

受け入れ側は、学卒者が卒業までに磨いた知識や技能を生かした活躍できる機会を積極的に作り出すとともに、彼らの成長を支援し組織活動の更なる活性化に資する研修機会の付与など、その活躍に相応しい待遇の向上が求められます。

制作・発行 鹿児島大学学官連携推進センター-COC+推進部門 2016年10月
〒890-0065 鹿児島市都元1-21-40
☎ : 099-285-6487 | plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム



国立大学法人
鹿児島大学

1. 地方創生と「かごしまCOC+事業」

(1) 事業の目的

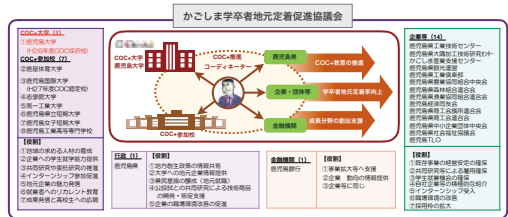
- 地方創生の中心となる「ひと」が鹿児島で就業・定着することを支援します。
- 教育改革を推進し地元で活躍できる資質を備えた人材を養成します。
- 既存雇用に加え新規事業創出による新たな就職先を創出します。



食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム概念図



(2) 「オールかごしま」の推進体制



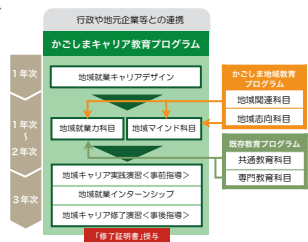
2. 鹿児島大学の地域人材育成「かごしまキャリア教育プログラム」

目指す人物像 地域の課題や魅力を理解し率先して現場のパフォーマンスを高め組織及び地域の発展に寄与することのできる中核的人材

(1) 充実した地域志向教育：地域マインドの涵養と地域就業力の修得

キャリアデザインの観点から地元の特性を理解しその活性化を志向する「地域マインド」、経営的センスや創造力・企画力などの「地域就業力」を備えた学生を育成します。

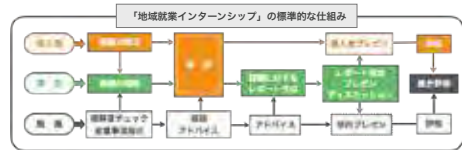
(2) PBL型のアクティブラーニングと多様な経験の機会を提供



*PBL: Problem-based learning 又は Project-based learning

(3) 濃密な現場実習「地域就業インターンシップ」

現場実習を通してリアリティに富んだ就業イメージを獲得し、職業人としての基礎力を磨きます。従来とはひと味違ったPBL型の長期インターンシップを計画しています。



(4) 「修了証明書」の発行

「かごしまキャリア教育プログラム」の所定の単位を修得すると、鹿児島での就職活動に有効利用できる修了証明書が発行されます。

8 企業説明会などのチラシ

鹿児島県商工会議所連合会

就活応援フェア
「合同就職面談会 & 就職講座」 2016年 6月25日(土)
 シヤトルバス運行!
 鹿児島大学 学習交流プラザ
 鹿児島県鹿児島1-21-24
 10:00~11:15 就職講座
 12:30~16:30 合同就職面談会
 13:30~14:15、14:30~16:15 企業交流セミナー

鹿児島で働かんけー?
合同企業説明会
 鹿児島の企業160社(予定)が集結!!
2017.3.28 火 【受付】12:30~15:30 【説明会】13:00~17:00
 城山観光ホテル
 エメラルドホール・ロイヤルガーデン
 ロンブーの淳さんと「酒口午後」について考える!
 2018年3月卒業予定の学生
 ~既卒3年以内の若年者~
 ★個別ブース形式の懇話会★
 この説明会は、①セットタイム及フリータイムの2つの時間に分かれている説明会です。
 問合せ先: 県庁雇用対策課 電話099-286-3028 本館相談センター 鹿児島支店4F401-7 検索
 鹿児島県若者就職サポートセンター 電話099-216-9001 (受付事業部 鹿児島県工業団地)
 主催: 鹿児島県・鹿児島県若者就職サポートセンター・鹿児島労働局

鹿児島銀行

「鹿児島銀行と学生でつくる地方創生プロジェクト」
明日誰かに話したくなる 企業の話!
 人材はいる? 社内の雰囲気は? 女性の働きやすさは? やりがいは?
「地元企業との意見交換会」
 日時 **2017年1月28日(土)**
 会場 鹿児島大学 学習交流プラザ
 鹿児島県鹿児島市鹿児島1-21-24
 前1部 9:30~12:00 企業数:25社 学生数:125名
 前2部 13:30~16:00 企業数:25社 学生数:125名
 (主催) 鹿児島銀行 (共催) 鹿児島県商工会議所 TEL.099-239-9718
 (協賛) 鹿児島大学 (4F401)鹿児島銀行COC+相談室

鹿児島銀行と学生でつくる 地方創生プロジェクト
 “地元で働くってどういうことだろう?”
 “県内企業ってどういうところがあるのだろう?”
 学生のみならずご両親も抱いているかもしれません。
 そんな学生のみならずのために、鹿児島銀行は県内企業との意見交換会を企画しました。鹿児島銀行はこの意見交換会を“学生のためになる”会にするために、県内大学3校3名の学生と一緒に企画を進めています。
 みなさん、お気軽にご参加下さい。お待ちしております!!
 懇話会に参加している各機関
 鹿児島大学・鹿児島県立中央大学・鹿児島純心女子短期大学・鹿児島純心女子大学
 鹿児島県立大学・鹿児島女子短期大学・第一高等学校・徳島県立大学

I 事業協働機関との連携
 II COC+参画校の事業実績
 III 主要な取り組み
 IV 就業支援・地元企業と学生のマッチング
 V 企業及び学生に関する調査
 VI 広報活動
 VII 資料

9 会 議

かごしま学卒者地元定着促進協議会

事業協働機関名	職名	備考
鹿児島大学	学長	COC + 事業推進代表者・議長
	理事・副学長（研究担当）	副議長
	理事・副学長（教育担当）	COC + 教育プログラム 開発委員会委員長
	産学官連携推進センター長	COC + 事業推進責任者
鹿屋体育大学	学長	
鹿児島国際大学	学長	
志学館大学	学長	
第一工業大学	学長	
鹿児島県立短期大学	学長	
鹿児島女子短期大学	学長	
鹿児島工業高等専門学校	校長	
鹿児島県	企画部次長	
鹿児島県工業技術センター	所長	
鹿児島県大隅加工技術研究センター	所長	
(公財) かがしま産業支援センター	事務局長	
(公社) 鹿児島県観光連盟	専務理事	
(公社) 鹿児島県工業倶楽部	事務局長	
鹿児島県農業協同組合中央会	専務理事	
鹿児島県森林組合連合会	代表理事専務	
鹿児島県漁業協同組合連合会	参事	
鹿児島経済同友会	事務局長	
鹿児島県商工会議所連合会	常任幹事	
鹿児島県商工会連合会	事務局長	
鹿児島県中小企業団体中央会	事務局長	
(社福) 鹿児島県社会福祉協議会	事務局次長	
(株) 鹿児島 TLO	代表取締役	
(株) 鹿児島銀行	地域開発部長	
	COC+ 推進コーディネーター	

COC+教育プログラム開発委員会

事業協働機関名	職名	備考
鹿児島大学	理事・副学長（教育担当）	委員長
	産学官連携推進センター長	COC+ 事業推進責任者
	産学官連携推進センター COC + 推進部門長	副委員長
鹿屋体育大学	キャリア形成支援室長	
鹿児島国際大学	副学長・産学官地域連携センター長	
志学館大学	学長補佐（学務担当）	
第一工業大学	工学部長	
鹿児島県立短期大学	教務委員長	
鹿児島女子短期大学	図書館長 兼 地域連携センター長	
鹿児島工業高等専門学校	副校長（教務主事）	
鹿児島県	雇用労政課長	
（公社）鹿児島県観光連盟	事務局長	
鹿児島県農業協同組合中央会	総合対策部長	
鹿児島県漁業協同組合連合会	課長補佐	
鹿児島県商工会議所連合会	事務局長	
鹿児島県中小企業団体中央会	総務企画課長兼組織振興課長	
	COC+ 推進コーディネーター	

I 事業協働機関との連携

II COC+参画校の
事業実績

III 事業協働機関の
主要な取り組み

IV 就業支援・地元企業と
学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

料

10 連絡先

COC+大学及びCOC+参加校

COC+ 大学

鹿児島大学

〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-40 TEL : 099-285-6487

担当部署 ▶ 産学官連携推進センター COC+ 推進部門

✉ plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

COC+ 参加校

鹿屋体育大学

担当部署 ▶ 教務課キャリア支援係

〒 891-2393 鹿屋市白水町 1

TEL : 0994-46-4883

✉ gaku-in@nifs-k.ac.jp

第一工業大学

担当部署 ▶ 社会連携センター

〒 899-4332 霧島市国分中央 1-10-2

TEL : 0995-47-0593

✉ renkei@daiichi-koudai.ac.jp

鹿児島国際大学

担当部署 ▶ 産学官地域連携センター

〒 891-0197 鹿児島市坂之上 8-34-1

TEL : 099-263-0686

✉ sakoda@ofc.iuk.ac.jp
sangakukan@ofc.iuk.ac.jp

鹿児島県立短期大学

担当部署 ▶ 学生部学生課

〒 890-0005 鹿児島市下伊敷 1-52-1

TEL : 099-220-1112

✉ kentangaku@pref.kagoshima.lg.jp

志学館大学

担当部署 ▶ 進路支援センター

〒 890-8504 鹿児島市紫原 1-59-1

TEL : 099-812-8507

✉ career@shigakukan.ac.jp

鹿児島女子短期大学

担当部署 ▶ 地域連携センター

〒 890-8565 鹿児島市 高麗町 6-9

TEL : 099-254-9191

✉ syomu@jkajyo.ac.jp

鹿児島工業高等専門学校

担当部署 ▶ 総務課企画室

〒 899-5193 霧島市隼人町真孝 1460-1

TEL : 0995-42-9020

✉ kikaku@kagoshima-ct.ac.jp

事業協働機関

	窓口（部署）	連絡先	電話
鹿児島県	企画部企画課	鹿児島市鴨池新町 10-1	099-286-2324
鹿児島県	雇用労政課支援係	鹿児島市鴨池新町 10-1	099-286-3011
鹿児島県 工業技術センター	企画支援部	霧島市隼人町小田 1445-1	0995-43-5111
鹿児島県大隅加工 技術研究センター	次長	鹿屋市串良町細山田 4938 番地	0994-31-0314
(公財) かがしま産業 支援センター	産学官連携課	鹿児島市名山町 9 番 1 号 鹿児島県産業会館 2 階	099-214-4770
(公社) 鹿児島県 観光連盟	事務局	鹿児島市名山町 9 番 1 号 鹿児島県産業会館内	099-223-5771
(公社) 鹿児島県 工業倶楽部	事務局	鹿児島市名山町 9 番 1 号 鹿児島県産業会館 中 2 階	099-225-8012
鹿児島県 農業協同組合中央会	総務課（役員担当）	鹿児島市鴨池新町 15	099-258-5105
鹿児島県 森林組合連合会	参事	鹿児島市山下町 9 番 15 号 財団法人鹿児島県林業会館 3 階	099-226-9471
鹿児島県 漁業協同組合連合会	総務指導室	鹿児島市城南町 37-2	099-253-7811
鹿児島経済同友会	事務局	鹿児島市名山町 1-3 鹿児島ビル 8 階	099-222-4492
鹿児島県 商工会議所連合会	会員サービス部	鹿児島市東千石町 1-38 鹿児島商工会議所内	099-225-9522
鹿児島県 商工会連合会	事務局	鹿児島市名山町 9 番 1 号 鹿児島県産業会館 6 階	099-226-3773
鹿児島県 中小企業団体中央会	総務企画課	鹿児島市名山町 9 番 1 号 鹿児島県産業会館 5 階	099-222-9258
(社福) 鹿児島県 社会福祉協議会	福祉人材・研修センター	鹿児島市鴨池新町 1-7 県社会福祉センター内	099-258-7888
(株) 鹿児島 TLO		鹿児島市郡元一丁目 21 番 40 号 鹿児島大学内	099-284-1631
(株) 鹿児島銀行	地域開発部	鹿児島県鹿児島市金生町 6-6	099-239-9829

I 事業協働機関との連携

II COC+ 参画校の
事業実績III 事業協働機関の
主要な取り組みIV 就業支援・地元企業と
学生のマッチング

V 企業及び学生に関する調査

VI 広報活動

VII 資料

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム
平成 28 年度 事業報告書

発行日 平成 29 年 3 月
発 行 鹿児島大学 産学官連携推進センター COC+ 推進部門
〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-40
TEL : 099-285-6487 FAX : 099-285-8495
E-mail : plus01@gm.kagoshima-u.ac.jp

